

人権に関する意識調査報告書

令和3年3月

宮 津 市

目 次

第1章 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	1

第2章 調査結果

1 回答者属性	3
2 人権問題への関心等	4
3 差別に対する法律について	7
4 部落問題や同和地区に関する意識等	11
5 世の中のあり方や人間関係についての考え	18
6 人権侵害の状況	23
7 因習やしきたりに対する考え	30
8 同和問題に対する発言を聞いた状況及び考え	34
9 家族に関する見方や考え方	41
10 子どもに受けさせたい教育の程度	47
11 外国人雇用についての考え	49
12 子どもの人権に関する意見や考え方	54
13 国民の権利として憲法で決められていると思うもの	58
14 人権侵害に関することがらに対する考え	60
15 WEB上への書き込みに対する考え	69

資料編（調査票様式）

調査票見本『令和2年度宮津市人権に関する市民意識調査』	71
-----------------------------------	----

第 1 章 調査の概要

1 調査目的

本調査は、市民の人権問題に対する考えを把握するとともに、今後の人権教育及び啓発活動に生かしていくための検討資料とすることを目的とする。

2 調査設計

(1) 調査対象

宮津市に在住の18歳以上の市民から2,400人を無作為抽出

(2) 抽出方法

住民基本台帳から、市内の性別・年齢別構成を考慮し、2,000人を層化抽出した（これを標準サンプルという。）回収率が低いとみられる18～19歳、20～29歳、30～39歳については、別に400人を抽出し、これを追加した（これを追加サンプルという。）

(3) 調査方法

郵送配付・郵送回収

(4) 調査期間

令和2年10月1日～10月25日

3 回収結果

有効回収数：1,105件（有効回収率：46.0%）

（このうち 標準サンプル：977件、追加サンプル：128件）

4 報告書の見方

(1) 調査結果を総数、男女別で示す場合は、市内の性別・年齢別構成を反映した2,000人（標準サンプル）についてのデータ（有効回答数977件）で示し、年齢別に調査結果を示す場合は、18～19歳と20～29歳、30～39歳に追加分400人（追加サンプル）についてのデータ（有効回答数128人）を加えたもので示している。

(2) 図中のn（number of case）は、設問に対する回答者数のことである。

総数と性別における集計は、満18歳以上の男女2,000人の有効回答数である977件を対象し、年齢別における集計は満18歳以上の男女2,000人と満18歳以上39歳以下の男女400人の有効回答数である1,105件を対象としている。

(3) 回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。そのため、四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、複数の回答を求める設問では、回答比率（%）の計は100.0%を超える。

なお、回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があることに留意が必要。

(4) 図中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。

・ MA%（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

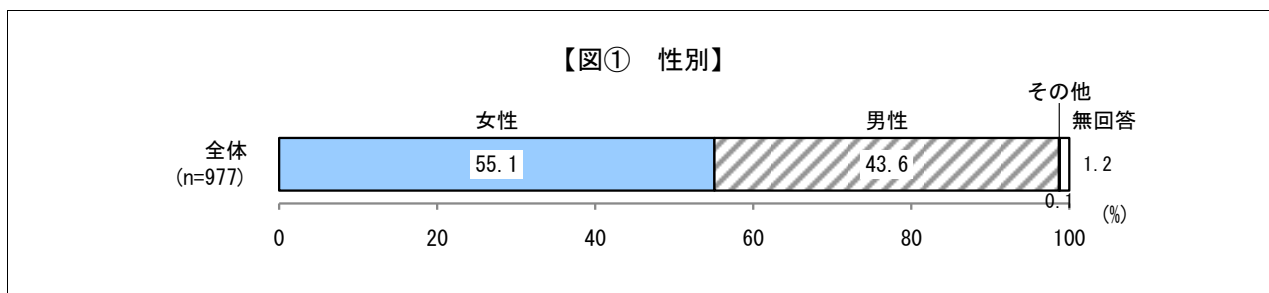
(5) 過去調査（平成27年度及び平成21年度）との比較については、該当する項目についてのみ掲載しており、新規項目については省略している。

(6) 全国調査との比較については、「部落差別の実態に係る調査（法務省） 令和2年6月調査」を参考としている。

第2章 調査結果

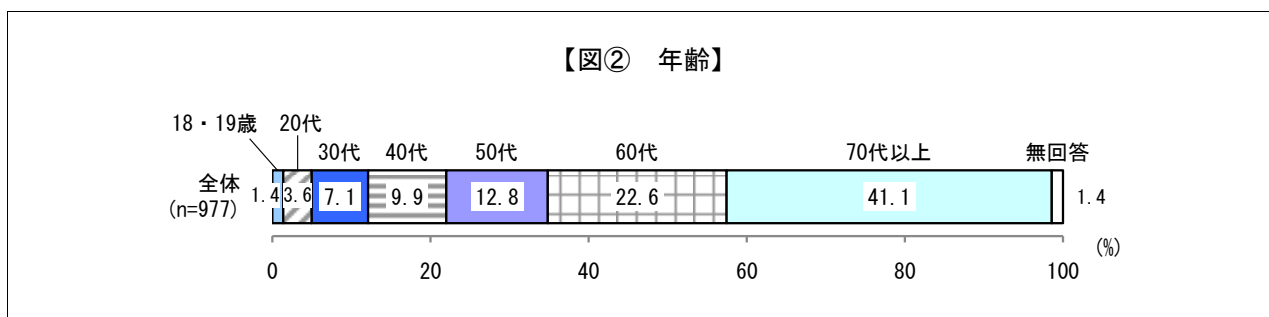
1 回答者属性

(1) 性別



回答者の性別としては、「女性」が 55.1% に対し、「男性」が 43.6% となっている。

(2) 年齢



回答者の年齢としては、「70代以上」が 41.1% と最も多く、次いで「60代」が 22.6% となっており、60代以上が 63.7% を占める。

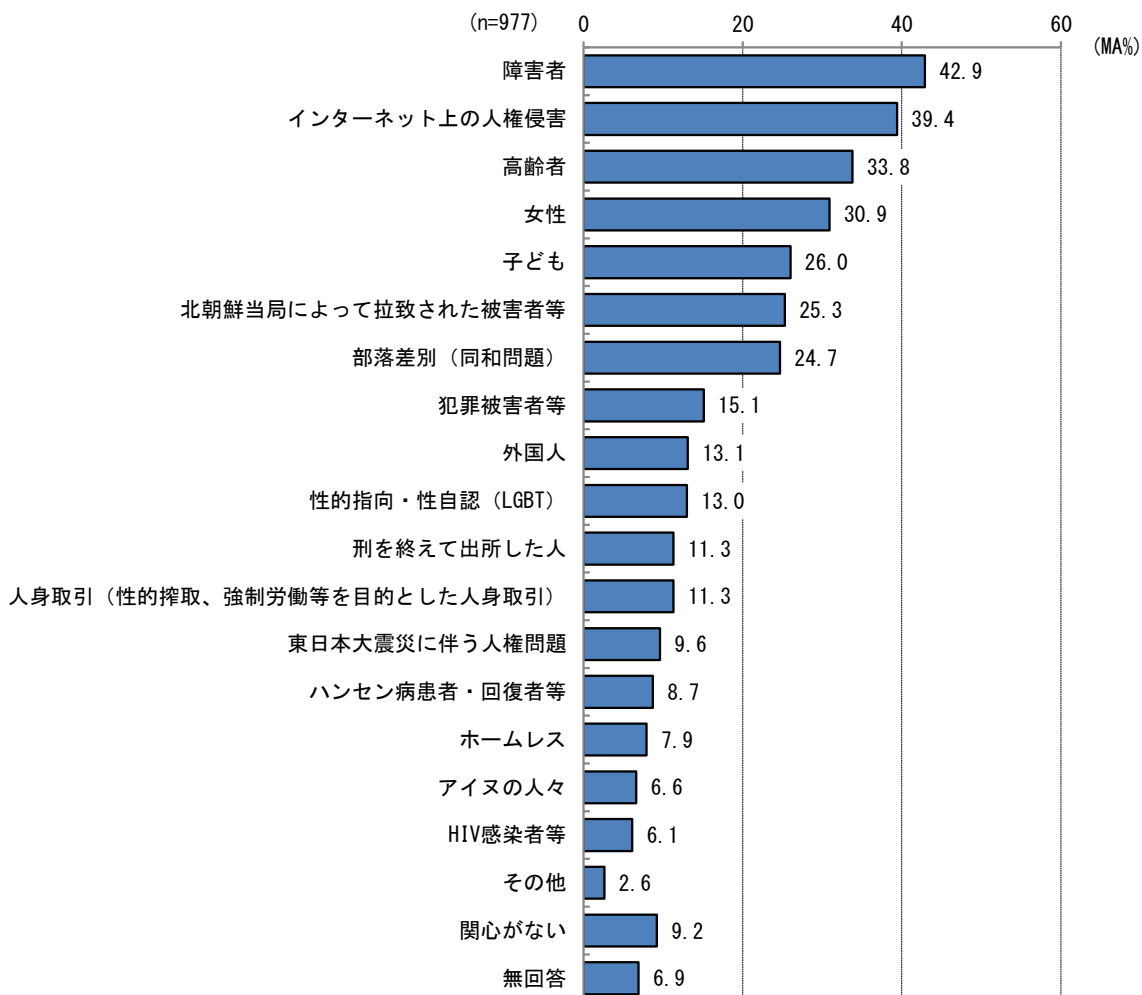
したがって、今回の調査結果は、男性よりも女性、若年者よりも高齢者の回答傾向がそれぞれ強く表れているといえる。

2 人権問題への関心等

(1) 関心のある人権問題

問1 日本における人権問題について、あなたの関心があるものはどれですか。
該当するものをいくつでもあげてください。

【図 1-1 関心のある人権問題】



関心のある人権問題としては、「障害者」の人権問題が 42.9%で最も多く、次いで「インターネット上の人権侵害」の問題が 39.4%、「高齢者」の人権問題が 33.8%、「女性」の人権問題が 30.9%となっている。

【表 1-1-1 性別・年齢別 関心のある人権問題】

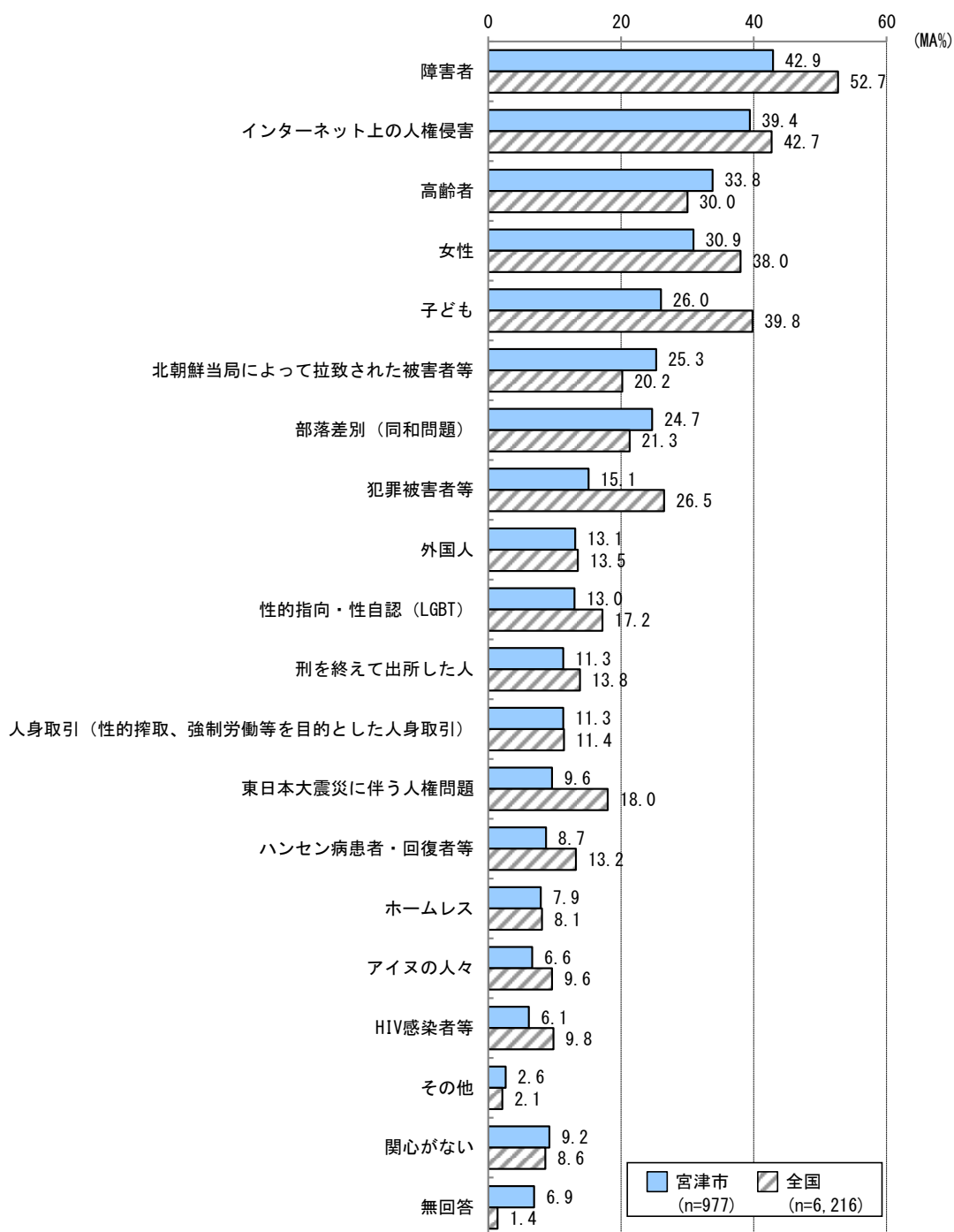
(上段：人、下段：%)

		全体	障害者	インターネット上の人権侵害	高齢者	女性	子ども	北朝鮮当局によって拉致された被害者等	部落差別（同和問題）	犯罪被害者等	外国人	性的指向・性自認（LGBT）	刑を終えて出所した人	人身取引（性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引）	東日本大震災に伴う人権問題	ハンセン病患者・回復者等	ホームレス	アイヌの人々	HIV 感染者等	その他	関心がない	無回答
性別	女性	538	229	228	208	223	154	137	113	80	52	76	59	55	61	49	42	37	35	9	44	43
		100.0	42.6	42.4	38.7	41.4	28.6	25.5	21.0	14.9	9.7	14.1	11.0	10.2	11.3	9.1	7.8	6.9	6.5	1.7	8.2	8.0
性別	男性	426	188	155	120	77	99	110	125	68	76	51	51	55	33	36	34	27	25	15	45	18
		100.0	44.1	36.4	28.2	18.1	23.2	25.8	29.3	16.0	17.8	12.0	12.0	12.9	7.7	8.5	8.0	6.3	5.9	3.5	10.6	4.2
年齢別	18・19歳	30	14	12	9	8	13	-	6	2	7	10	-	1	1	3	2	1	2	-	2	1
		100.0	46.7	40.0	30.0	26.7	43.3	-	20.0	6.7	7.3	33.3	-	3.3	3.3	10.0	6.7	3.3	6.7	-	6.7	3.3
	20代	79	32	38	14	32	30	6	16	8	17	19	7	6	6	3	6	3	6	1	6	4
		100.0	40.5	48.1	17.7	40.5	38.0	7.6	20.3	10.1	21.5	24.1	8.9	7.6	7.6	3.8	7.6	3.8	7.6	1.3	7.6	5.1
	30代	133	54	62	21	53	45	20	24	24	23	31	22	11	15	8	12	6	5	9	9	3
		100.0	40.6	46.6	15.8	39.8	33.8	15.0	18.0	18.0	17.3	23.3	16.5	8.3	11.3	6.0	9.0	4.5	3.8	6.8	6.8	2.3
	40代	100	50	50	21	37	40	14	26	18	17	24	8	8	7	10	6	5	6	4	10	2
		100.0	50.0	50.0	21.0	37.0	40.0	14.0	26.0	18.0	17.0	24.0	8.0	8.0	7.0	10.0	6.0	5.0	6.0	4.0	10.0	2.0
50代	125	63	68	32	39	32	24	35	21	18	21	18	10	10	13	9	7	11	3	11	5	
	100.0	50.4	54.4	25.6	31.2	25.6	19.2	28.0	16.8	14.4	16.8	14.4	8.0	8.0	10.4	7.2	5.6	8.8	2.4	8.8	4.0	
60代	222	91	96	67	69	52	61	60	40	37	30	27	28	24	24	21	24	15	4	21	19	
	100.0	41.0	43.2	30.2	31.1	23.4	27.5	27.0	18.0	16.7	13.5	12.2	12.6	10.8	10.8	9.5	10.8	6.8	1.8	9.5	8.6	
70代以上	402	161	120	183	118	93	131	101	51	35	25	43	57	44	33	31	23	23	8	33	32	
	100.0	40.0	29.9	45.5	29.4	23.1	32.6	25.1	12.7	8.7	6.2	10.7	14.2	10.9	8.2	7.7	5.7	5.7	2.0	8.2	8.0	

性別で見ると、男女ともに「障害者」の人権問題が最も多く、女性は 42.6%、男性は 44.1% となっている。また、「女性」の人権問題の割合は、男性（18.1%）より女性（41.4%）のほうが 23.3 ポイント高く、男女の差が大きく出ている。

年齢別で見ると、「障害者」の人権問題が、すべての世代で 4 割以上となっている。「インターネット上の人権侵害」の問題では 50 代が 54.4% で最も高い割合になっており、「子ども」の人権問題では 18・19 歳が 43.3% で最も高い割合になっている。

【図 1-1-1 全国比較 関心のある人権問題】



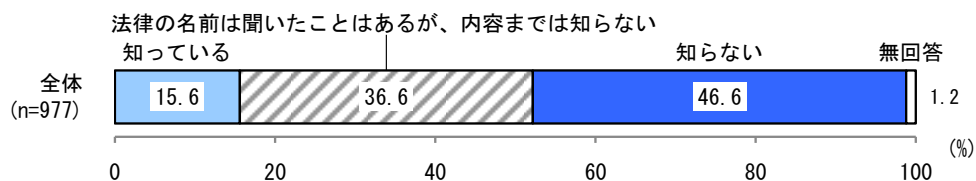
全国調査と比較すると、「高齢者」「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」「部落差別（同和問題）」の各人権問題の割合は本市のほうが高くなっているが、それら以外の人権問題の割合では本市のほうが低く、なかでも「子ども」の人権問題と「犯罪被害者等」の人権問題については10ポイント以上低くなっている。

3 差別に対する法律について

問2 法律についてお尋ねします。

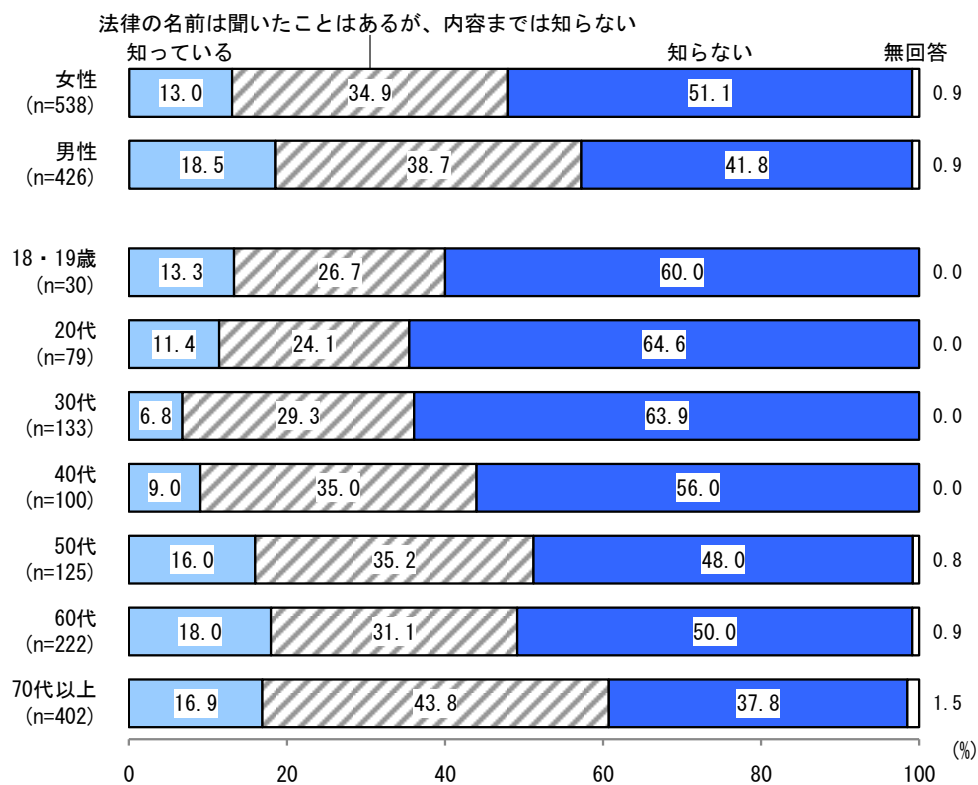
(1) あなたは、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」を知っていますか。(1つに○)

【図 2-1 部落差別解消推進法の認知度】



部落差別解消推進法の認知度について、「知らない」が46.6%で最も多く、次いで「法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」が36.6%、「知っている」が15.6%となっている。

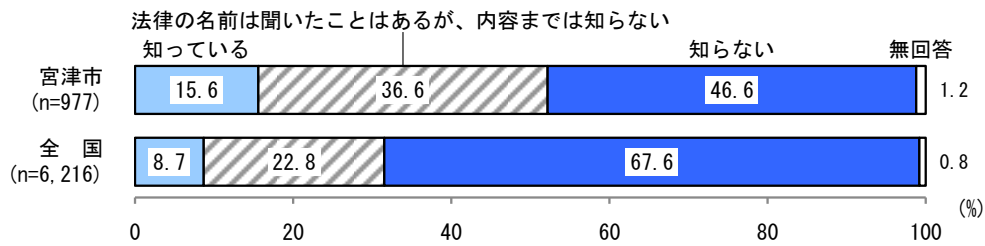
【図 2-1-1 性・年齢別 部落差別解消推進法の認知度】



性別でみると、「知らない」割合は、男性より女性のほうが高くなっている。

年齢別でみると、「知らない」割合は、年齢が上がるほど低い傾向となっている。

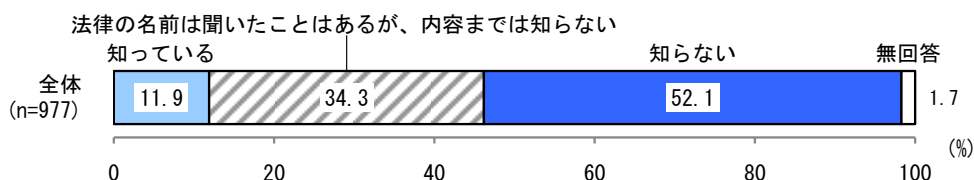
【図 2-1-2 全国比較 部落差別解消推進法の認知度】



全国調査と比較すると、本市ほうが、「知っている」で 6.9 ポイント、「法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」で 13.8 ポイント高い割合になっている。

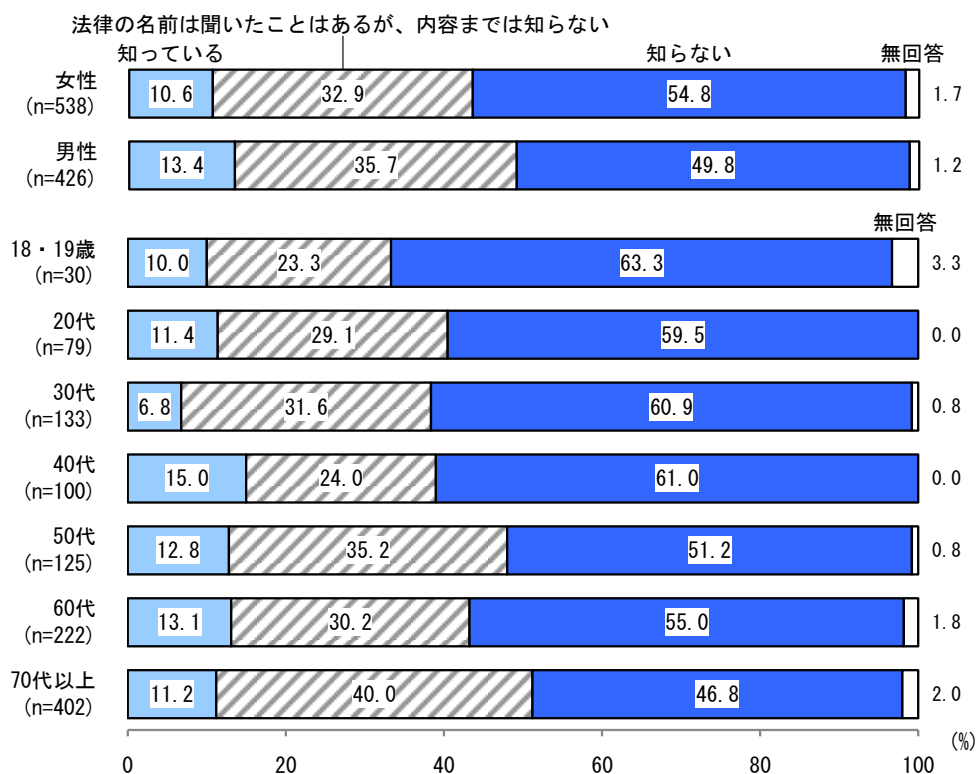
(2) あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていますか。（1つに〇）

【図 2-2 障害者差別解消法の認知度】



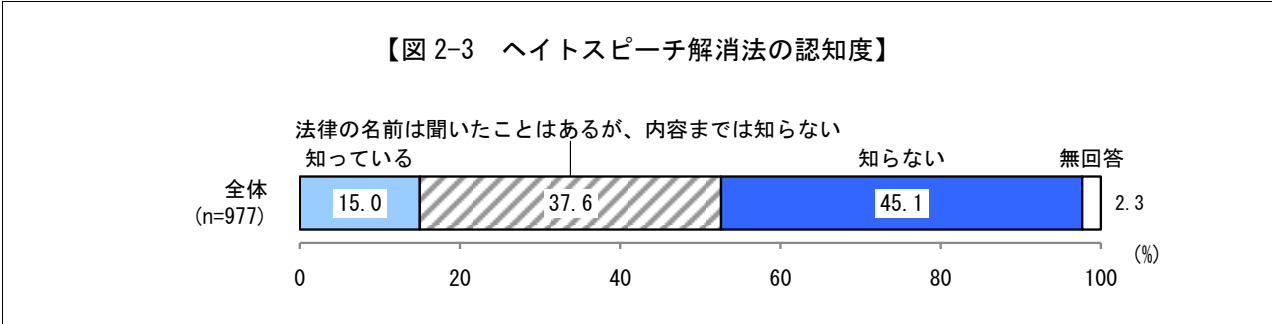
障害者差別解消法の認知度について、「知らない」が52.1%で最も多く、次いで「法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」が34.3%、「知っている」が11.9%となっている。

【図 2-2-1 性別・年齢別 障害者差別解消法の認知度】



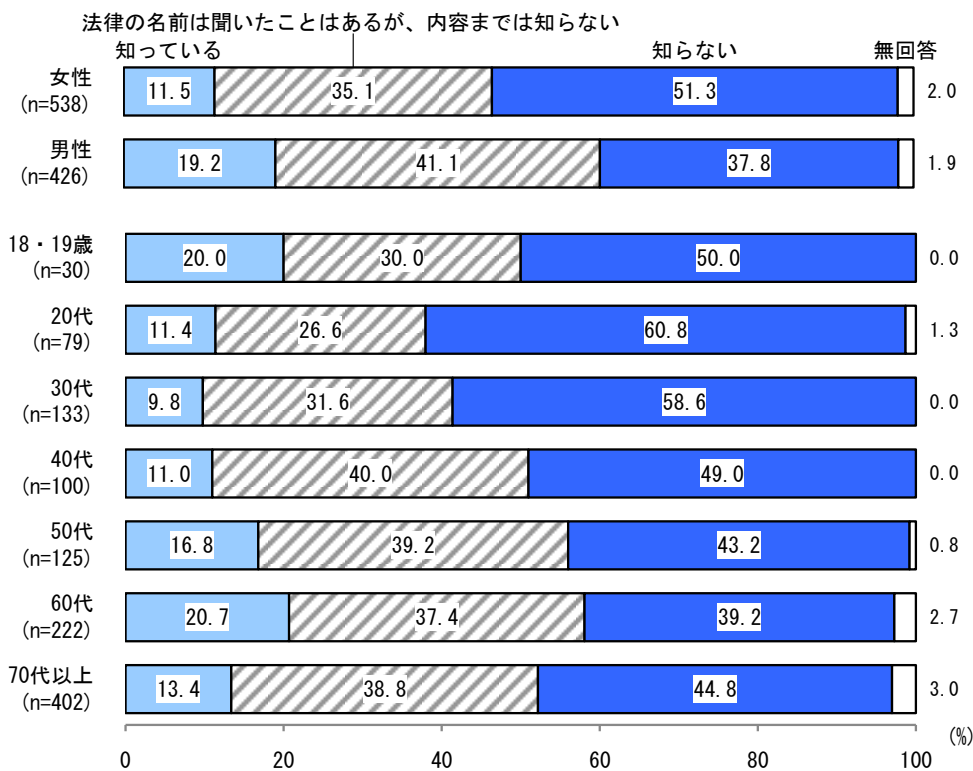
性別で見ると、「知らない」割合は、男性より女性のほうが高くなっている。
年齢別で見ると、「知らない」割合は、年齢が上がるほど低い傾向となっている。

(3) あなたは、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)」を知っていますか。(1つに○)



ヘイトスピーチ解消法の認知度について、「知らない」が 45.1%で最も多く、次いで「法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 37.6%、「知っている」が 15.0%となっている。

【図 2-3-1 性別・年齢別 ヘイトスピーチ解消法の認知度】



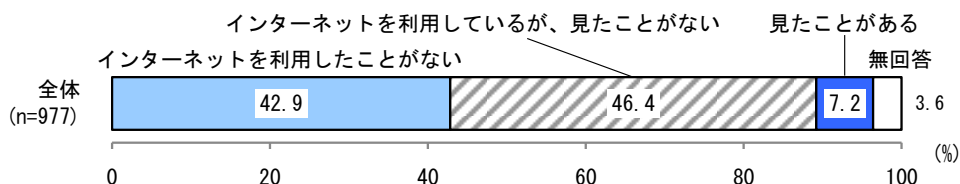
性別でみると、「知らない」割合は、男性より女性のほうが高くなっている。
 年齢別でみると、「知らない」割合は、20代で 60.8%と最も高くなっている。

4 部落問題や同和地区に関する意識等

(1) 部落差別に関する人権侵害事例

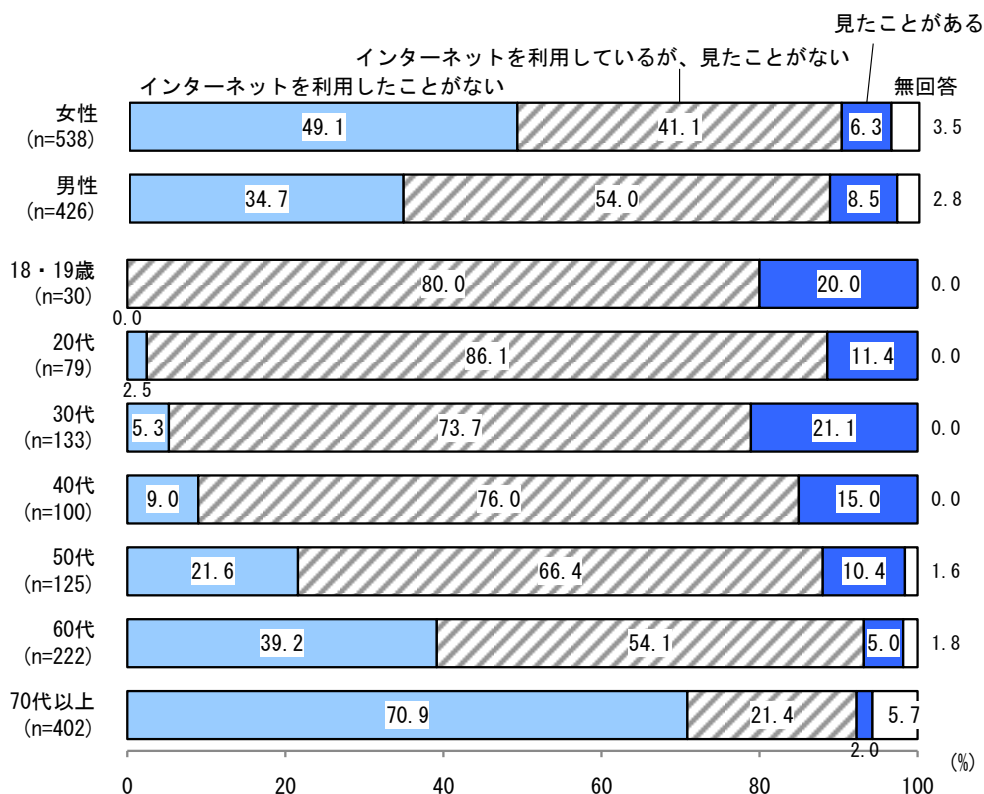
問3 あなたは、部落差別の問題に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがありますか。(1つに○)

【図 3-1 インターネット上での人権侵害事例を見たことがあるか】



インターネット上での人権侵害事例を見たことがあるかについて、「インターネットを利用しているが、見たことがない」が46.4%で最も多く、次いで「インターネットを利用したことがない」が42.9%、「見たことがある」が7.2%となっている。

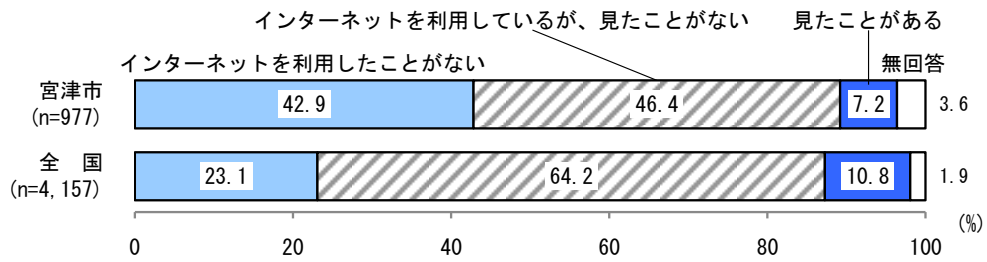
【図 3-1-1 性別・年齢別 インターネット上での人権侵害事例を見たことがあるか】



性別でみると、「見たことがある」は女性が6.3%、男性が8.5%となっている。

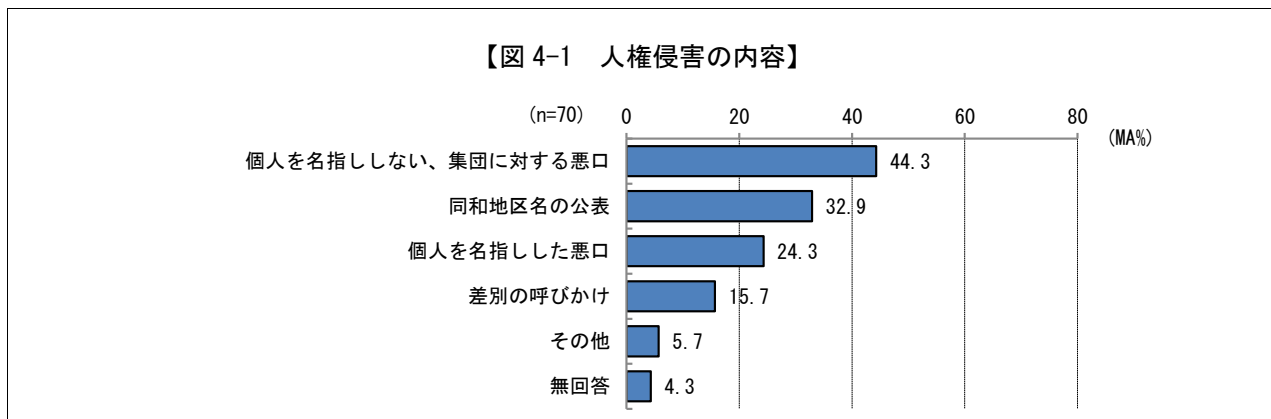
年齢別でみると、「インターネットを利用したことがない」割合は、年齢が上がるほど高くなっている。また、インターネット利用率が高い若年層のほうで「見たことがある」割合が高くなっており、特に18・19歳、30代では2割台となっている。

【図 3-1-2 全国比較 インターネット上での人権侵害事例を見たことがあるか】



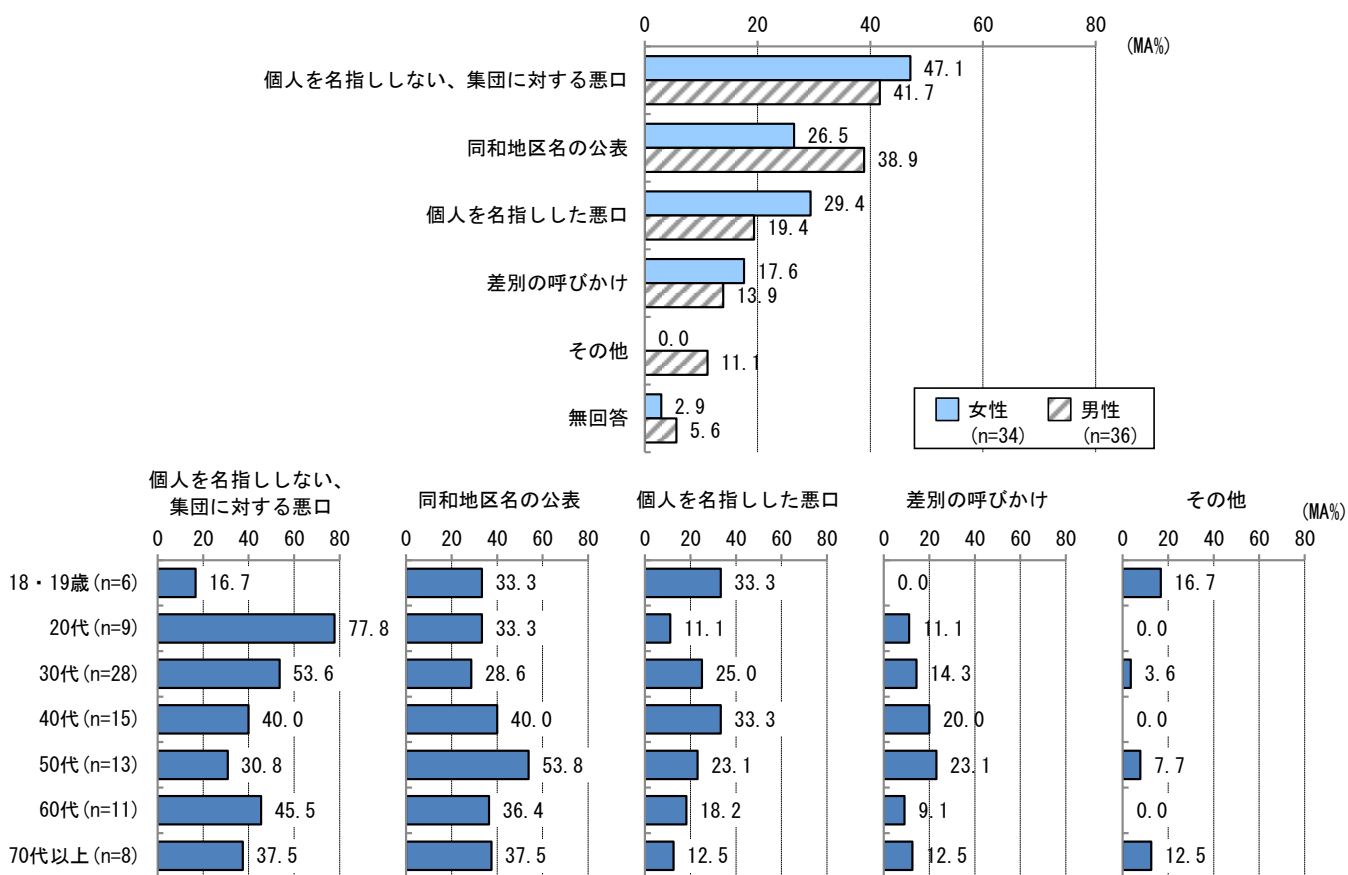
全国調査と比較すると、「見たことがある」割合は、本市のほうが3.6ポイント低くなっている。一方、「インターネットを利用したことがない」では19.8ポイント差で本市のほうが高い割合になっている。

問4 問3で「見たことがある」を選択された方にお尋ねします。
 どのような内容のものを見ましたか。(〇はいくつでも)



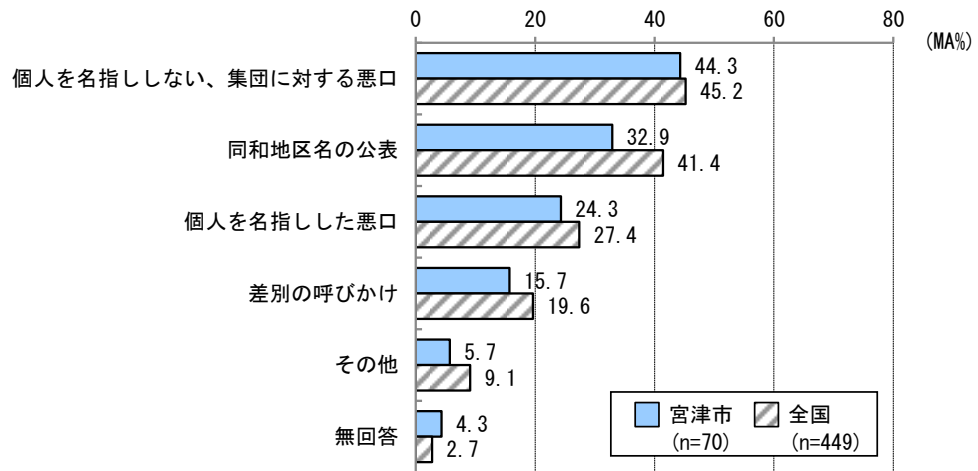
インターネット上で人権侵害事例を見たことがあると回答した人に、その内容をたずねると、「個人を名指ししない、集団に対する悪口」が44.3%で最も多く、次いで「同和地区名の公表」が32.9%、「個人を名指しした悪口」が24.3%となっている。

【図 4-1-1 性・年齢別 人権侵害の内容】



性別でみると、「同和地区名の公表」の割合は女性より男性のほうが12.4ポイント高くなっている。
 年齢別でみると、「個人を名指ししない、集団に対する悪口」の割合は20代で最も高くなっている。また、「同和地区名の公表」の割合は50代で最も高くなっている。

【図 4-1-2 全国比較 人権侵害の内容】

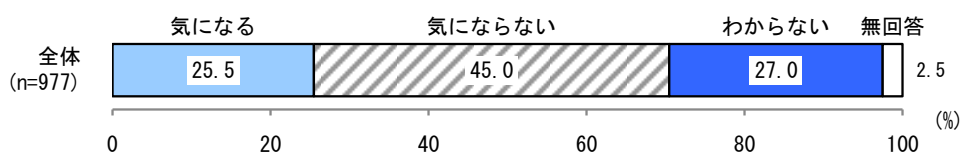


全国調査と比較すると、いずれの項目も本市の割合のほうが低く、なかでも「同和地区名の公表」は8.5ポイント低くなっている。

(2) 交際相手や結婚相手について

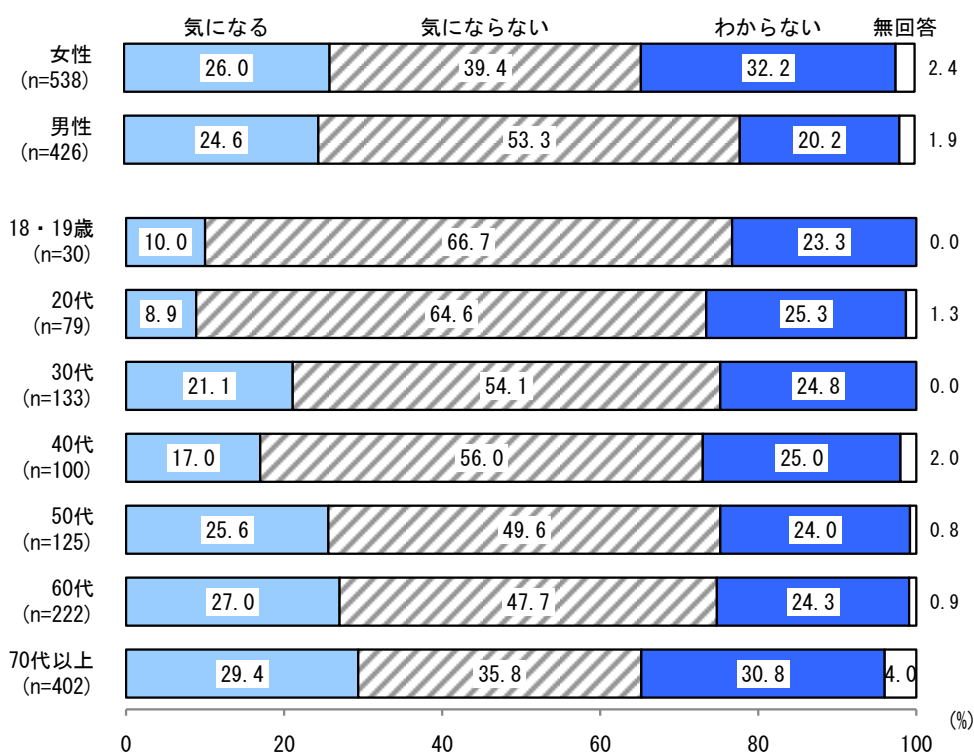
問5 あなたは、交際相手や結婚相手が、同和地区の出身者であるか否か気になりますか。既婚の方は、未婚であると仮定して回答してください。(1つに〇)

【図 5-1 交際相手や結婚相手が同和地区の出身者であるか否か気になるか】



交際相手や結婚相手が同和地区の出身者であるか否か気になるかについて、「気になる」が25.5%、「気にならない」が45.0%となっている。

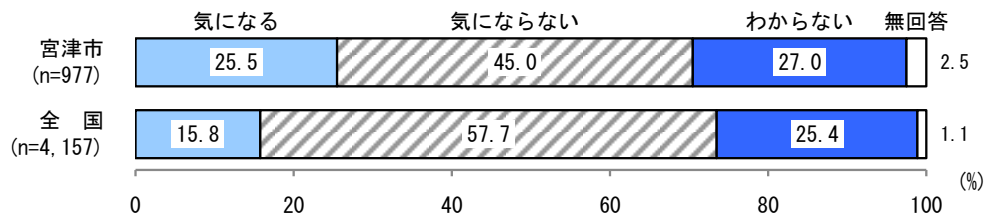
【図 5-1-1 性別・年齢別 交際相手や結婚相手が同和地区の出身者であるか否か気になるか】



性別で見ると、男性より女性のほうが気にする傾向にある。

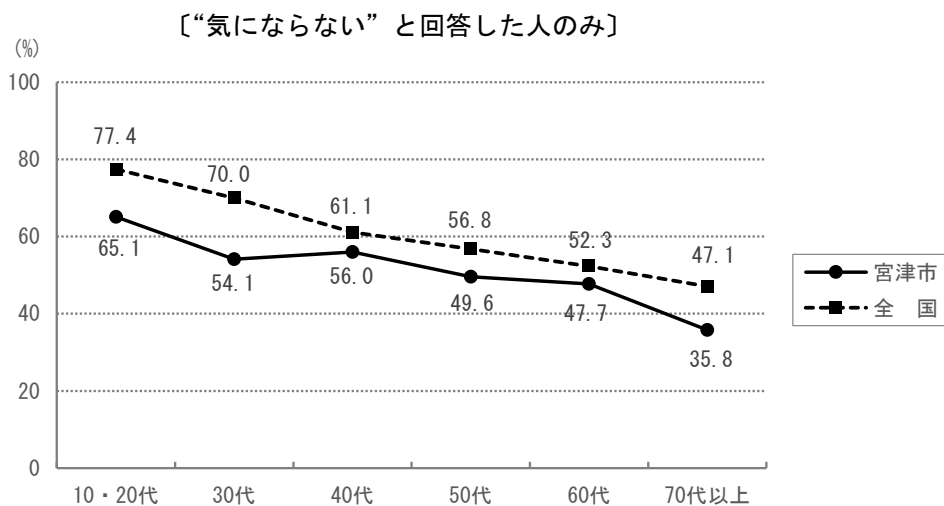
年齢別で見ると、「気になる」割合は70代以上で29.4%と最も高くなっている。一方、「気にならない」割合は、若年層ほど高い傾向にあり、18・19歳では66.7%となっている。

【図 5-1-2 全国比較 交際相手や結婚相手が同和地区の出身者であるか否か気になるか】



全国調査と比較すると、「気になる」割合は、本市のほうが9.7ポイント高くなっている。

【図 5-1-3 全国比較（年齢別） 交際相手や結婚相手が同和地区の出身者であるか否か気になるか】



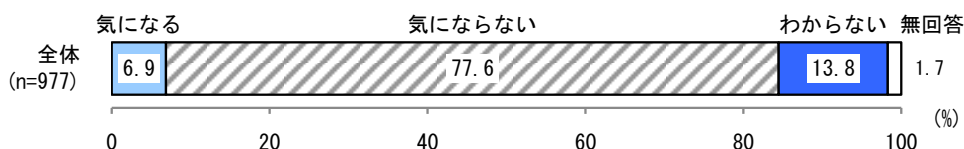
※本市調査では「18・19歳」と「20代」を合わせて『10・20代』とし、全国調査では「70～79歳」と「80歳以上」の%から逆算したものを算出した。

「気にならない」と回答した人のみを抽出し、年齢別で全国調査と比較すると、いずれの年齢層も本市の割合のほうが下回っており、特に30代では15.9ポイント低くなっている。

(3) 求人について

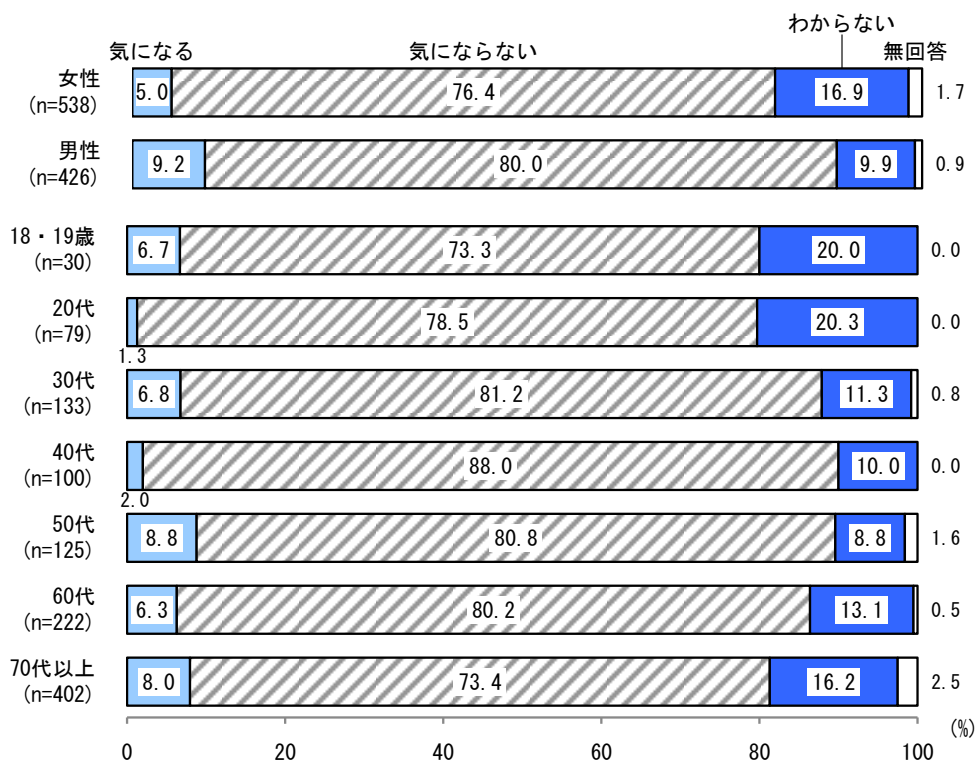
問6 あなたは、求人に対する応募者や職場の同僚が、同和地区の出身者であるか否か気になりますか。(1つに○)

【図6-1 求人の応募者や職場の同僚が同和地区の出身者であるか否か気になるか】



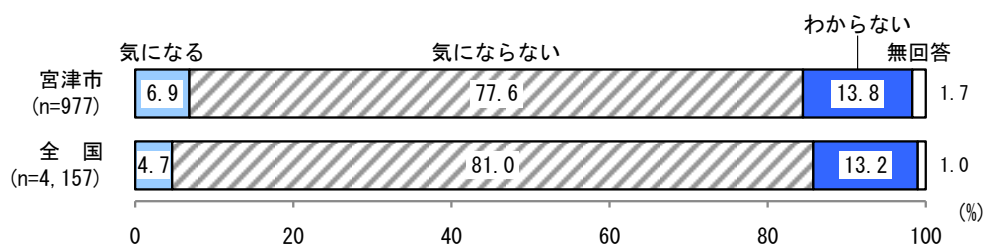
求人の応募者や職場の同僚が同和地区の出身者であるか否か気になるかについて、「気になる」は6.9%、「気にならない」は77.6%となっている。

【図6-1-1 性別・年齢別 求人の応募者や職場の同僚が同和地区の出身者であるか否か気になるか】



性別でみると、「気になる」割合は、女性より男性のほうが4.2ポイント高くなっている。年齢別でみると、「気になる」割合は、50代が8.8%で最も高くなっている。

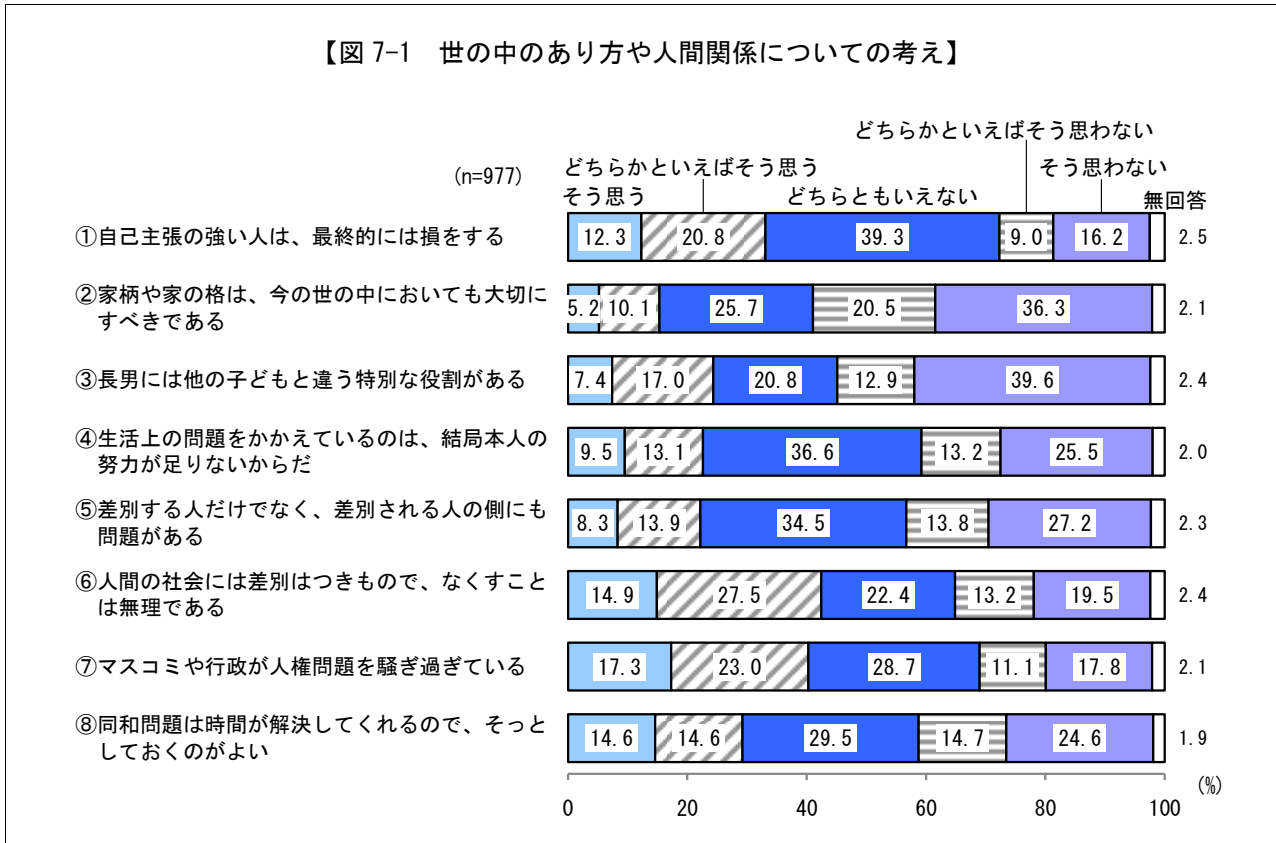
【図6-1-2 全国比較 求人の応募者や職場の同僚が同和地区の出身者であるか否か気になるか】



全国調査と比較すると、「気になる」割合は、本市のほうが2.2ポイント高くなっている。

5 世の中のあり方や人間関係についての考え

問7 世の中のあり方や人間関係について次のような考え方がありますが、あなたはどのように思われますか。1～8のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○）



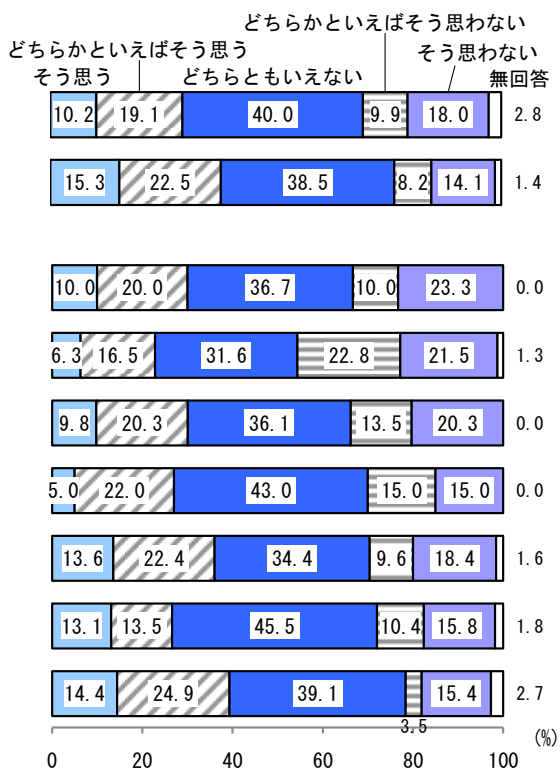
世の中のあり方や人間関係についての考えを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』と比較すると、『そう思う』が多い項目は、“⑥人間の社会には差別はつきもので、なくすことは無理である”（42.4%）、“⑦マスコミや行政が人権問題を騒ぎ過ぎている”（40.3%）となっている。

一方、『そう思わない』が多い項目は、“②家柄や家の格は、今の世の中においても大切にすべきである”（56.8%）、“③長男には他の子どもと違う特別な役割がある”（52.5%）、“④生活上の問題をかかえているのは、結局本人の努力が足りないからだ”（38.7%）、“⑤差別する人だけでなく、差別される人の側にも問題がある”（41.0%）、“⑧同和問題は時間が解決してくれるので、そっとしておくのがよい”（39.3%）となっている。

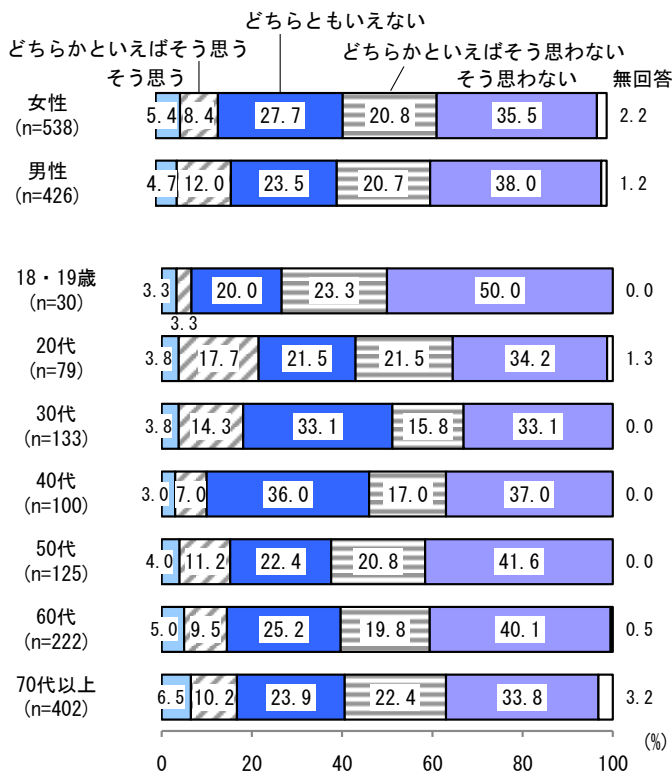
また、“①自己主張の強い人は、最終的には損をする”では、「どちらともいえない」が39.3%で最も多くなっており、『そう思う』は33.1%、『そう思わない』は25.2%で、『そう思う』のほうが多い傾向にある。

【図 7-1-1 性別・年齢別 世の中のあり方や人間関係についての考え①】

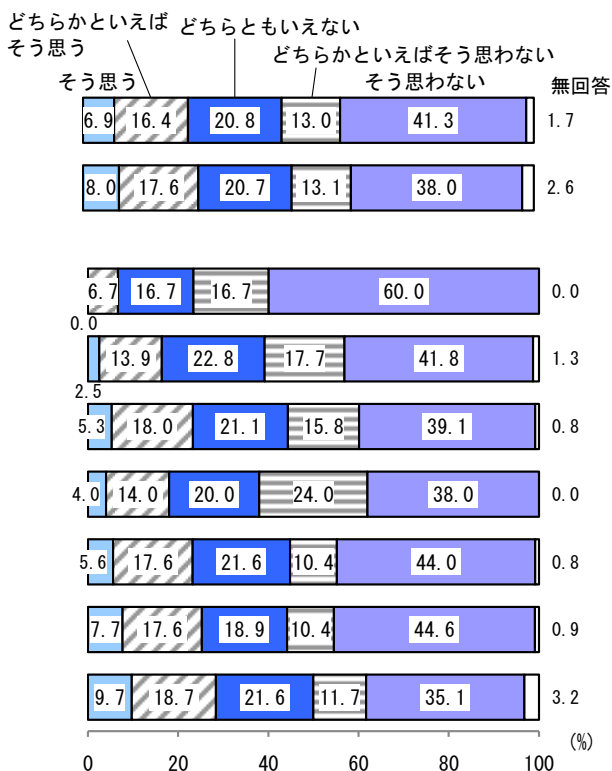
①自己主張の強い人は、最終的には損をする



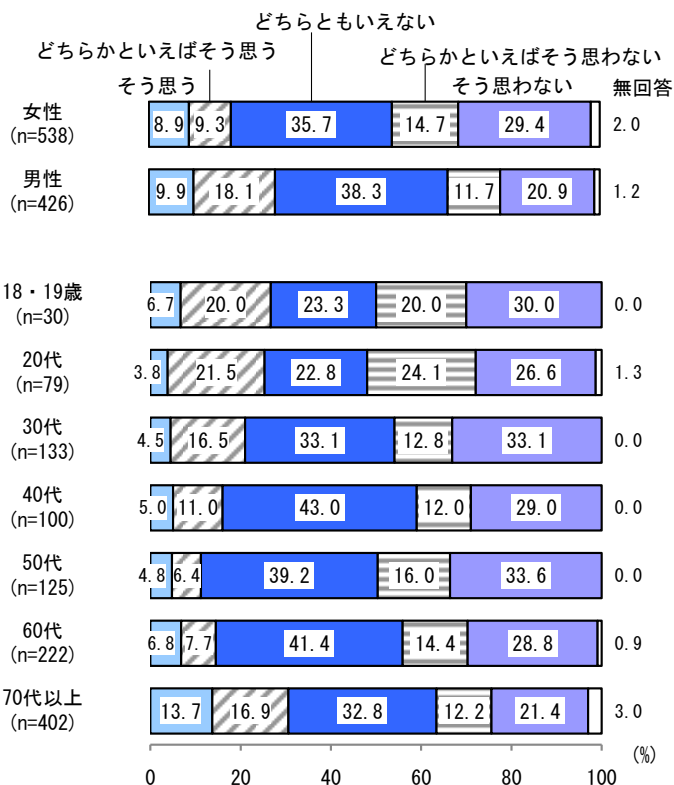
②家柄や家の格は、今の世の中においても大切にすべきである



③長男には他の子どもと違う特別な役割がある

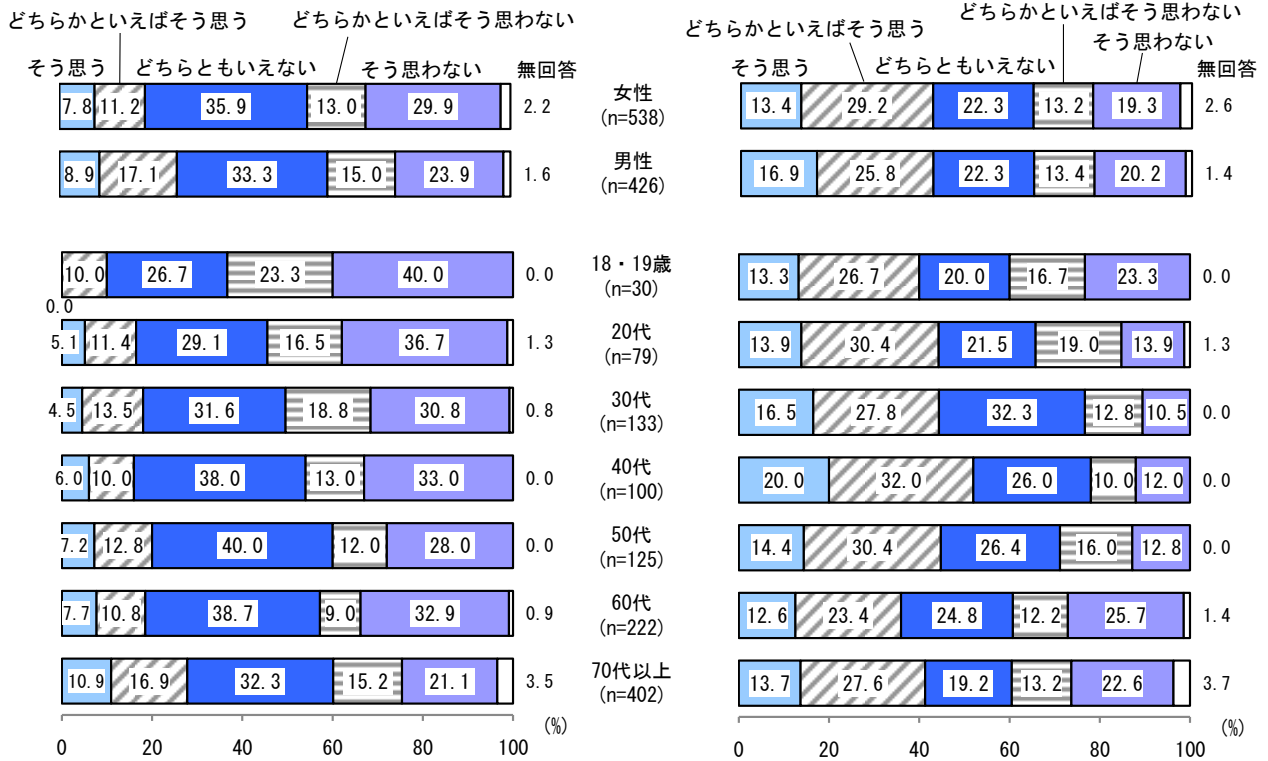


④生活上の問題をかかえているのは、結局本人の努力が足りないからだ

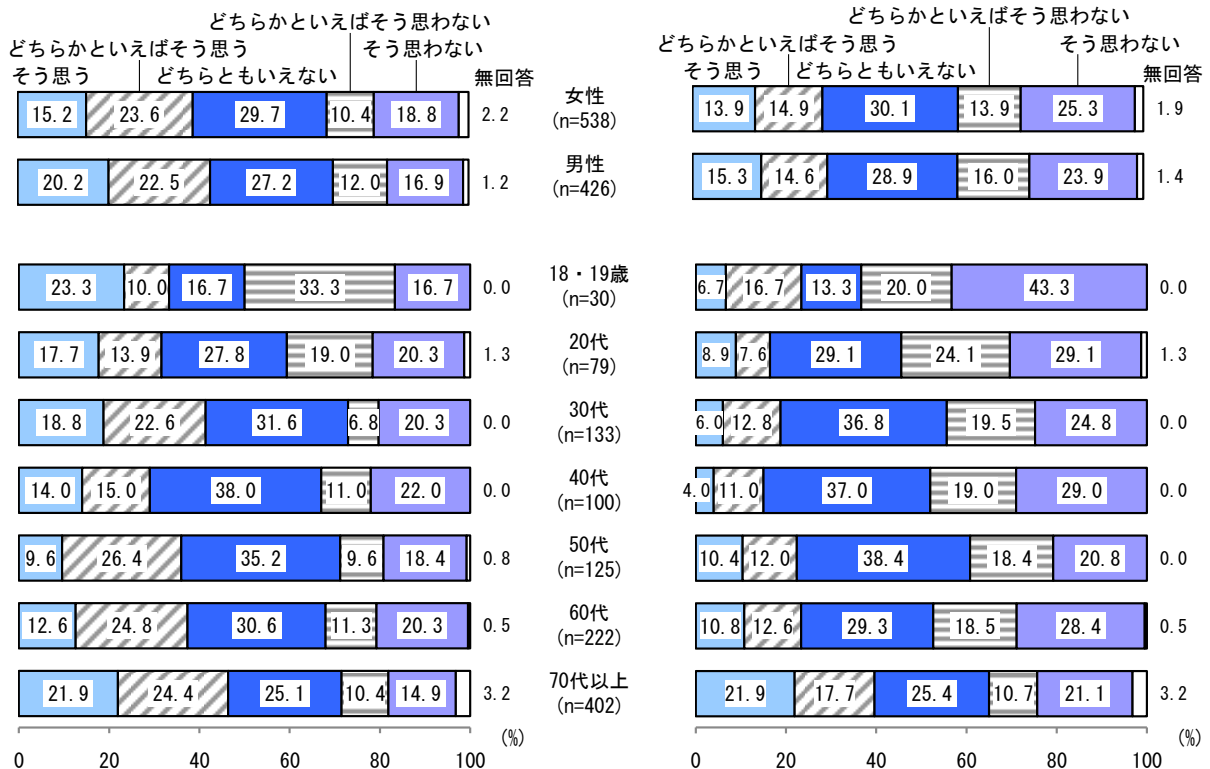


【図 7-1-1 性別・年齢別 世の中のあり方や人間関係についての考え②】

- ⑤差別する人だけでなく、差別される人の側にも問題がある
 ⑥人間の社会には差別はつきもので、なくすことは無理である



- ⑦ マスコミや行政が人権問題を騒ぎ過ぎている
 ⑧ 同和問題は時間が解決してくれるので、そっとしておくのがよい



性別でみると、“④生活上の問題をかかえているのは、結局本人の努力が足りないからだ”について、『そう思わない』割合は、男性（32.6%）より女性（44.1%）のほうが11.5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“②家柄や家の格は、今の世の中においても大切にすべきである”は、20代で『そう思う』が21.5%と他の年代に比べて高い割合になっている。また、“③長男には他の子どもと違う特別な役割がある”と“⑤差別する人だけでなく、差別される人の側にも問題がある”について、『そう思わない』割合は若年層のほうが高い傾向にある。“④生活上の問題をかかえているのは、結局本人の努力が足りないからだ”では、『そう思う』割合が、70代以上で30.6%と最も高くなっているが、18・19歳と20代も25%を越えている。

【表 7-1-1 経年比較 世の中のあり方や人間関係についての考え】

		(%)				
		全体	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	無回答
①自己主張の強い人は、最終的には損をする	令和2年度	977	33.1	39.3	25.2	2.5
	平成27年度	778	29.4	32.4	35.7	2.4
	平成21年度	935	25.6	33.4	38.0	3.1
②家柄や家の格は、今の世の中においても大切にすべきである	令和2年度	977	15.3	25.7	56.8	2.1
	平成27年度	778	16.6	27.8	53.3	2.3
	平成21年度	935	17.1	25.5	55.2	2.2
③長男には他の子どもと違う特別な役割がある	令和2年度	977	24.4	20.8	52.5	2.4
	平成27年度	778	23.7	19.4	54.2	2.7
	平成21年度	935	25.9	19.3	52.2	2.7
④生活上の問題をかかえているのは、結局本人の努力が足りないからだ	令和2年度	977	22.6	36.6	38.7	2.0
	平成27年度	778	20.6	34.2	43.1	2.2
	平成21年度	935	25.5	30.3	41.3	3.0
⑤差別する人だけでなく、差別される人の側にも問題がある	令和2年度	977	22.2	34.5	41.0	2.3
	平成27年度	778	30.3	32.8	34.4	2.4
	令和2年度	977	42.4	22.4	32.7	2.4
⑥人間の社会には差別はつきもので、なくすことは無理である	平成27年度	778	28.9	26.2	42.3	2.6
	令和2年度	977	40.3	28.7	28.9	2.1
	平成27年度	778	34.6	24.9	37.8	2.7
⑦マスコミや行政が人权問題を騒ぎ過ぎている	令和2年度	977	29.2	29.5	39.3	1.9
	平成27年度	778	27.4	29.8	40.4	2.4
⑧同和問題は時間が解決してくれるので、そっとしておくのがよい	令和2年度	977	29.2	29.5	39.3	1.9
	平成27年度	778	27.4	29.8	40.4	2.4

※過去調査では「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の3項目で構成しているため、今回調査では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合算、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合算で比較している。（以下の経年比較も同文）

過去調査と比較すると、“①自己主張の強い人は、最終的には損をする”では、『そう思う』割合が増加傾向にあり、前回調査まで『そう思わない』が最も多かったが、今回調査では「どちらともいえない」が最も多くなっている。“②家柄や家の格は、今の世の中においても大切にすべきである”では、『そう思う』割合は減少傾向にあり、『そう思わない』は今回調査が最も高い割合になっている。“④生活上の問題をかかえているのは、結局本人の努力が足りないからだ”では、「どちらともいえない」が増加傾向にあり、前回調査まで「どちらともいえない」と『そう思わない』に約10ポイントの差があったが、今回調査では2.1ポイント差になっている。“⑤

差別する人だけでなく、差別される人の側にも問題がある”では、『そう思う』は8.1ポイント減少し、『そう思わない』が6.6ポイント増加している。

また、“⑥人間の社会には差別はつきもので、なくすことは無理である”は『そう思う』が13.5ポイント増加、“⑦マスコミや行政が人権問題を騒ぎ過ぎている”は『そう思う』が5.7ポイント増加となっており、両項目とも前回調査で『そう思わない』が最も多かったが、今回調査では『そう思う』が最も多くなっている。

“③長男には他の子どもと違う特別な役割がある”と“⑧同和問題は時間が解決してくれるので、そっとしておくのがよい”では、大きな変化はみられない。

6 人権侵害の状況

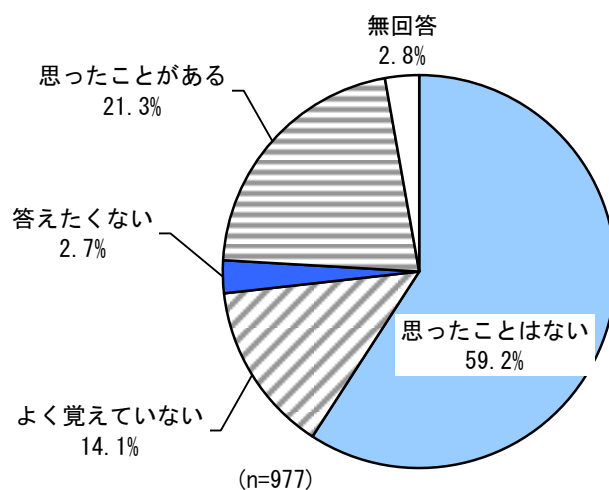
(1) 差別や人権侵害を受けた経験

問8 人権侵害についてお尋ねします。

(1) あなたは、これまで、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。

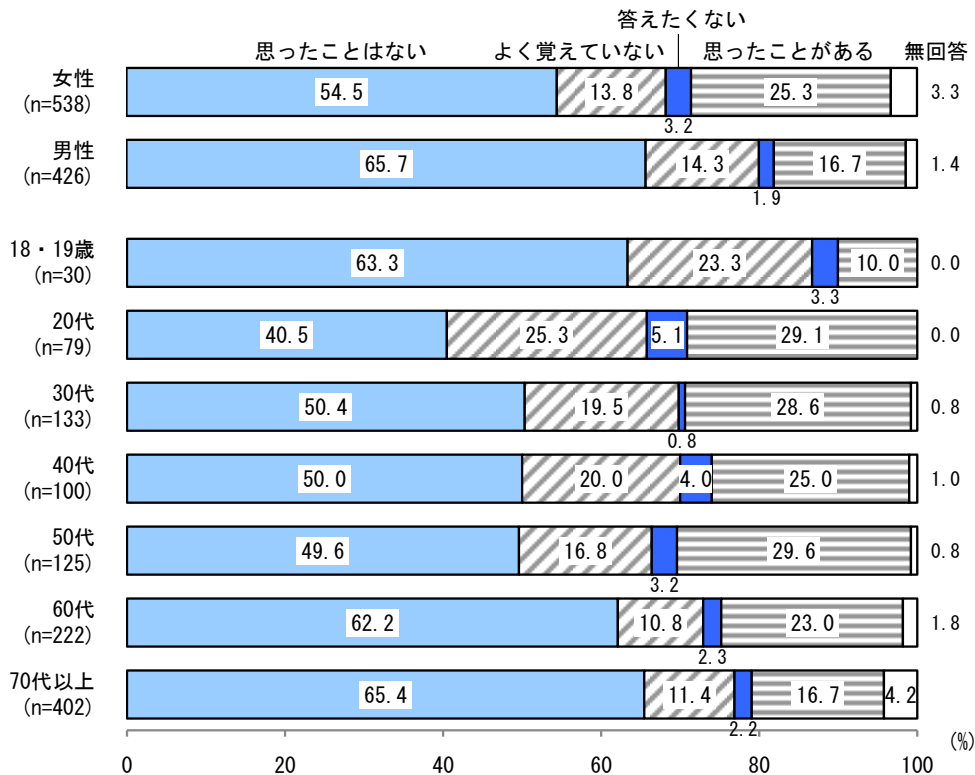
(1つに○)

【図 8-1 差別や人権侵害を受けたと思ったことの有無】



差別や人権侵害を受けたと思ったことの有無について、「思ったことはない」が59.2%で最も多くなっている。これに次いで、「思ったことがある」は21.3%となっており、5人に1人は人権を侵害された経験があると回答している。

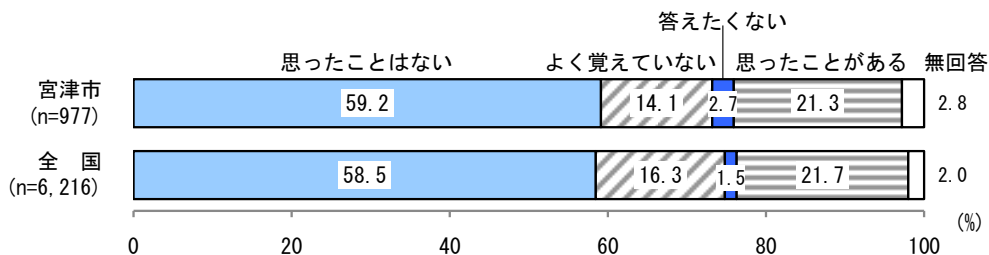
【図 8-1-1 性別・年齢別 差別や人権侵害を受けたと思ったことの有無】



性別でみると、「思ったことがある」割合は、女性が 25.3%、男性が 16.7%となっており、女性のほうが 8.6 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「思ったことがある」割合は、50代が 29.6%で最も高く、次いで 20代が 29.1%、30代が 28.6%となっている。

【図 8-1-2 全国比較 差別や人権侵害を受けたと思ったことの有無】

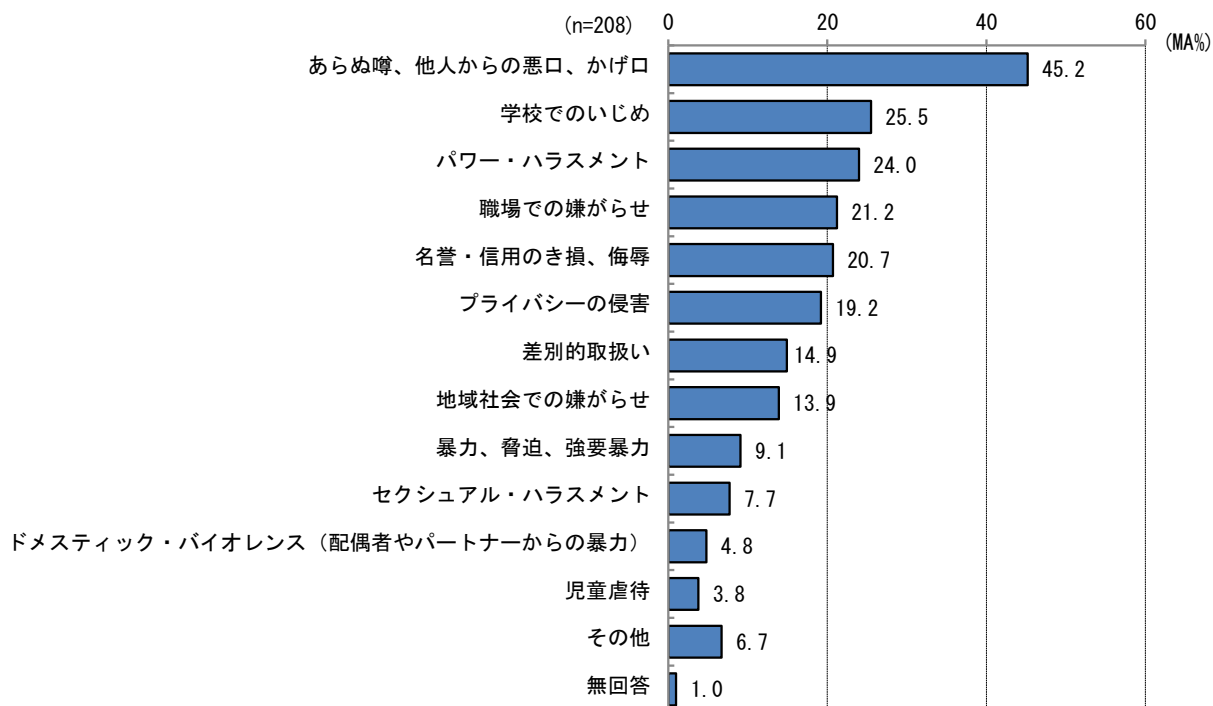


全国調査と比較したところ、大きな差はみられない。

(2) 差別や人権侵害を受けたときの状況

(2) 問8(1)で「思ったことがある」を選択された方にお尋ねします。
それはどのような場合ですか。(〇はいくつでも)

【図 8-2 差別や人権侵害を受けたときの状況】



これまでに人権を侵害された経験があると回答した人に、差別や人権侵害を受けたときの状況をたずねると、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が45.2%で最も多く、次いで「学校でのいじめ」が25.5%となっている。

【表 8-2-1 性別・年齢別 差別や人権侵害を受けたときの状況】

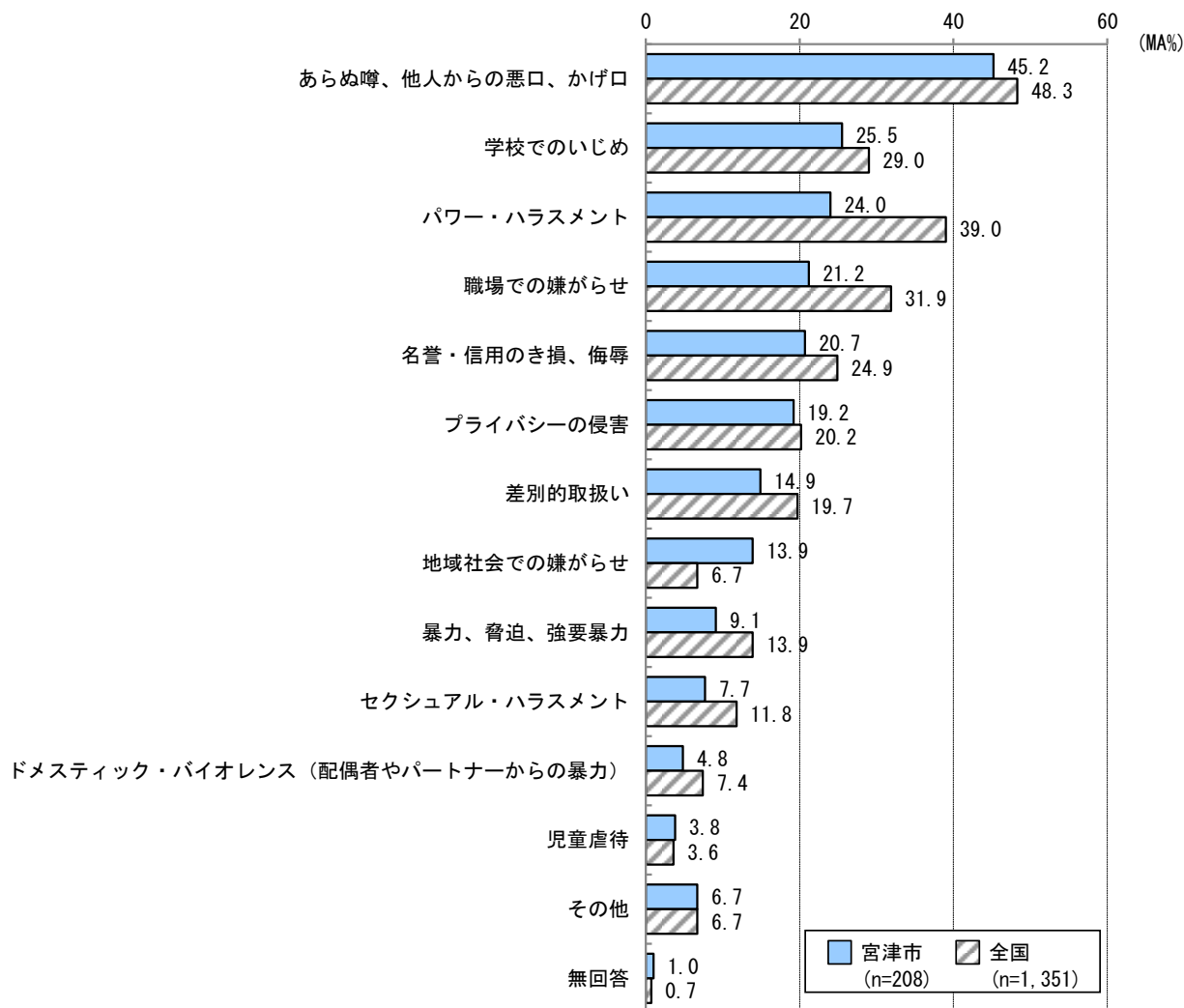
(上段：人、下段：%)

		全体	あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	学校でのいじめ	パワー・ハラスメント	職場での嫌がらせ	名誉・信用のき損、侮辱	プライバシーの侵害	差別的取扱い	地域社会での嫌がらせ	暴力、脅迫、強要暴力	セクシユアル・ハラスメント	ドメスティック・バイオレンス力 (配偶者やパートナーからの暴力)	児童虐待	その他	無回答	
性別	女性	136 100.0	60 44.1	31 22.8	37 27.2	32 23.5	27 19.9	26 19.1	21 15.4	15 11.0	15 11.0	14 10.3	10 7.4	5 3.7	10 7.4	2 1.5	
	男性	71 100.0	33 46.5	21 29.6	13 18.3	12 16.9	16 22.5	14 19.7	10 14.1	14 19.7	4 5.6	2 2.8	-	3 4.2	4 5.6	-	
年齢別	18・19歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	-	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20代	23 100.0	14 60.9	14 60.9	6 26.1	4 17.4	3 13.0	5 21.7	3 13.0	-	-	4 17.4	-	1 4.3	1 4.3	-	
	30代	38 100.0	20 52.6	13 34.2	11 28.9	7 18.4	3 7.9	9 23.7	3 7.9	2 5.3	4 10.5	7 18.4	3 7.9	3 7.9	4 10.5	-	
	40代	25 100.0	17 68.0	4 16.0	9 36.0	9 36.0	6 24.0	7 28.0	4 16.0	1 4.0	6 24.0	4 16.0	1 4.0	1 4.0	2 8.0	2 4.0	1 4.0
	50代	37 100.0	14 37.8	12 32.4	13 35.1	9 24.3	5 13.5	5 13.5	5 13.5	2 5.4	3 8.1	2 5.4	3 8.1	1 2.7	1 2.7	-	
	60代	51 100.0	19 37.3	9 17.6	13 25.5	10 19.6	14 27.5	10 19.6	10 19.6	12 23.5	4 7.8	4 7.8	-	2 3.9	4 7.8	-	
	70代以上	67 100.0	28 41.8	15 22.4	6 9.0	12 17.9	16 23.9	11 16.4	9 13.4	13 19.4	6 9.0	2 3.0	5 7.5	2 3.0	6 9.0	1 1.5	

性別でみると、男女とも「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も多く、女性は44.1%、男性は46.5%となっている。「地域社会での嫌がらせ」では、女性(11.0%)より男性(19.7%)のほうが8.7ポイント高い割合になっている。

年齢別でみると、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」では、40代が68.0%、20代が60.9%と高い割合になっている。また、「学校でのいじめ」では、20代が60.9%と最も高い割合になっている。

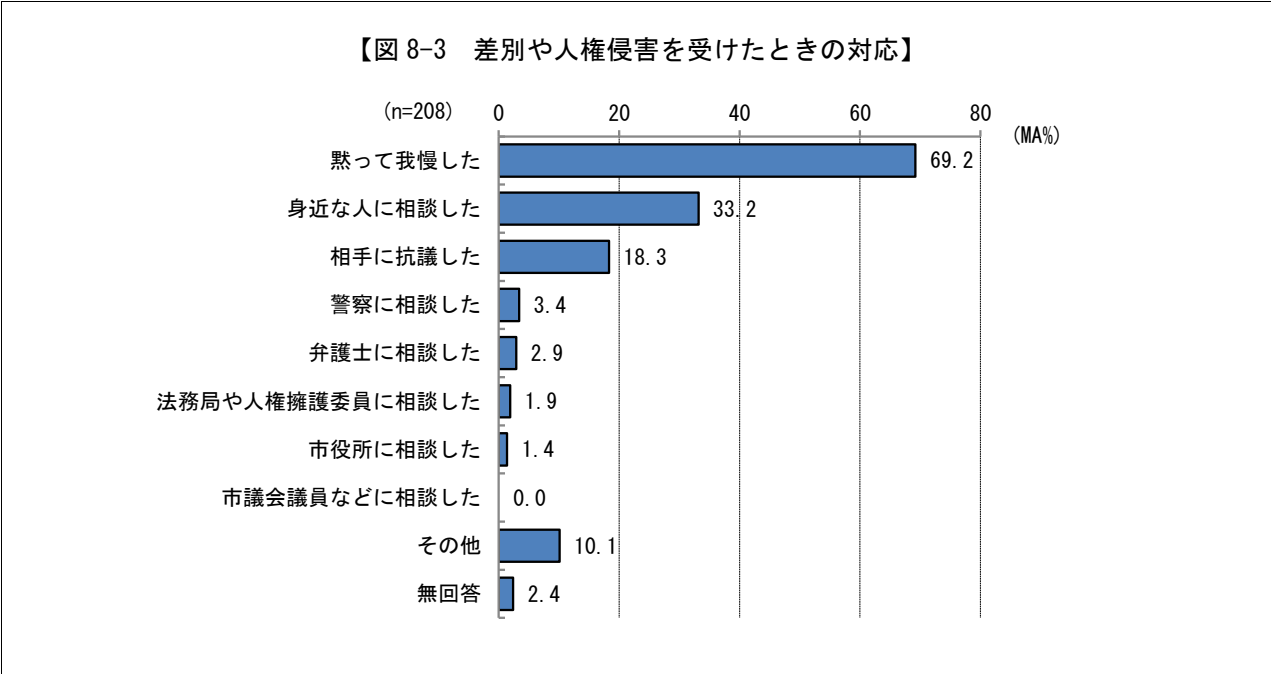
【図 8-2-1 全国比較 差別や人権侵害を受けたときの状況】



全国調査と比較すると、「地域社会での嫌がらせ」は本市の割合のほうが 7.2 ポイント高く、「児童虐待」はほぼ同率となっている。それら以外の項目では本市の割合のほうが低く、なかでも「パワー・ハラスメント」と「職場での嫌がらせ」は 10 ポイント以上低くなっている。

(3) 差別や人権侵害を受けたときの対応

(3) 問8 (1) で「思ったことがある」を選択された方にお尋ねします。
 そのとき、どのようにされましたか。(〇はいくつでも)



これまでに人権を侵害された経験があると回答した人に、その際の対応をたずねると、「黙って我慢した」が 69.2%で最も多く、次いで「身近な人に相談した」が 33.2%、「相手に抗議した」が 18.3%となっている。警察や市役所、法務局など、公的な機関に相談した人が少なく、弁護士に相談した人も 2.9%にとどまっている。

【表 8-3-1 性別・年齢別 差別や人権侵害を受けたときの対応】

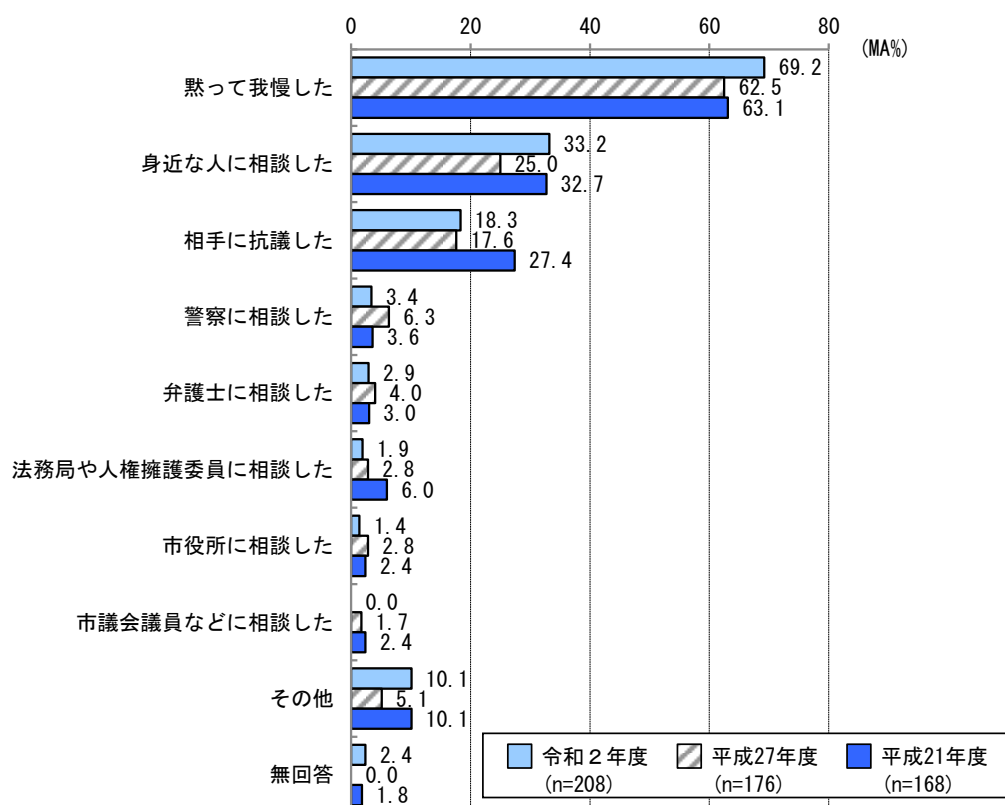
(上段：人、下段：%)

		全体	黙って我慢した	身近な人に相談した	相手に抗議した	警察に相談した	弁護士に相談した	法務局や人権擁護委員に相談した	市役所に相談した	市議会議員などに相談した	その他	無回答
性別	女性	136	98	60	22	6	3	2	2	-	15	3
		100.0	72.1	44.1	16.2	4.4	2.2	1.5	1.5	-	11.0	2.2
性別	男性	71	46	9	16	1	3	2	1	-	6	1
		100.0	64.8	12.7	22.5	1.4	4.2	2.8	1.4	-	8.5	1.4
年齢別	18・19歳	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
		100.0	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代	23	19	11	3	-	-	-	-	-	1	-
		100.0	82.6	47.8	13.0	-	-	-	-	-	4.3	-
	30代	38	29	14	7	1	1	-	-	-	3	-
		100.0	76.3	36.8	18.4	2.6	2.6	-	-	-	7.9	-
	40代	25	21	10	6	4	2	1	2	-	2	-
		100.0	84.0	40.0	24.0	16.0	8.0	4.0	8.0	-	8.0	-
50代	37	26	14	5	-	-	-	-	-	2	-	
	100.0	70.3	37.8	13.5	-	-	-	-	-	5.4	-	
60代	51	32	17	12	1	1	-	1	-	4	-	
	100.0	62.7	33.3	23.5	2.0	2.0	-	2.0	-	7.8	-	
70代以上	67	43	16	12	2	2	3	-	-	10	5	
	100.0	64.2	23.9	17.9	3.0	3.0	4.5	-	-	14.9	7.5	

性別でみると、「黙って我慢した」は、女性が 72.1%、男性が 64.8%となっており、女性のほうが 7.3 ポイント高い割合になっている。また、「身近な人に相談した」では、女性が 44.1%、男性が 12.7%となっており、女性のほうが 31.4 ポイント高い割合になっている。

年齢別でみると、概ねいずれの年齢層も「黙って我慢した」が最も多く、特に 20 代と 40 代は 8 割台と高い割合になっている。また、「身近な人に相談した」では、年齢が上がるほど割合が低くなる傾向にある。

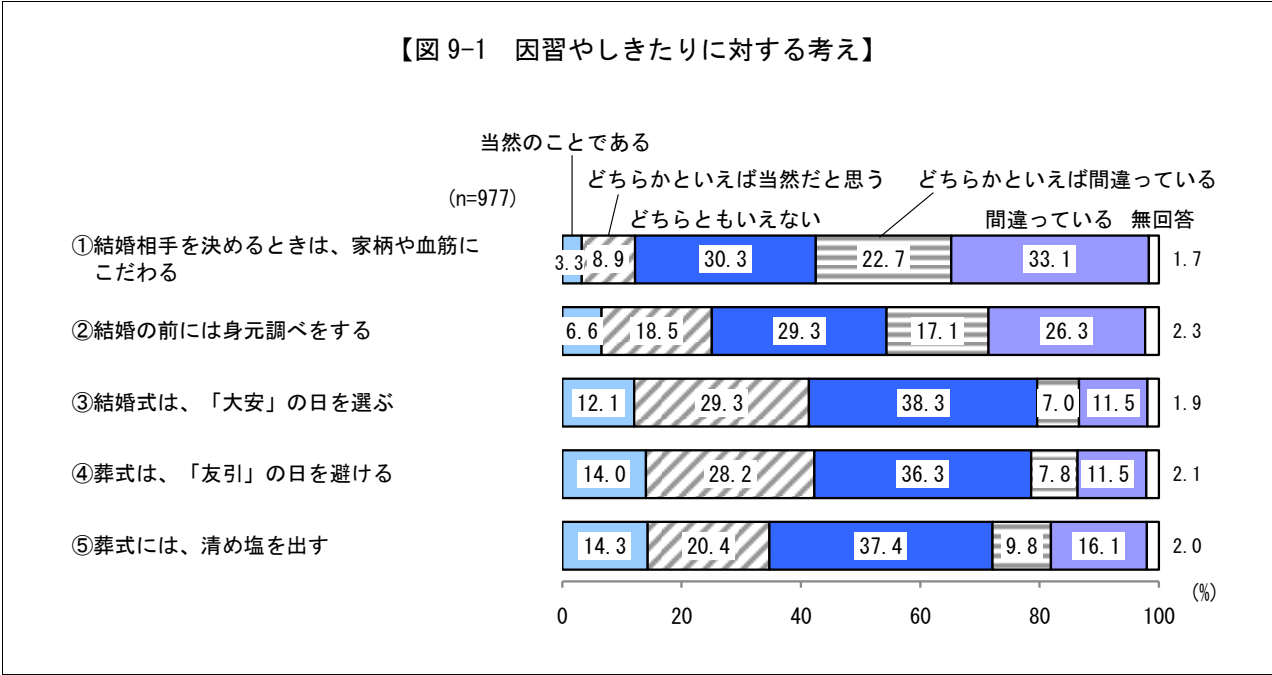
【図 8-3-1 経年比較 差別や人権侵害を受けたときの対応】



過去調査と比較すると、「黙って我慢した」は今回調査の割合が最も高くなっている。一方、「身近な人に相談した」は前回調査と比べると 8.2 ポイント増加しているが、「法務局や人権擁護委員に相談した」と「市議会議員などに相談した」は減少傾向にある。

7 因習やしきたりに対する考え

問9 日本には古くからいろいろな因習やしきたりがありますが、あなたは次のことに関してどのように思われますか。1～5のすべてについてお答えください。
(それぞれ1つに○)



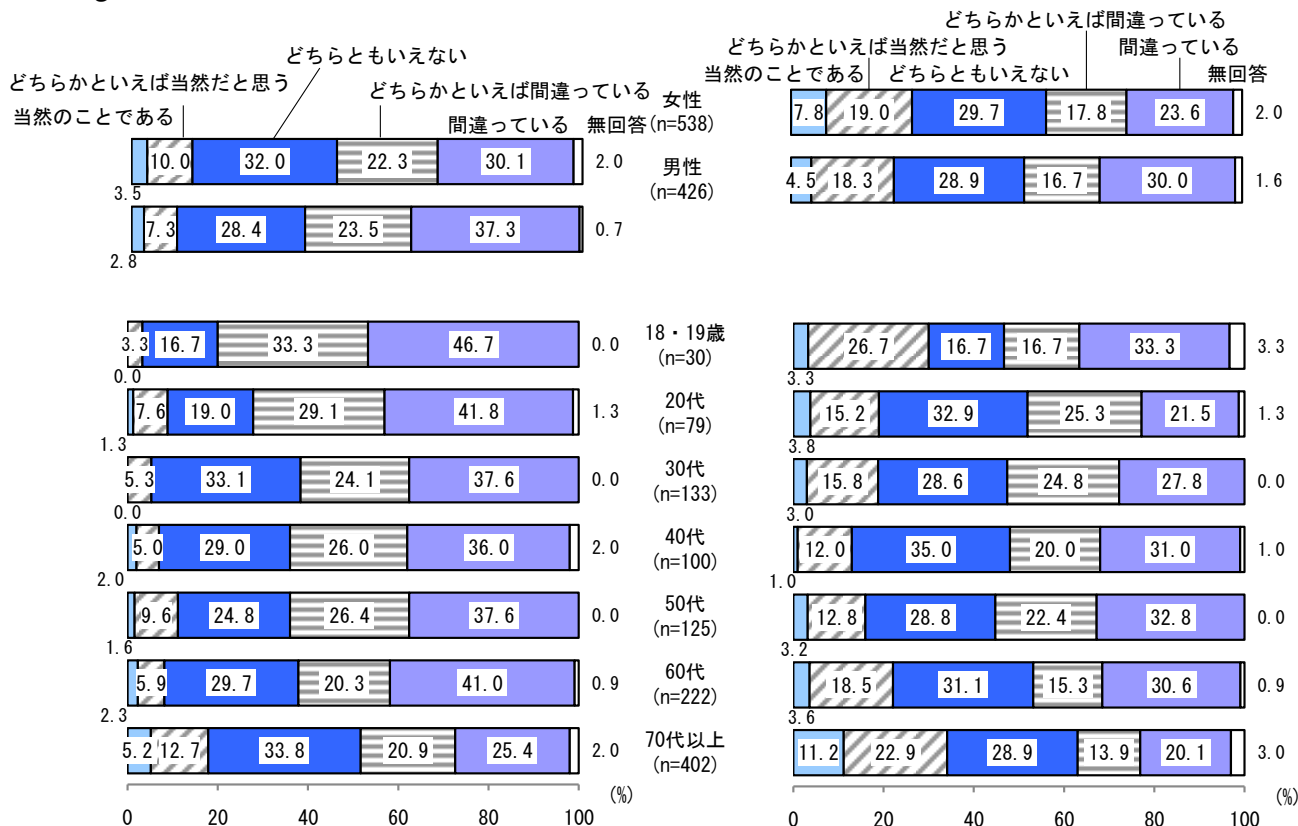
日本の因習やしきたりに対する考えを、「当然のことである」と「どちらかといえば当然だと思う」を合わせた『当然である』と、「どちらかといえば間違っている」と「間違っている」を合わせた『間違っている』で比較すると、『当然である』が多い項目は、“③結婚式は、「大安」の日を選ぶ” (41.4%)、“④葬式は、「友引」の日を避ける” (42.2%) となっている。

一方、『間違っている』が多い項目は、“①結婚相手を決めるときは、家柄や血筋にこだわる” (55.8%)、“②結婚の前には身元調べをする” (43.4%) となっている。

また、“⑤葬式には、清め塩を出す”では、「どちらともいえない」が37.4%で最も多くなっており、『当然である』は34.7%、『間違っている』は25.9%で、『当然である』のほうが多い傾向にある。

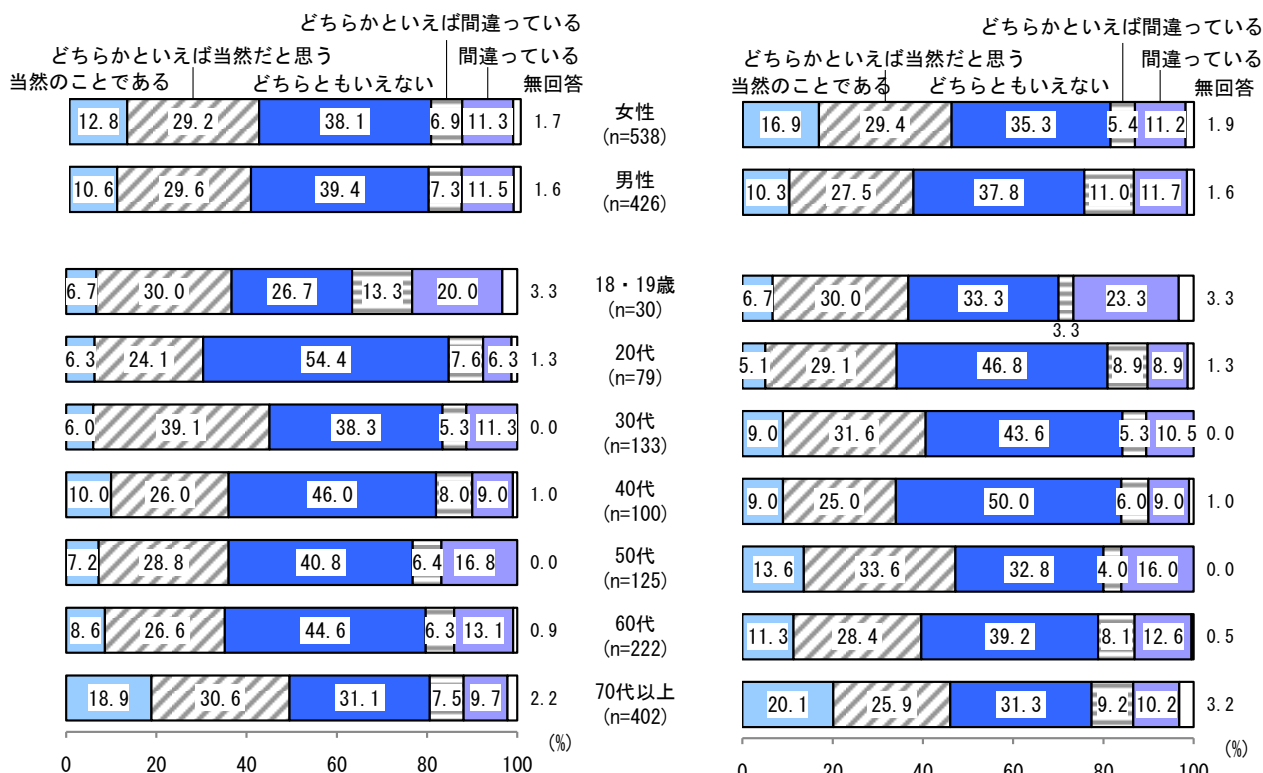
【図 9-1-1 性別・年齢別 因習やしきたりに対する考え①】

①結婚相手を決めるときは、家柄や血筋にこだわる ②結婚の前には身元調べをする



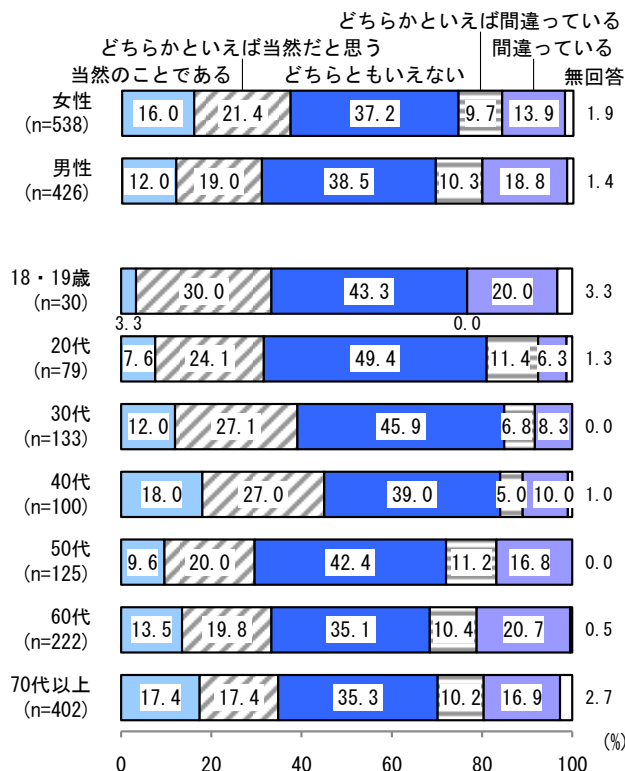
③結婚式は、「大安」の日を選ぶ

④葬式は、「友引」の日を避ける



【図 9-1-1 性別・年齢別 因習やしきたりに対する考え②】

⑤葬式には、清め塩を出す



性別でみると、“①結婚相手を決めるときは、家柄や血筋にこだわる”では、『間違っている』割合は女性（52.4%）より男性（60.8%）のほうが8.4ポイント高くなっている。また、“②結婚の前には身元調べをする”でも、『間違っている』割合は女性（41.4%）より男性（46.7%）のほうが5.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“①結婚相手を決めるときは、家柄や血筋にこだわる”では、『間違っている』割合は若年層のほうが高い傾向にある。また、『当然のことである』割合では、“⑤葬式には、清め塩を出す”は40代（45.0%）、“④葬式は、「友引」の日を避ける”は50代（47.2%）が、それぞれ最も高い割合になっており、その他の項目では70代が最も高い割合になっている。一方、“②結婚の前には身元調べをする”は18・19歳（30.0%）、“③結婚式は、「大安」の日を選ぶ”は30代（45.1%）といった若年層で『当然のことである』割合の高さが目立っている。

【表 9-1-1 経年比較 因習やしきたりに対する考え】

		(%)				
		全体	当然のことである	どちらともいえない	間違っている	無回答
①結婚相手を決めるときは、家柄や血筋にこだわる	令和2年度	977	12.2	30.3	55.8	1.7
	平成27年度	778	10.7	42.8	44.2	2.3
	平成21年度	935	13.6	40.9	43.4	2.1
②結婚の前には身元調べをする	令和2年度	977	25.1	29.3	43.4	2.3
	平成27年度	778	24.8	37.5	35.1	2.6
	平成21年度	935	29.9	38.0	29.7	2.4
③結婚式は、「大安」の日を選ぶ	令和2年度	977	41.4	38.3	18.5	1.9
	平成27年度	778	33.2	50.8	14.0	2.1
	平成21年度	935	38.3	47.9	12.2	1.6
④葬式は、「友引」の日を避ける	令和2年度	977	42.2	36.3	19.3	2.1
	平成27年度	778	36.2	45.5	15.6	2.7
	平成21年度	935	40.1	42.4	15.7	1.8
⑤葬式には、清め塩を出す	令和2年度	977	34.7	37.4	25.9	2.0
	平成27年度	778	32.1	43.6	22.2	2.1
	平成21年度	935	34.9	43.5	19.8	1.8

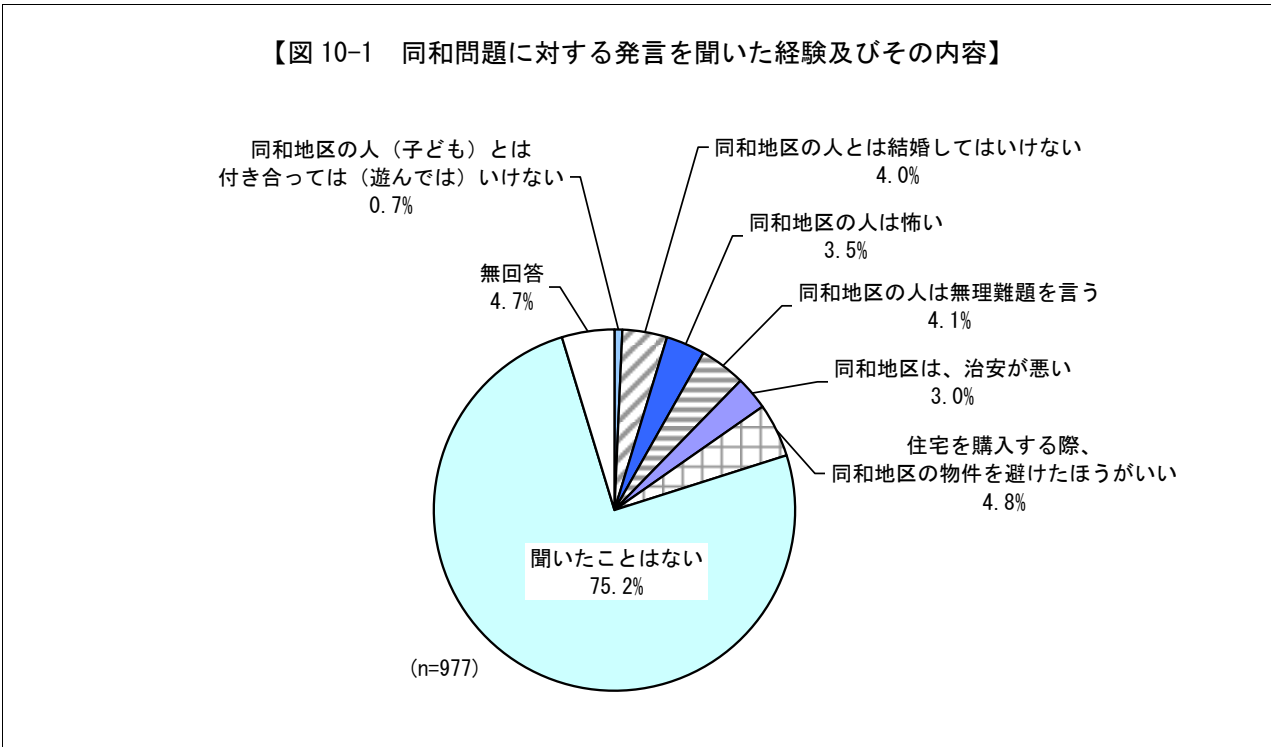
※過去調査では「当然のことである」「どちらともいえない」「間違っている」の3項目で構成しているため、今回調査では「当然のことである」と「どちらかといえば当然のことだと思う」の合算、「どちらかといえば間違っている」と「間違っている」の合算で比較している。

過去調査と比較すると、“①結婚相手を決めるときは、家柄や血筋にこだわる”では、『間違っている』割合が今回調査で最も高く、10ポイント以上増加している。“②結婚の前には身元調べをする”では、前回調査まで「どちらともいえない」が最も多かったが、今回調査では増加傾向にある『間違っている』が最も多くなっている。また、“③結婚式は、「大安」の日を選ぶ”と“④葬式は、「友引」の日を避ける”では、前回調査まで「どちらともいえない」が最も多かったが、今回調査では『当然のことである』が最も多くなっており、『間違っている』は1割台で推移しつつ増加傾向にある。“⑤葬式には、清め塩を出す”では、「どちらともいえない」が今回調査で6ポイント減少し、『間違っている』が増加傾向にある。

8 同和問題に対する発言を聞いた状況及び考え

(1) 同和問題に対する発言を聞いた経験及びその内容

問10 あなたは、ここ5年間くらいの中に、同和問題に対して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。(1つに○)



同和問題に対する発言を聞いた経験及びその内容について、全体の2割となる5人に1人は聞いた経験があると答えており、そのうち強く印象に残った内容として「住宅を購入する際、同和地区の物件を避けたほうがいい」が4.8%で最も多くなっている。一方、「聞いたことはない」は75.2%となっている。

【表 10-1-1 性別・年齢別 同和問題に対する発言を聞いた経験及びその内容】

		(上段：人、下段：%)								
		全体	(も同和地区の人は怖い 遊んでは付き合っていない)	して和地区の人は怖い 結婚	同和地区の人は怖い	同和地区の人は無理難 題を言う	同和地区は、治安が悪い	和地区の購入を避けた 住宅がよい物件を避けた	聞いたことはない	無回答
性別	女性	538 100.0	3 0.6	27 5.0	19 3.5	13 2.4	14 2.6	26 4.8	409 76.0	27 5.0
	男性	426 100.0	3 0.7	12 2.8	15 3.5	26 6.1	15 3.5	21 4.9	320 75.1	14 3.3
年齢別	18・19歳	30 100.0	-	1 3.3	-	-	-	1 3.3	27 90.0	1 3.3
	20代	79 100.0	-	2 2.5	-	1 1.3	8 10.1	3 3.8	64 81.0	1 1.3
	30代	133 100.0	1 0.8	8 6.0	4 3.0	2 1.5	15 11.3	6 4.5	95 71.4	2 1.5
	40代	100 100.0	-	2 2.0	1 1.0	2 2.0	5 5.0	12 12.0	78 78.0	-
	50代	125 100.0	1 0.8	5 4.0	5 4.0	8 6.4	5 4.0	3 2.4	97 77.6	1 0.8
	60代	222 100.0	1 0.5	11 5.0	10 4.5	9 4.1	3 1.4	6 2.7	175 78.8	7 3.2
	70代以上	402 100.0	4 1.0	14 3.5	15 3.7	18 4.5	4 1.0	21 5.2	294 73.1	32 8.0

性別で見ると、同和問題に対するいずれかの発言を直接聞いたことがある割合は、女性で18.9%、男性で21.6%となっている。

年齢別で見ると、同和問題に対するいずれかの発言を直接聞いたことがある割合は、30代が27.1%で最も高く、次いで40代が22.0%となっている。一方、「聞いたことはない」割合では、18・19歳と20代が8割以上となっている。また、聞いたことがある発言として、20代と30代は「同和地区は、治安が悪い」、40代は「住民を購入する際、同和地区の物件を避けたほうが良い」が、それぞれ1割を超えている。

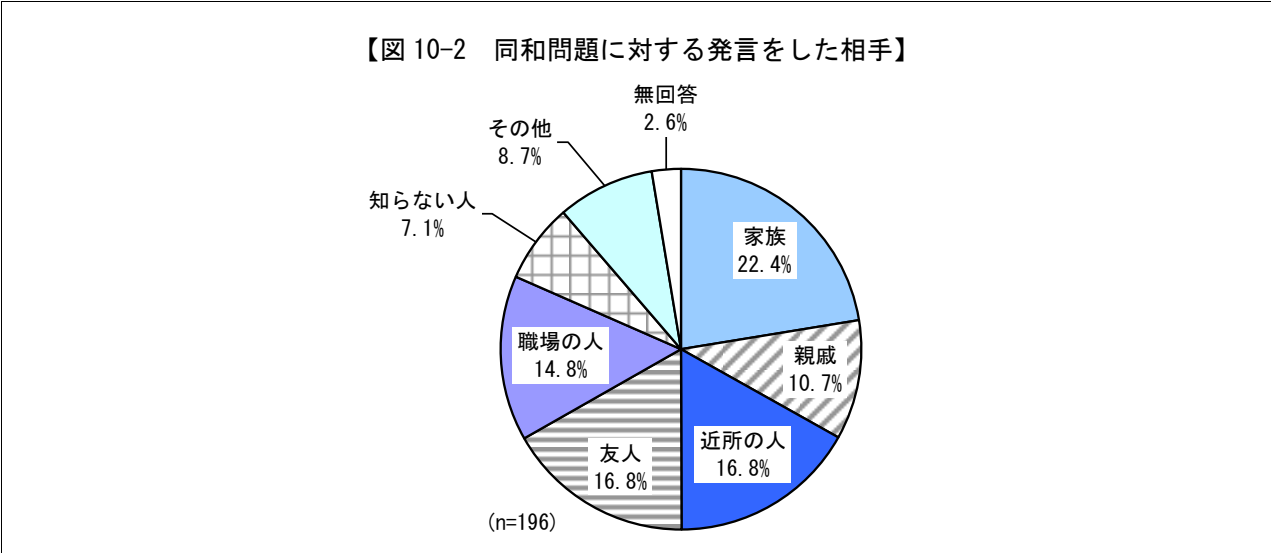
【表 10-1-2 経年比較 同和問題に対する発言を聞いた経験及びその内容】

		(%)								
		全体	(も同和地区の人は怖い 遊んでは付き合っていない)	して和地区の人は怖い 結婚	同和地区の人は怖い	同和地区の人は無理難 題を言う	同和地区は、治安が悪い	和地区の購入を避けた 住宅がよい物件を避けた	聞いたことはない	無回答
令和2年度		977	0.7	4.0	3.5	4.1	3.0	4.8	75.2	4.7
平成27年度		778	1.2	4.9	4.6	5.7	1.9	5.7	68.3	7.8

過去調査と比較すると、同和問題に対するいずれかの発言を直接聞いたことがある割合は3.8ポイント減少しており、聞いたことがある発言として、「同和地区は、治安が悪い」がやや増加しているが、それ以外の項目は減少している。一方、「聞いたことはない」では6.9ポイント増加している。

(2) 同和問題に対する発言をした相手

(2) 問10で「同和問題に対する発言」のいずれかを選んだ方にお聞きします。
それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。(1つに○)



同和問題に対する発言を聞いたことがあると回答した人に、誰から聞いたかたずねると、「家族」が22.4%で最も多く、次いで「近所の人」と「友人」がともに16.8%となっている。

【表 10-2-1 同和問題に対する発言をした相手】

(上段：人、下段：%)

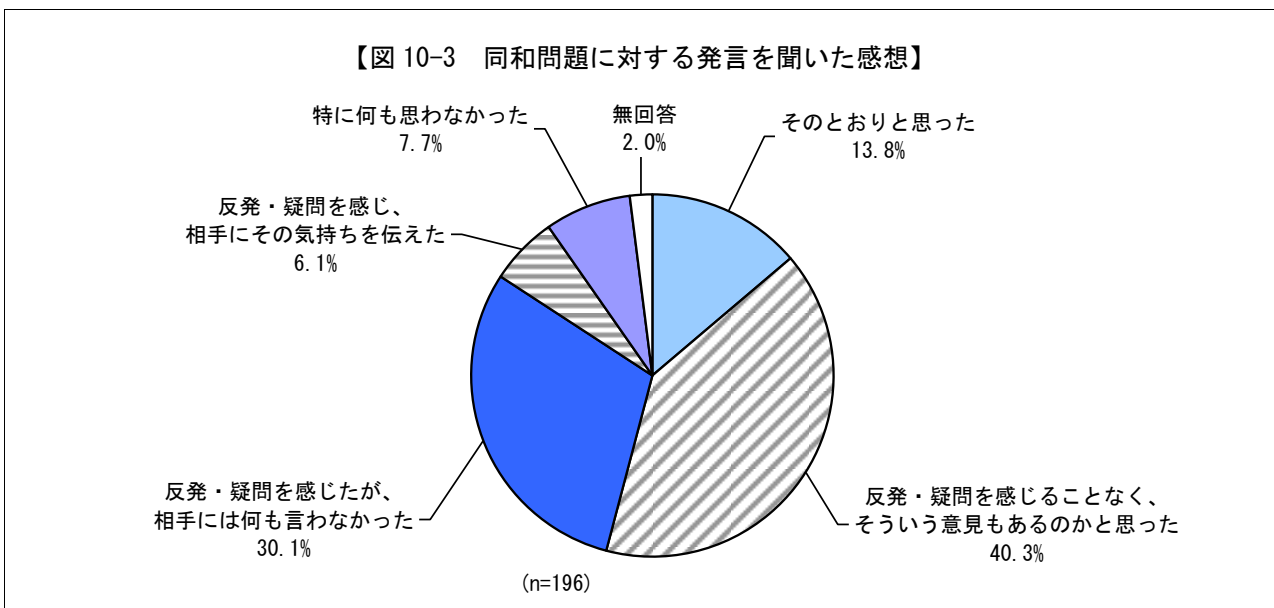
		全体	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	知らない人	その他	無回答
性別	女性	102 100.0	28 27.5	12 11.8	16 15.7	17 16.7	12 11.8	5 4.9	7 6.9	5 4.9
	男性	92 100.0	14 15.2	9 9.8	17 18.5	16 17.4	17 18.5	9 9.8	10 10.9	-
年齢別	18・19歳	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	-	-
	20代	14 100.0	3 21.4	1 7.1	-	3 21.4	3 21.4	2 14.3	2 14.3	-
	30代	36 100.0	10 27.8	1 2.8	5 13.9	7 19.4	5 13.9	4 11.1	4 11.1	-
	40代	22 100.0	5 22.7	1 4.5	2 9.1	5 22.7	6 27.3	2 9.1	1 4.5	-
	50代	27 100.0	4 14.8	4 14.8	4 14.8	4 14.8	7 25.9	2 7.4	2 7.4	-
	60代	40 100.0	12 30.0	6 15.0	5 12.5	5 12.5	4 10.0	3 7.5	4 10.0	1 2.5
	70代以上	76 100.0	11 14.5	9 11.8	20 26.3	15 19.7	7 9.2	3 3.9	7 9.2	4 5.3

性別で見ると、女性は「家族」で27.5%、男性は「近所の人」と「職場の人」がともに18.5%で、それぞれ最も多くなっている。

年齢別で見ると、概ねいずれの年齢層も「家族」が多くなっているが、40代と50代は「職場の人」、70代以上は「近所の人」が、それぞれ最も多くなっている。

(3) 同和問題に対する発言を聞いた感想

(3) 問10で「同和問題に対する発言」のいずれかを選んだ方にお聞きします。
それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(1つに○)



同和問題に対する発言を聞いたことがあると回答した人に、どう感じたかたずねると、「反発・疑問を感じることなく、そういう意見もあるのかと思った」が40.3%で最も多く、次いで「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」が30.1%、「そのとおりと思った」が13.8%となっている。また、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」と「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」(6.1%)を合わせた『反発・疑問を感じた』割合は36.2%となっている。

【表 10-3-1 性別・年齢別 同和問題に対する発言を聞いた感想】

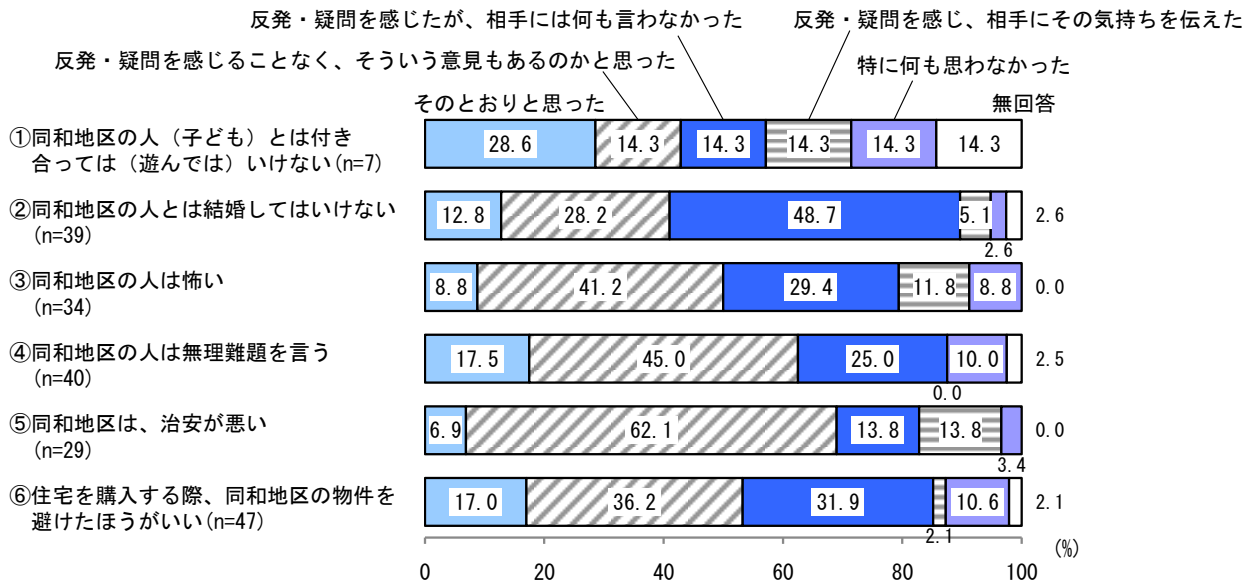
(上段：人、下段：%)

		全体	そのとおりと思った	もとなあなるのかと思う意見	反発・疑問を感じた	なかつた手間は何かを感じた	反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた	特に何も思わなかった	無回答
性別	女性	102	10	41	31	8	9	3	
		100.0	9.8	40.2	30.4	7.8	8.8	2.9	
性別	男性	92	15	38	28	4	6	1	
		100.0	16.3	41.3	30.4	4.3	6.5	1.1	
年齢別	18・19歳	2	-	1	1	-	-	-	
		100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	
	20代	14	1	10	1	1	1	-	
		100.0	7.1	71.4	7.1	7.1	7.1	-	
	30代	36	2	21	9	3	1	-	
		100.0	5.6	58.3	25.0	8.3	2.8	-	
	40代	22	2	9	6	2	3	-	
		100.0	9.1	40.9	27.3	9.1	13.6	-	
50代	27	3	9	10	1	4	-		
	100.0	11.1	33.3	37.0	3.7	14.8	-		
60代	40	7	15	12	3	3	-		
	100.0	17.5	37.5	30.0	7.5	7.5	-		
70代以上	76	11	30	26	2	3	4		
	100.0	14.5	39.5	34.2	2.6	3.9	5.3		

性別でみると、「そのとおりと思った」割合は、女性が 9.8%、男性が 16.3%となっており、男性のほうが 6.5 ポイント高くなっている。

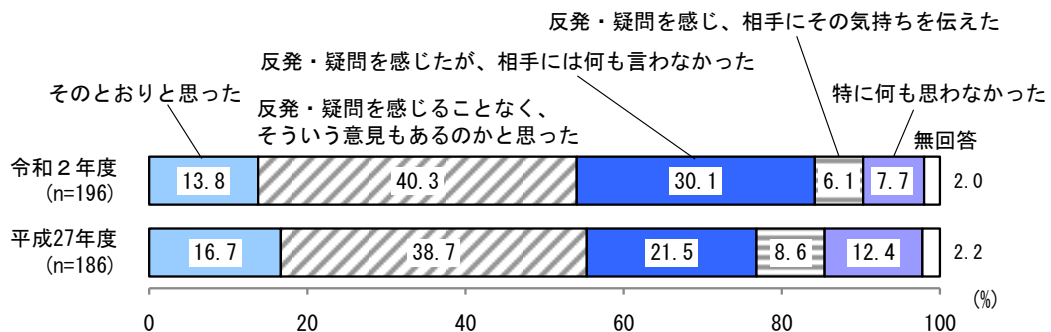
年齢別でみると、50代は「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」が最も多く、それ以外の年齢では「反発・疑問を感じることなく、そういう意見もあるのかと思った」が最も多くなっている。

【図 10-3-1 問 10 同和問題に対する発言について聞いたことがある内容×問 10（3）聞いた感想】



同和問題に対する発言を聞いた内容について、そのときの感想をみると、回答者数がそれぞれ少ないため、断定的なことはいえないが、「同和地区の人とは結婚してはいけない」という発言を聞いた人は、相手に何も言わなかったものの反発・疑問を感じた人が多い傾向がみられる。また、「同和地区の人は怖い」「同和地区の人は無理難題を言う」「同和地区は、治安が悪い」という発言に対しては、反発・疑問を感じることなく受け入れてしまう人が多い傾向がみられる。

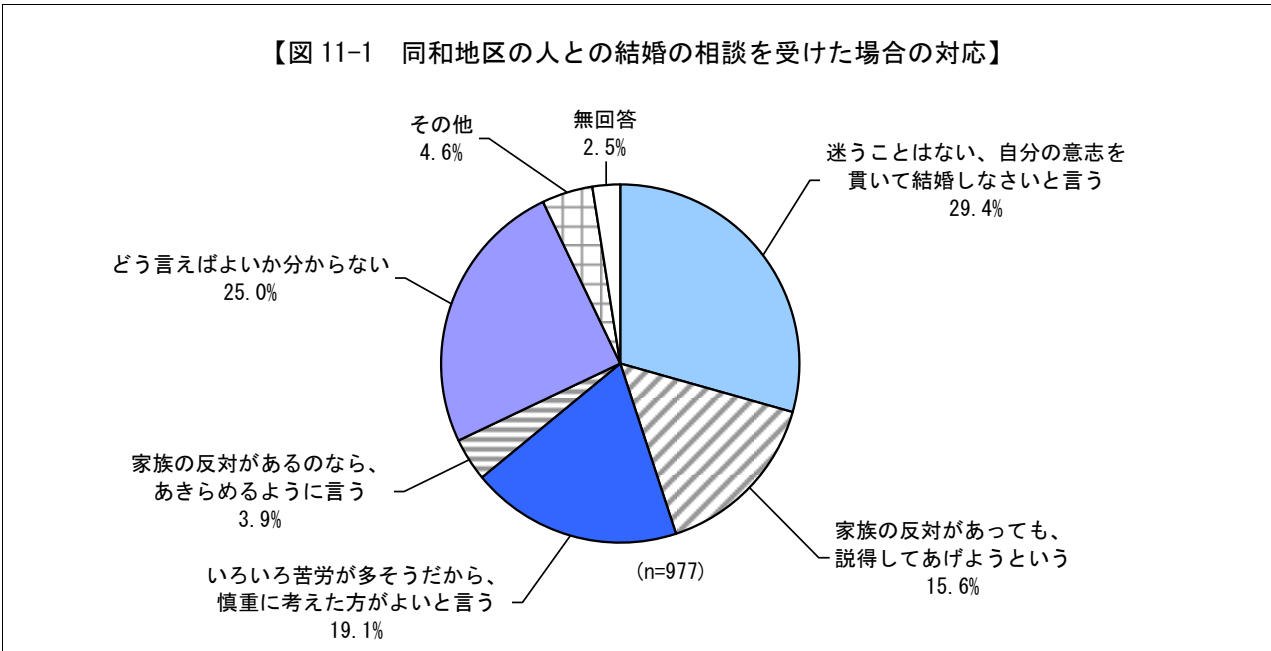
【図 10-3-2 経年比較 同和問題に対する発言を聞いた感想】



過去調査と比較すると、「そのとおりと思った」は 2.9 ポイント減少している。一方、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」が 8.6 ポイント増加している。

(4) 同和地区の人との結婚を反対されていることを相談された場合の対応

問 11 結婚しようとする相手が同和地区の人であるということを理由に、家族から結婚を反対されている親類がいるとします。あなたがその親類から相談を受けた場合、あなたはどのようにされますか。(1つに○)



同和地区の人との結婚を反対されていることで相談を受けた場合の対応として、「迷うことはない、自分の意志を貫いて結婚しなさいと言う」が29.4%と最も多く、次いで「どう言えばよいかわからない」が25.0%、「いろいろ苦勞が多そうだから、慎重に考えた方がよいと言う」が19.1%となっている。

【表 11-1-1 性別・年齢別 同和地区の人との結婚の相談を受けた場合の対応】

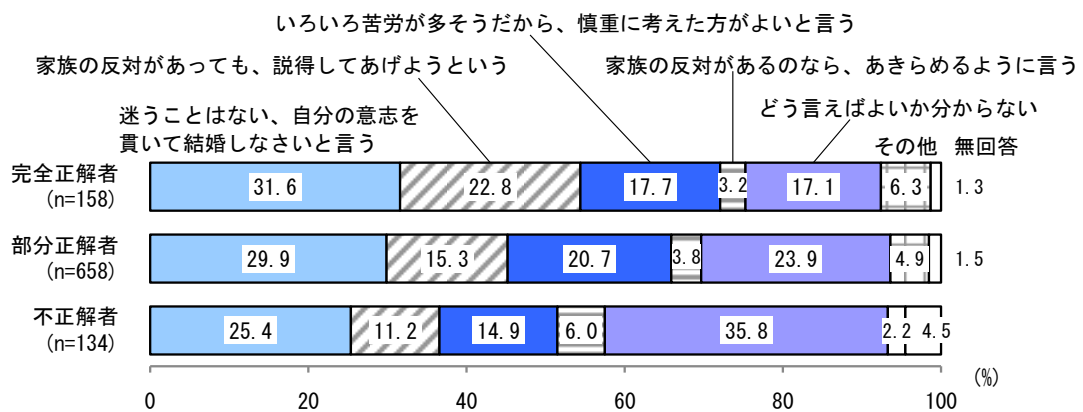
(上段：人、下段：%)

	性別	年齢別	全体	迷うこと	家族の反対	だいたいの	家族の反対	家族の反対	その他	無回答
				を貫いていない、結婚自分	があつてよい	苦勞が多そう	があつても、説得してあげよう	があつても、あきらめるように	を貫いて結婚しなさい	を貫いて結婚しなさい
	女性	18・19歳	538	117	83	103	21	167	33	14
	男性	20代	426	169	69	83	15	73	11	6
		30代	100.0	39.7	16.2	19.5	3.5	17.1	2.6	1.4
		40代	30	12	6	4	-	7	1	-
		50代	79	25	19	15	-	18	2	-
		60代	100.0	31.6	24.1	19.0	-	22.8	2.5	-
		70代以上	133	34	33	27	1	34	4	-
			100.0	25.6	24.8	20.3	0.8	25.6	3.0	-
			100	26	17	15	2	31	8	1
			100.0	26.0	17.0	15.0	2.0	31.0	8.0	1.0
			125	30	26	28	1	31	8	1
			100.0	24.0	20.8	22.4	0.8	24.8	6.4	0.8
			222	72	30	54	6	49	9	2
			100.0	32.4	13.5	24.3	2.7	22.1	4.1	0.9
			402	119	50	68	27	108	16	14
			100.0	29.6	12.4	16.9	6.7	26.9	4.0	3.5

性別で見ると、「迷うことはない、自分の意志を貫いて結婚しなさいと言う」は、女性が 21.7%、男性が 39.7%となっており、男性のほうが 18.0 ポイント高い割合になっている。

年齢別で見ると、概ねいずれの年齢層も「迷うことはない、自分の意志を貫いて結婚しなさいと言う」が多く、特に 18・19 歳は 40.0%と最も高い割合になっている。また、「迷うことはない、自分の意志を貫いて結婚しなさいと言う」や「家族の反対があっても、説得してあげようという」といった、同和地区の人との結婚を考えている親類の力になろうとする割合は、高齢者より若年層のほうが高い傾向がみられる。

【図 11-1-1 問 16 国民の権利の理解度×問 11 同和地区の人との結婚の相談を受けた場合の対応】

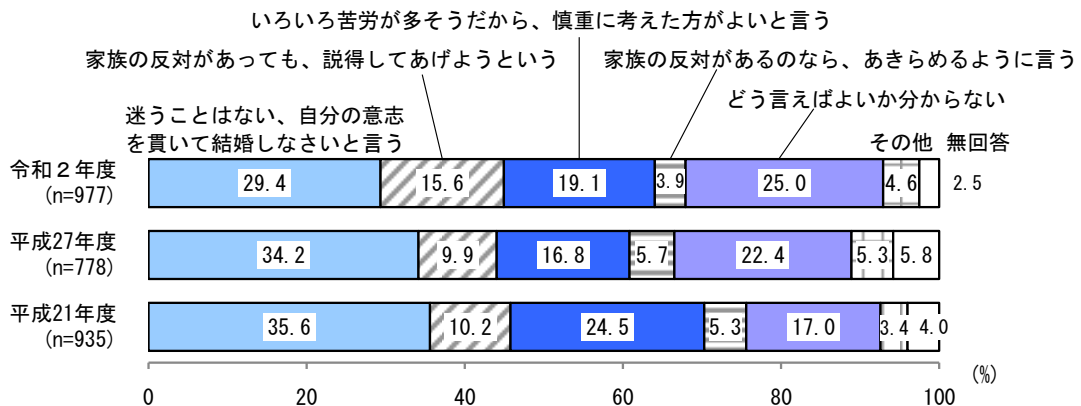


※問 16 より、

- 『完全正解者』…正答である「人間らしい暮らしをする」「思っていることを世間に発表する」「労働組合をつくる」の3つのみを選択したもの。
- 『部分正解者』…正答である3つのうち一部のみを選択する、または3つすべてを選択した上で他の項目も選択したもの。
- 『不正解者』…正答である3つ以外の項目のみを選択したもの。

問 16 の国民の権利の理解度別で見ると、「迷うことはない、自分の意志を貫いて結婚しなさいと言う」や「家族の反対があっても、説得してあげようという」の割合は、完全正解者で最も高くなっており、同和地区の人との結婚を考えている親類の力になろうとする姿勢がみられる。

【図 11-1-2 経年比較 同和地区の人との結婚の相談を受けた場合の対応】

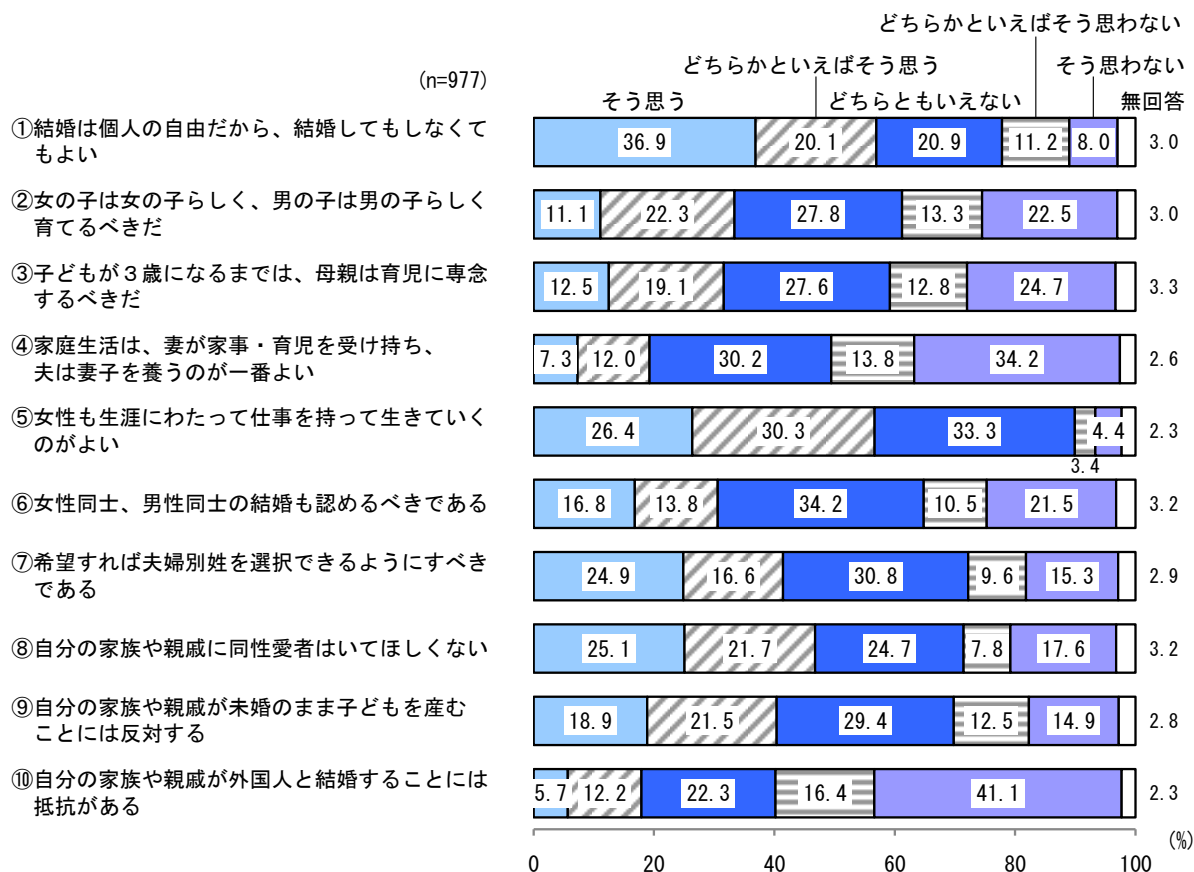


過去調査と比較すると、「迷うことはない、自分の意志を貫いて結婚しなさいと言う」は減少傾向にある。しかし、「家族の反対があっても、説得してあげようという」が5ポイント以上増加している。

9 家族に関する見方や考え方

問12 家族に関する見方や考え方について、あなたはどのように思われますか。
1～10のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○)

【図12-1 家族に関する見方や考え方】



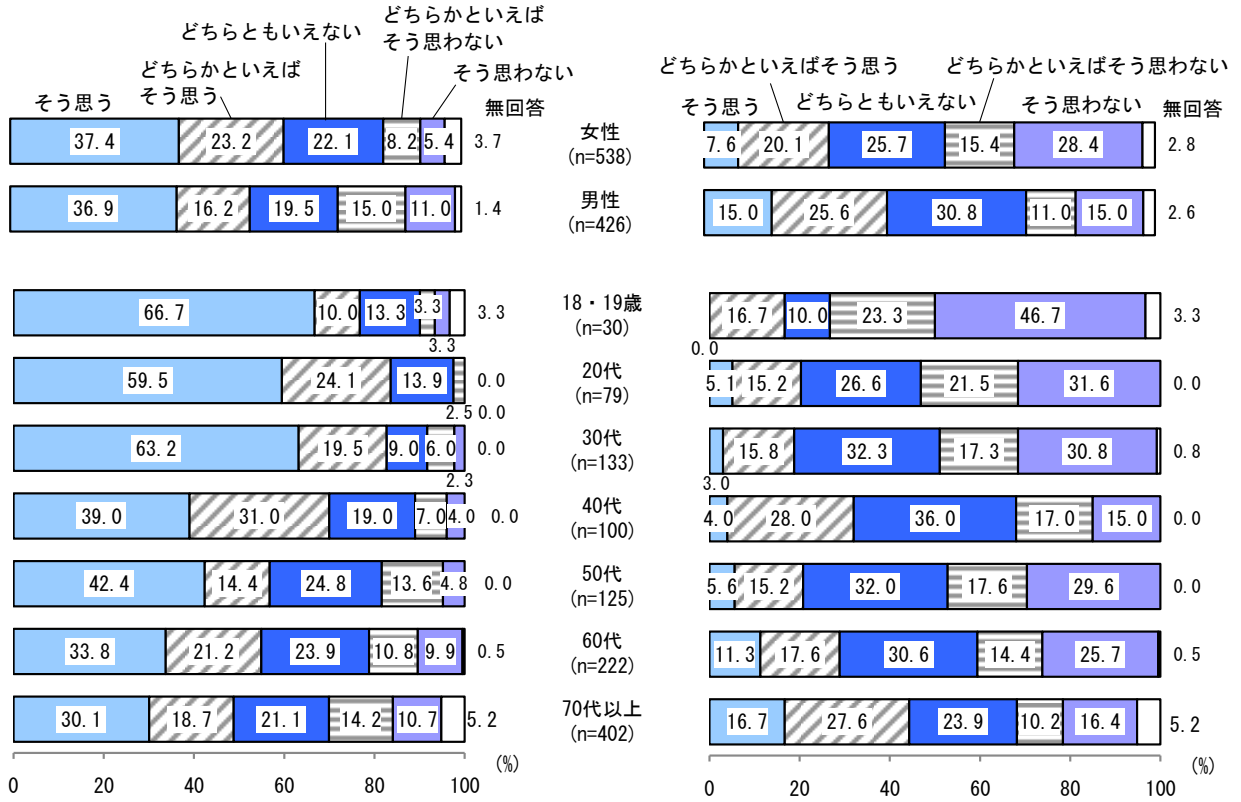
家族に関する見方や考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』で比較すると、『そう思う』が多い項目は、“①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい” (57.0%)、“⑤女性も生涯にわたって仕事を持って生きていくのがよい” (56.7%)、“⑦希望すれば夫婦別姓を選択できるようにすべきである” (41.5%)、“⑧自分の家族や親戚に同性愛者はいてほしくない” (46.8%)、“⑨自分の家族や親戚が未婚のまま子どもを産むことには反対する” (40.4%) となっている。

一方、『そう思わない』が多い項目は、“②女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ” (35.8%)、“③子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念するべきだ” (37.5%)、“④家庭生活は、妻が家事・育児を受け持ち、夫は妻子を養うのが一番よい” (48.0%)、“⑩自分の家族や親戚が外国人と結婚することには抵抗がある” (57.5%) となっている。

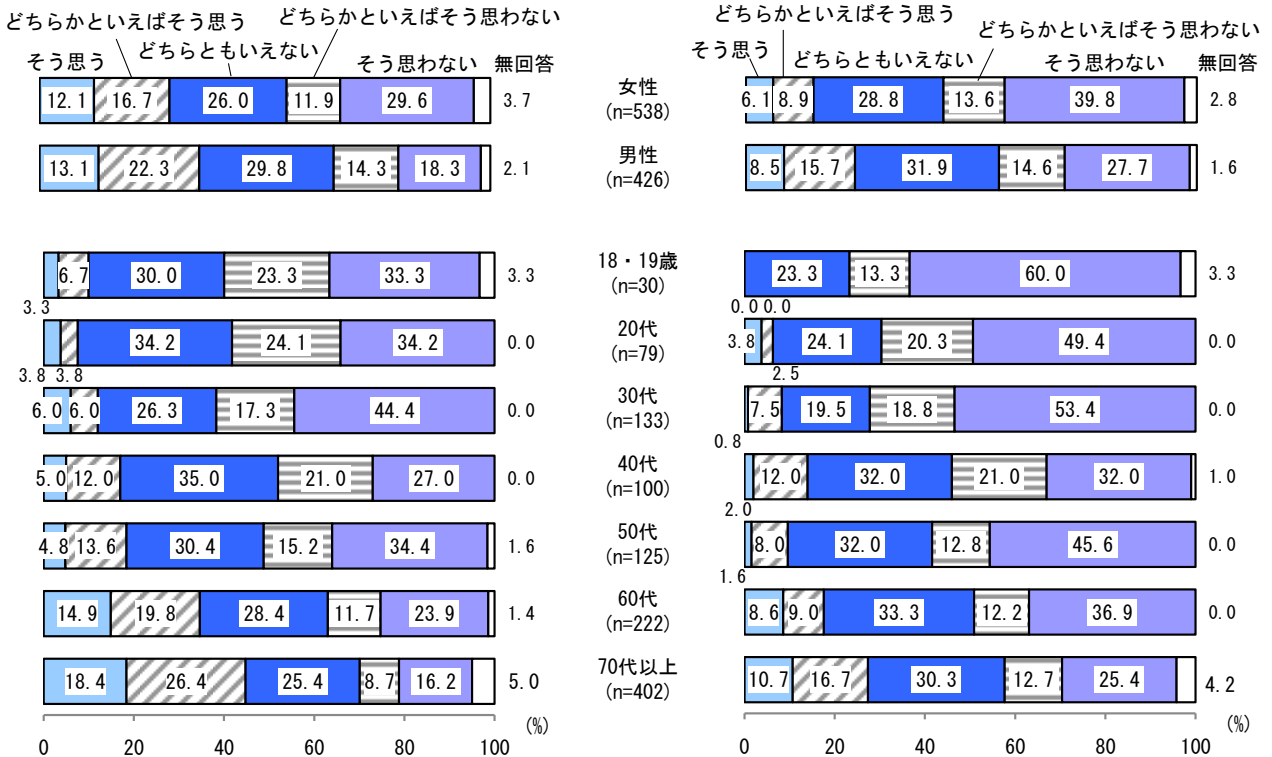
また、“⑥女性同士、男性同士の結婚も認めるべきである”では、「どちらともいえない」が34.2%で最も多く、『そう思う』は30.6%、『そう思わない』は32.0%となっており、回答がほぼ3等分となっている。

【図 12-1-1 性別・年齢別 家族に関する見方や考え方①】

①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくて ②女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育
もよい てるべきだ

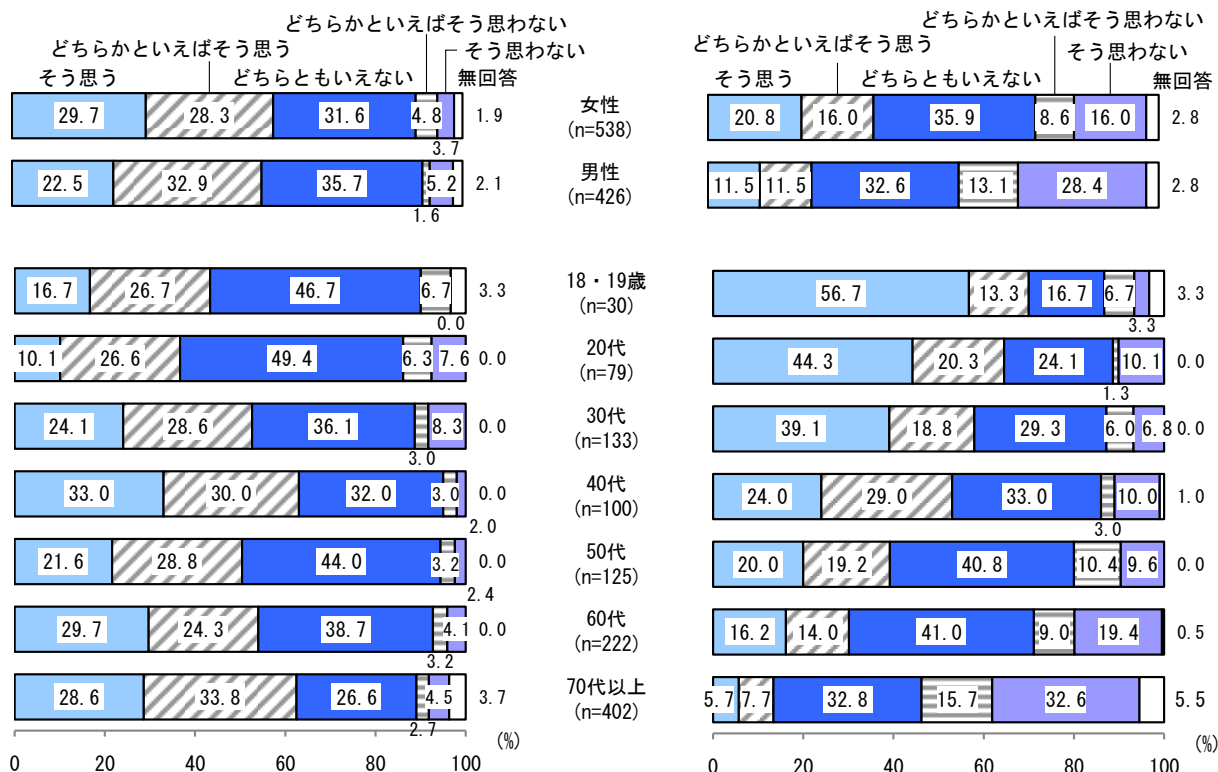


③子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念 ④家庭生活は、妻が家事・育児を受け持ち、夫は妻
するべきだ 子を養うのが一番よい

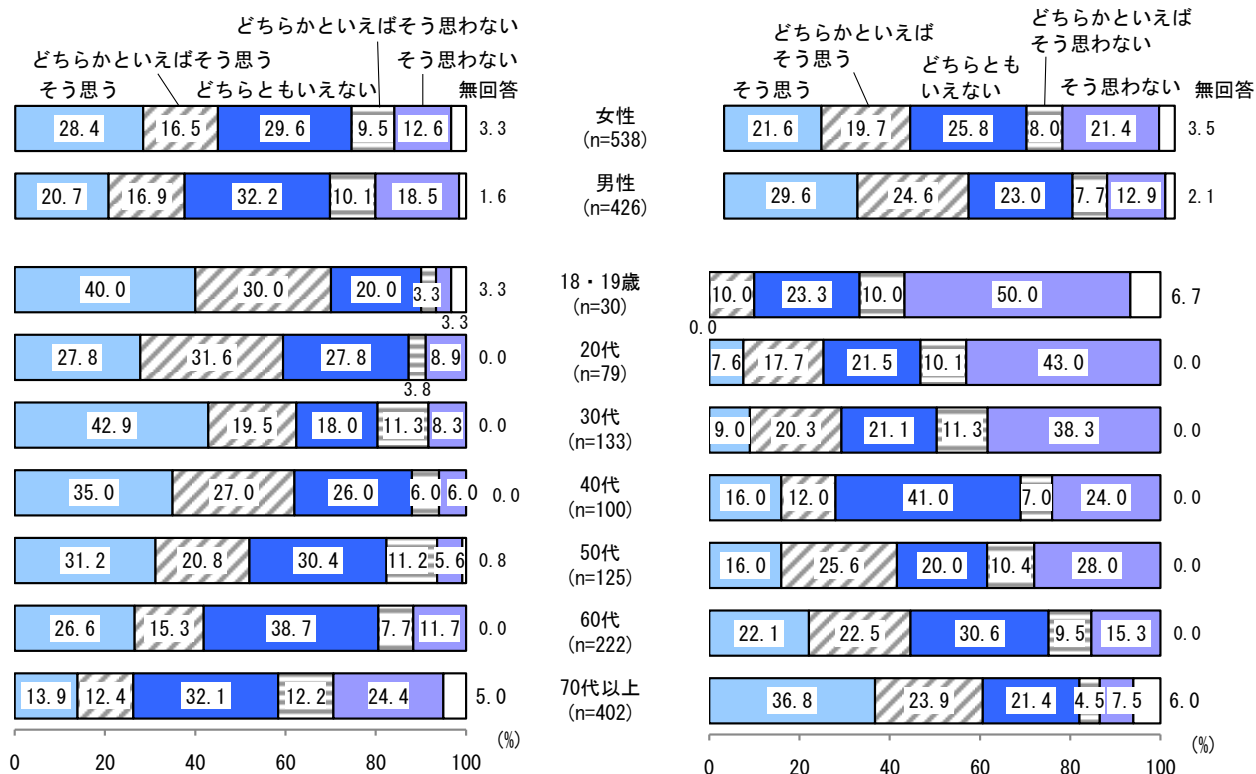


【図 12-1-1 性別・年齢別 家族に関する見方や考え方②】

⑤女性も生涯にわたって仕事を持って生きていく ⑥女性同士、男性同士の結婚も認めるべきである
 のがよい

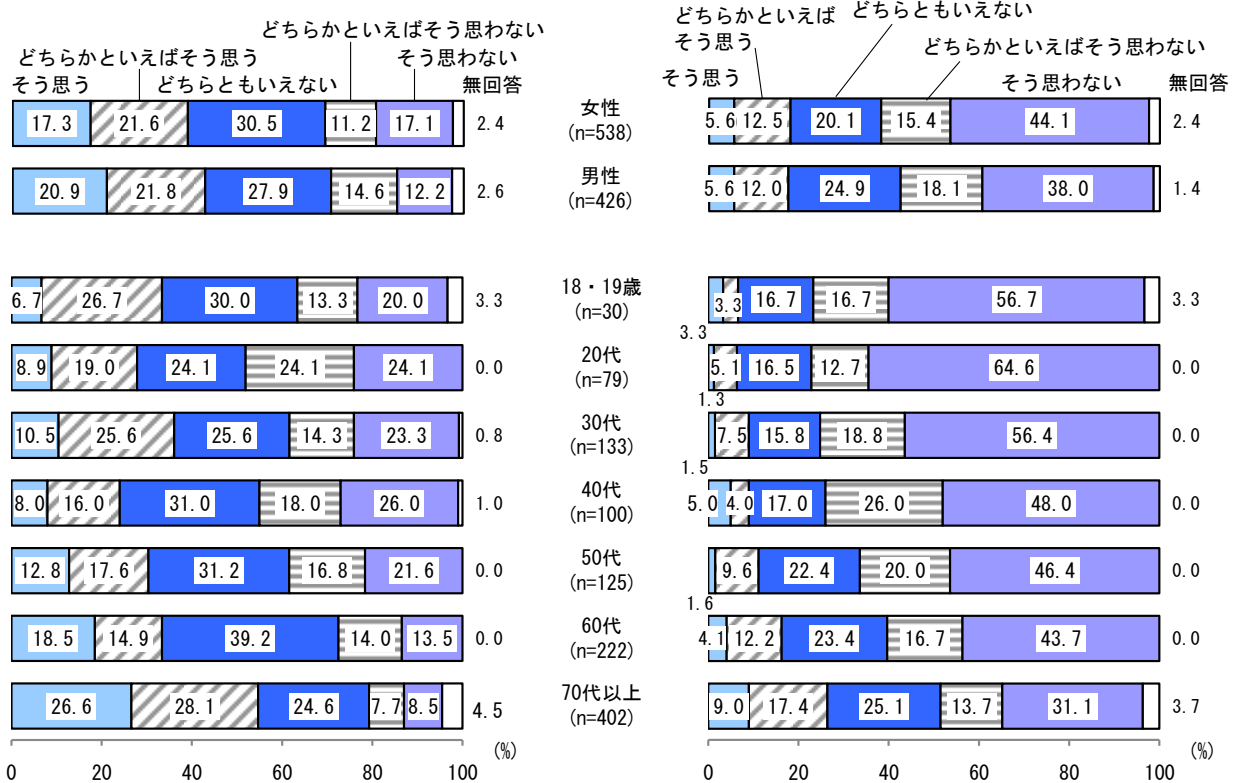


⑦希望すれば夫婦別姓を選択できるようにすべき ⑧自分の家族や親戚に同性愛者はいてほしくない
 である



【図 12-1-1 性別・年齢別 家族に関する見方や考え方③】

⑨自分の家族や親戚が未婚のまま子どもを産むことには反対する
 ⑩自分の家族や親戚が外国人と結婚することには抵抗がある



性別でみると、男女差が10ポイント以上ある項目として、女性の割合のほうが高い項目は、“②女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ”で『そう思わない』（女性43.8%、男性26.0%）が17.8ポイント差、“④家庭生活は、妻が家事・育児を受け持ち、夫は妻子を養うのが一番よい”で『そう思わない』（女性53.4%、男性42.3%）が11.1ポイント差となっている。

一方、男性の割合のほうが高い項目は、“⑥女性同士、男性同士の結婚も認めるべきである”で『そう思わない』（女性24.6%、男性41.5%）が16.9ポイント差、“⑧自分の家族や親戚に同性愛者はいてほしくない”で『そう思う』（女性41.3%、男性54.2%）が12.9ポイント差、“①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい”で『そう思わない』（女性13.6%、男性26.0%）が12.4ポイント差となっている。

年齢別でみると、『そう思う』割合が若年層のほうで高い傾向にある項目は、“①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい”、“⑥女性同士、男性同士の結婚も認めるべきである”、“⑦希望すれば夫婦別姓を選択できるようにすべきである”となっている。

一方、『そう思う』割合が高齢者のほうで高い傾向にある項目は、“③子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念するべきだ”と“⑧自分の家族や親戚に同性愛者はいてほしくない”となっている。

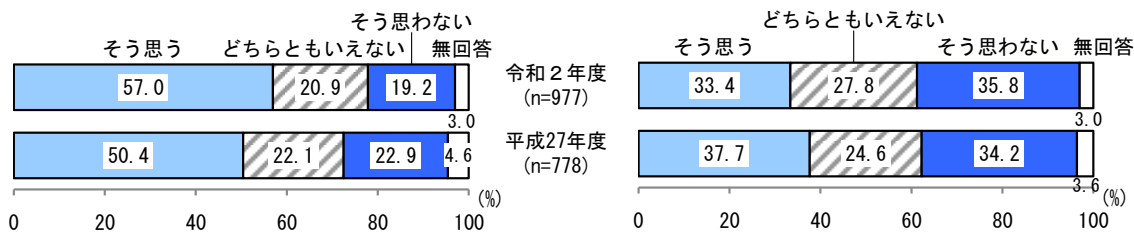
【表 12-1-1 問 16 国民の権利の理解度×問 12 家族に関する見方や考え方】

		(上段：実数、下段：%)						
		全体	そう思う	えどち らか とう い	えどち らと も い	な い え ど ち ら か と う い	そ う 思 わ な い	無 回 答
①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい	完全正解者	158 100.0	73 46.2	33 20.9	23 14.6	21 13.3	7 4.4	1 0.6
	部分正解者	658 100.0	239 36.3	138 21.0	136 20.7	75 11.4	56 8.5	14 2.1
	不正解者	134 100.0	42 31.3	23 17.2	38 28.4	13 9.7	13 9.7	5 3.7
②女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ	完全正解者	158 100.0	8 5.1	26 16.5	44 27.8	26 16.5	53 33.5	1 0.6
	部分正解者	658 100.0	86 13.1	160 24.3	178 27.1	86 13.1	133 20.2	15 2.3
	不正解者	134 100.0	11 8.2	29 21.6	44 32.8	15 11.2	30 22.4	5 3.7
③子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念するべきだ	完全正解者	158 100.0	12 7.6	27 17.1	32 20.3	21 13.3	64 40.5	2 1.3
	部分正解者	658 100.0	93 14.1	136 20.7	174 26.4	93 14.1	145 22.0	17 2.6
	不正解者	134 100.0	14 10.4	20 14.9	58 43.3	10 7.5	27 20.1	5 3.7
④家庭生活は、妻が家事・育児を受け持ち、夫は妻子を養うのが一番よい	完全正解者	158 100.0	1 0.6	20 12.7	35 22.2	18 11.4	84 53.2	-
	部分正解者	658 100.0	59 9.0	78 11.9	203 30.9	94 14.3	212 32.2	12 1.8
	不正解者	134 100.0	8 6.0	17 12.7	52 38.8	19 14.2	34 25.4	4 3.0
⑤女性も生涯にわたって仕事を持って生きていくのがよい	完全正解者	158 100.0	44 27.8	54 34.2	45 28.5	5 3.2	10 6.3	-
	部分正解者	658 100.0	183 27.8	204 31.0	212 32.2	22 3.3	26 4.0	11 1.7
	不正解者	134 100.0	28 20.9	31 23.1	60 44.8	6 4.5	6 4.5	3 2.2
⑥女性同士、男性同士の結婚も認めるべきである	完全正解者	158 100.0	48 30.4	37 23.4	39 24.7	9 5.7	24 15.2	1 0.6
	部分正解者	658 100.0	94 14.3	88 13.4	237 36.0	82 12.5	142 21.6	15 2.3
	不正解者	134 100.0	20 14.9	9 6.7	52 38.8	9 6.7	40 29.9	4 3.0
⑦希望すれば夫婦別姓を選択できるようにすべきである	完全正解者	158 100.0	68 43.0	32 20.3	34 21.5	10 6.3	14 8.9	-
	部分正解者	658 100.0	150 22.8	109 16.6	204 31.0	71 10.8	110 16.7	14 2.1
	不正解者	134 100.0	23 17.2	18 13.4	54 40.3	12 9.0	22 16.4	5 3.7
⑧自分の家族や親戚に同性愛者はいてほしくない	完全正解者	158 100.0	20 12.7	31 19.6	40 25.3	19 12.0	47 29.7	1 0.6
	部分正解者	658 100.0	191 29.0	149 22.6	154 23.4	50 7.6	100 15.2	14 2.1
	不正解者	134 100.0	30 22.4	29 21.6	38 28.4	7 5.2	23 17.2	7 5.2
⑨自分の家族や親戚が未婚のまま子どもを産むことには反対する	完全正解者	158 100.0	26 16.5	26 16.5	50 31.6	20 12.7	33 20.9	3 1.9
	部分正解者	658 100.0	131 19.9	155 23.6	187 28.4	81 12.3	93 14.1	11 1.7
	不正解者	134 100.0	27 20.1	26 19.4	42 31.3	19 14.2	16 11.9	4 3.0
⑩自分の家族や親戚が外国人と結婚することには抵抗がある	完全正解者	158 100.0	4 2.5	12 7.6	24 15.2	30 19.0	88 55.7	-
	部分正解者	658 100.0	40 6.1	82 12.5	151 22.9	108 16.4	268 40.7	9 1.4
	不正解者	134 100.0	12 9.0	22 16.4	34 25.4	22 16.4	40 29.9	4 3.0

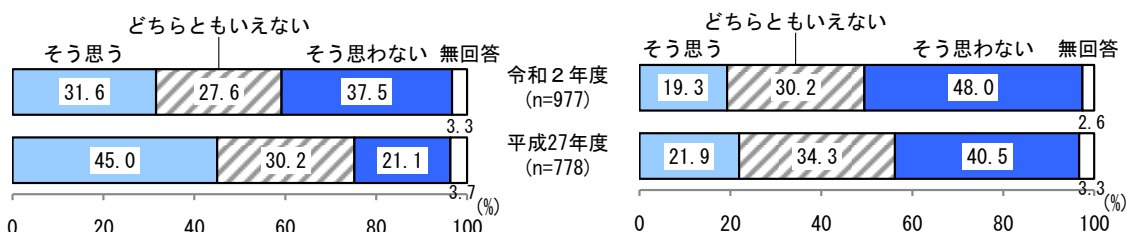
国民の権利の理解度別でみると、理解度の高い人ほど『そう思う』割合が高くなる項目は、“①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい”、“⑤女性も生涯にわたって仕事を持って生きていくのがよい”、“⑥女性同士、男性同士の結婚も認めるべきである”、“⑦希望すれば夫婦別姓を選択できるようにすべきである”となっている。また、理解度の高い人ほど『そう思わない』割合が高くなる項目は、“②女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ”、“③子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念すべきだ”、“④家庭生活は、妻が家事・育児を受け持ち、夫は妻子を養うのが一番よい”、“⑧自分の家族や親戚に同性愛者はいてほしくない”、“⑩自分の家族や親戚が外国人と結婚することには抵抗がある”となっている。

【図 12-1-2 経年比較 家族に関する見方や考え方】

- ①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい
 ②女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ

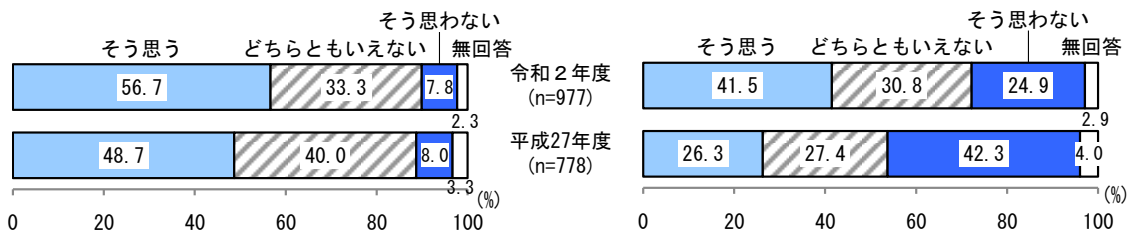


- ③子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念すべきだ
 ④家庭生活は、妻が家事・育児を受け持ち、夫は妻を養うのが一番よい



※過去調査では“子どもが3歳になるまでは母親の手で育てるのがよい”

- ⑤女性も生涯にわたって仕事を持って生きていくのがよい
 ⑦希望すれば夫婦別姓を選択できるようにすべきである



※⑥と⑧～⑩の項目は、今回調査の新規項目のため省く。

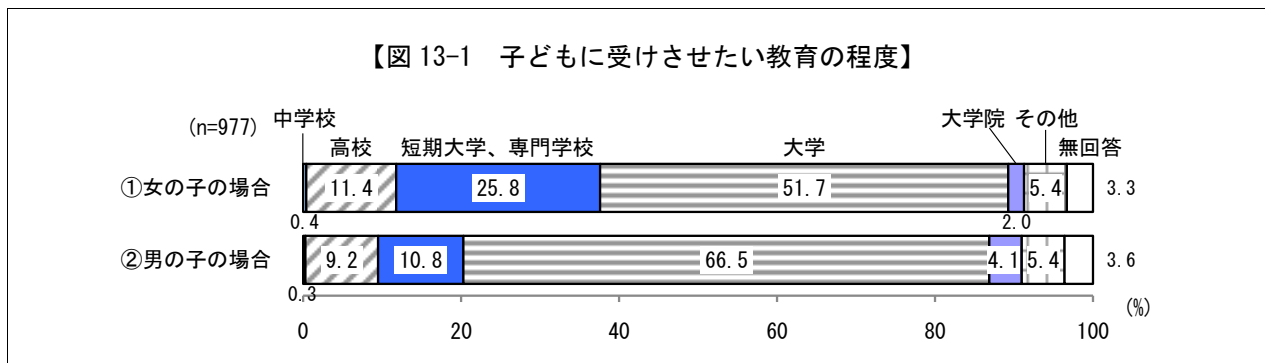
過去調査と比較すると、『そう思う』割合では、“①結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい”が6.6ポイント増加、“⑤女性も生涯にわたって仕事を持って生きていくのがよい”が8.0ポイント増加、“⑦希望すれば夫婦別姓を選択できるようにすべきである”が15.2ポイント増加となっている。

また、“②女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ”では、『そう思う』が4.3ポイント減少し、「どちらともいえない」が3.2ポイント増加している。“④家庭生活は、妻が家事・育児を受け持ち、夫は妻を養うのが一番よい”では、『そう思わない』が7.5ポイント増加している。

“③子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念すべきだ”について、過去調査では“子どもが3歳になるまでは母親の手で育てるのがよい”となっているため、参考程度に比較すると、『そう思う』と『そう思わない』が逆転した結果となっている。

10 子どもに受けさせたい教育の程度

問13 あなたは、子どもにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもの有無にかかわらず男女それぞれについてお答えください。
(女の子の場合、男の子の場合、それぞれ1つに○)



子どもに受けさせたい教育の程度について、「女の子の場合」、「男の子の場合」ともに「大学」までが最も多く、「大学院」までを合わせると、「女の子の場合」は53.7%、「男の子の場合」は70.6%となっている。子どもの性差に関わらず「大学」までを希望する人が多くなっているが、10ポイント以上の差で「男の子」のほうが高い割合になっている。

【表13-1-1 性別・年齢別 子どもに受けさせたい教育の程度】

(上段：実数、下段：%)

	性別	①女の子の場合								②男の子の場合							
		全体	中学校	高校	専短期 門期大 校学	大学	大学院	その他	無回答	全体	中学校	高校	専短期 門期大 校学	大学	大学院	その他	無回答
女性	538	-	43	151	284	12	33	15	538	-	33	54	376	22	33	20	
	100.0	-	8.0	28.1	52.8	2.2	6.1	2.8	100.0	-	6.1	10.0	69.9	4.1	6.1	3.7	
男性	426	4	68	98	220	6	18	12	426	3	57	52	270	16	18	10	
	100.0	0.9	16.0	23.0	51.6	1.4	4.2	2.8	100.0	0.7	13.4	12.2	63.4	3.8	4.2	2.3	
年齢別	18・19歳	30	-	5	2	19	-	3	30	-	5	3	18	-	3	1	
	100.0	-	16.7	6.7	63.3	-	10.0	3.3	100.0	-	16.7	10.0	60.0	-	10.0	3.3	
	20代	79	-	13	5	55	2	3	79	-	14	3	58	1	3	-	
	100.0	-	16.5	6.3	69.6	2.5	3.8	1.3	100.0	-	17.7	3.8	73.4	1.3	3.8	-	
	30代	133	1	19	25	78	1	9	133	2	18	14	88	1	9	1	
	100.0	0.8	14.3	18.8	58.6	0.8	6.8	-	100.0	1.5	13.5	10.5	66.2	0.8	6.8	0.8	
	40代	100	1	17	24	48	2	6	100	1	16	16	57	3	6	1	
	100.0	1.0	17.0	24.0	48.0	2.0	6.0	2.0	100.0	1.0	16.0	16.0	57.0	3.0	6.0	1.0	
50代	125	1	16	31	64	3	9	125	1	14	16	82	2	9	1		
100.0	0.8	12.8	24.8	51.2	2.4	7.2	0.8	100.0	0.8	11.2	12.8	65.6	1.6	7.2	0.8		
60代	222	-	27	40	130	6	15	4	222	-	21	18	154	10	15	4	
100.0	-	12.2	18.0	58.6	2.7	6.8	1.8	100.0	-	9.5	8.1	69.4	4.5	6.8	1.8		
70代以上	402	2	34	139	191	7	13	16	402	1	21	48	275	23	13	21	
100.0	0.5	8.5	34.6	47.5	1.7	3.2	4.0	100.0	0.2	5.2	11.9	68.4	5.7	3.2	5.2		

性別で見ると、「大学」または「大学院」までという割合について、「女の子の場合」では女性が55.5%、男性が53.0%となっている。「男の子の場合」では、女性が74.0%、男性が67.2%となっている。

年齢別で見ると、「大学」または「大学院」までの割合は、「女の子の場合」で4～6割台となっており、20代で72.1%と最も高い。一方、「男の子の場合」で6～7割台を占めており、20代で74.7%と最も高くなっている。

【表 13-1-2 経年比較 子どもに受けさせたい教育の程度】

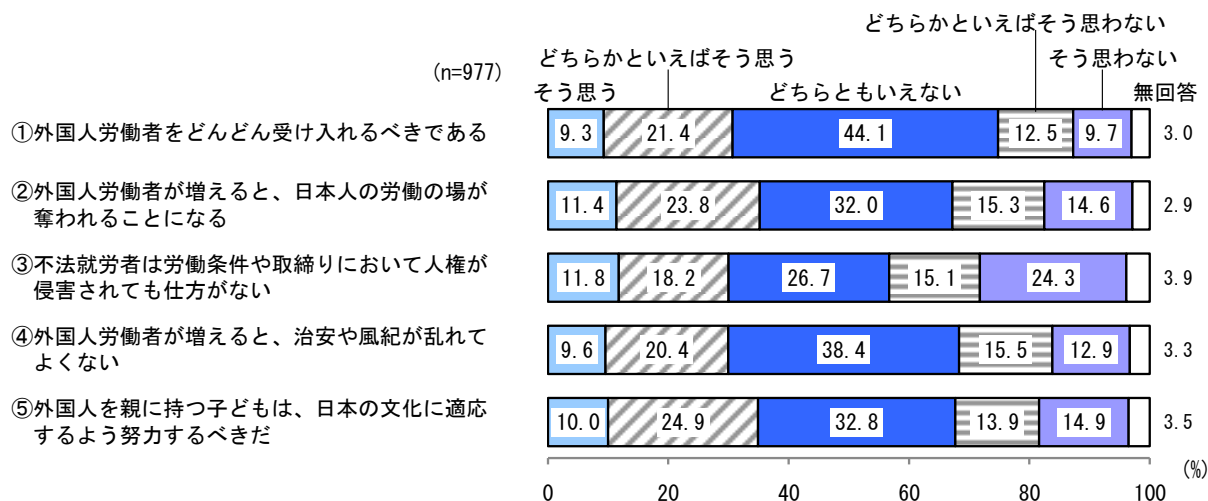
		(%)							
		全体	中学校	高校	短期大学、 専門学校	大学	大学院	その他	無回答
①女の子の場合	令和2年度	977	0.4	11.4	25.8	51.7	2.0	5.4	3.3
	平成27年度	778	0.3	13.0	29.4	45.0	1.7	5.5	5.1
	平成21年度	935	0.2	14.1	32.5	39.6	1.6	7.9	4.1
②男の子の場合	令和2年度	977	0.3	9.2	10.8	66.5	4.1	5.4	3.6
	平成27年度	778	0.4	8.0	13.0	64.5	3.5	5.3	5.4
	平成21年度	935	0.2	8.7	12.4	64.3	4.4	7.5	2.6

過去調査と比較すると、“女の子の場合”は「高校」「短期大学、専門学校」までが減少傾向にある一方で「大学」までが増加傾向にある。“男の子の場合”は大きな変化はみられない。

11 外国人雇用についての考え

問 14 国際化時代の今日、海外から多くの外国人が来日されていますが、あなたはどのように思われますか。1～5のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○）

【図 14-1 外国人労働者に対する考え】



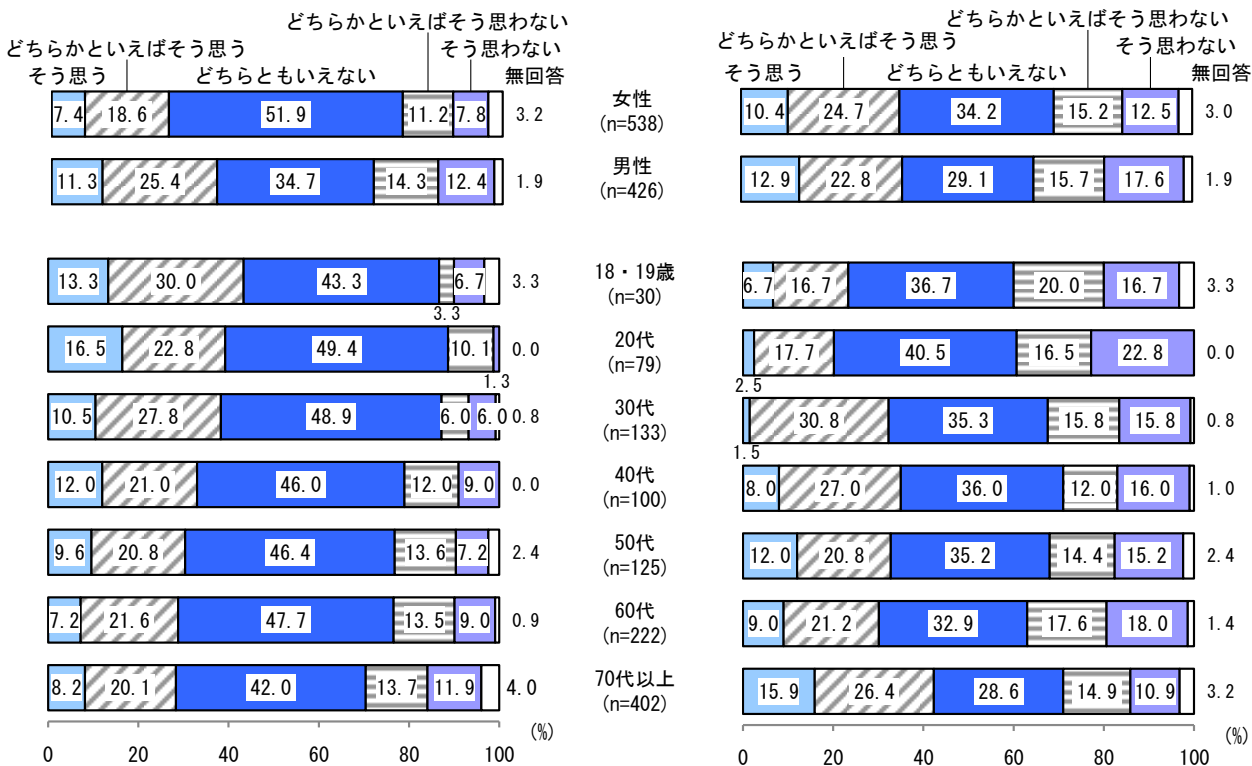
外国人労働者に対する考えについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』を比較すると、『そう思う』が多い項目は、“②外国人労働者が増えると、日本人の労働の場が奪われることになる” (35.2%) と “⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適応するよう努力するべきだ” (34.9%) となっている。

一方、『そう思わない』が多い項目は、“③不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない” (39.4%) となっている。

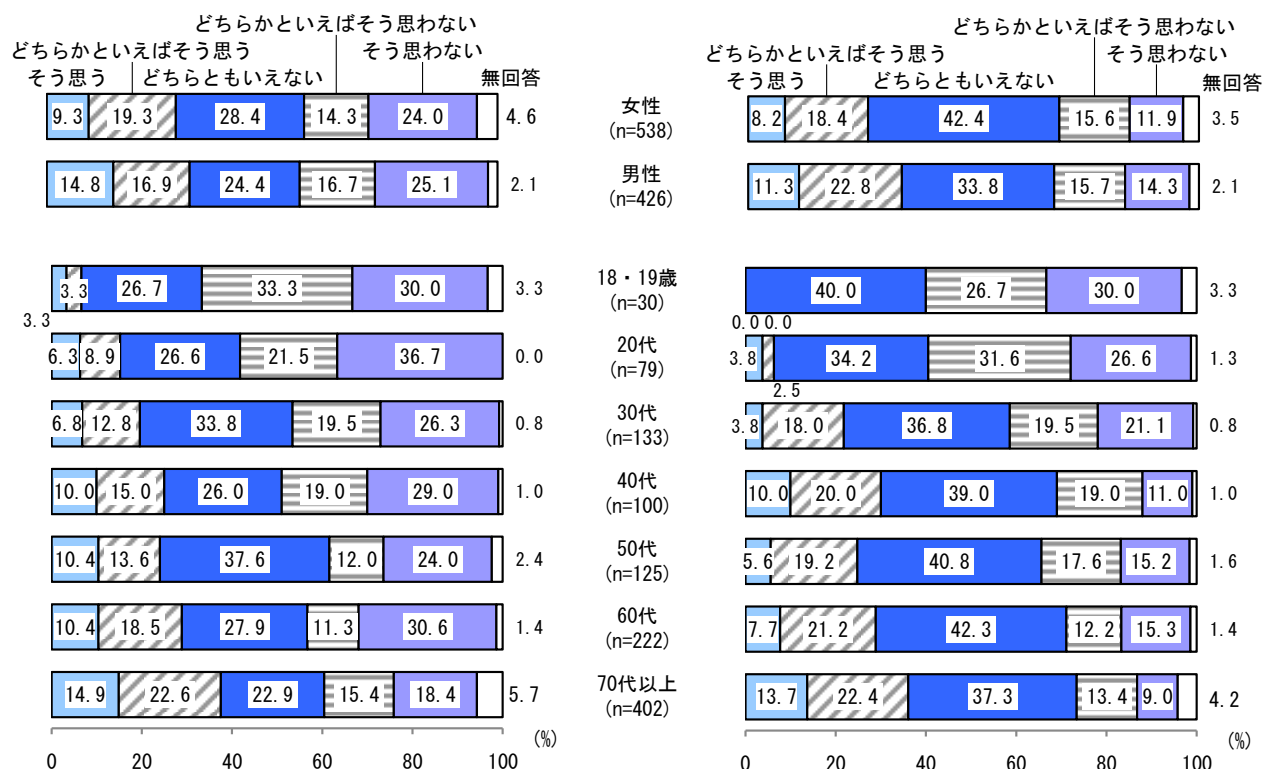
また、“①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである” では、「どちらともいえない」が 44.1% で最も多くなっており、『そう思う』は 30.7%、『そう思わない』は 22.2% で、『そう思う』のほうが多い傾向にある。“④外国人労働者が増えると、治安や風紀が乱れてよくない” も「どちらともいえない」が 38.4% で最も多くなっており、『そう思う』は 30.0%、『そう思わない』は 28.4% で、『そう思う』のほうがやや多い傾向にある。

【図 14-1-1 性別・年齢別 外国人労働者に対する考え①】

①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである ②外国人労働者が増えると、日本人の労働の場が奪われることになる

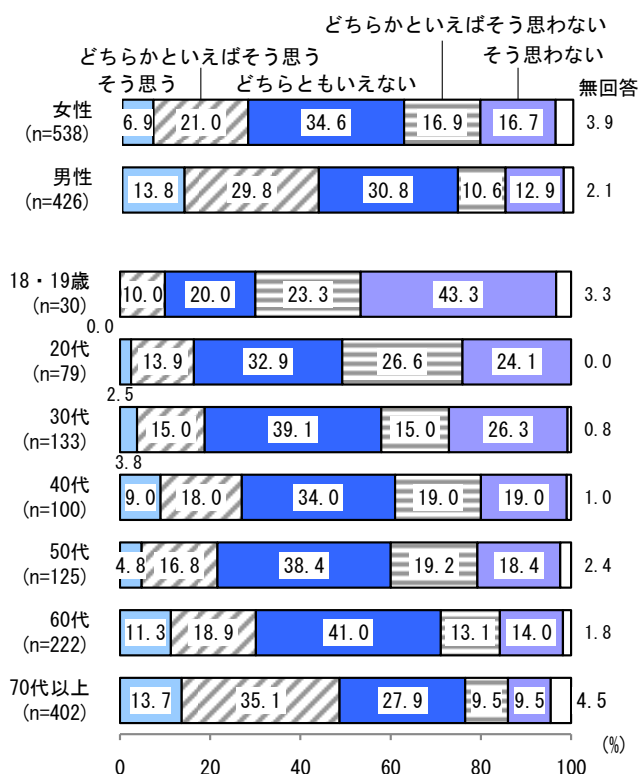


③不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない ④外国人労働者が増えると、治安や風紀が乱れてよくない



【図 14-1-1 性別・年齢別 外国人労働者に対する考え②】

⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適応するよう努力するべきだ



性別でみると、男女差が10ポイント以上ある項目として、男性の割合のほうが高い項目は、“⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適応するよう努力するべきだ”で『そう思う』（女性27.9%、男性43.6%）が15.7ポイント差、“①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである”で『そう思う』（女性26.0%、男性36.7%）が10.7ポイント差となっている。

年齢別でみると、『そう思う』割合が若年層のほうで高い傾向にある項目は、“①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである”となっている。

一方、『そう思う』割合が高齢者のほうで高い傾向にある項目は、“③不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない”と“⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適応するよう努力するべきだ”となっている。

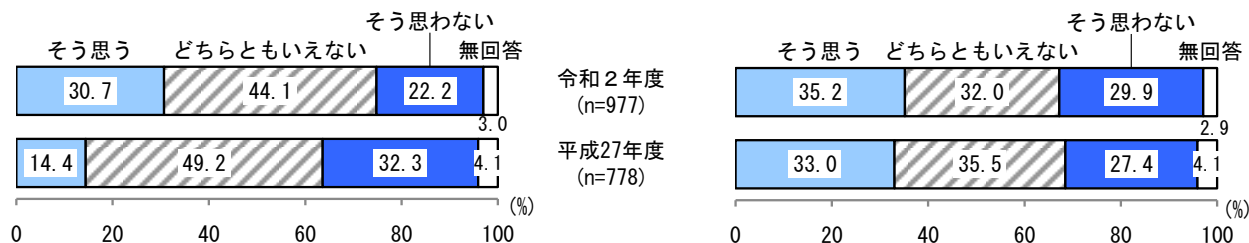
【表 14-1-1 問 16 国民の権利の理解度×問 14 外国人労働者に対する考え】

		(上段：実数、下段：%)						
		全体	そう 思う	えど ちら か と う	えど ちら と も い	な えど い ば ち ら か と わ い	そ う 思 わ な い	無 回 答
①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである	完全正解者	158 100.0	17 10.8	44 27.8	66 41.8	19 12.0	12 7.6	- -
	部分正解者	658 100.0	63 9.6	142 21.6	285 43.3	86 13.1	70 10.6	12 1.8
	不正解者	134 100.0	9 6.7	22 16.4	72 53.7	14 10.4	13 9.7	4 3.0
②外国人労働者が増えると、日本人の労働の場が奪われることになる	完全正解者	158 100.0	11 7.0	34 21.5	47 29.7	27 17.1	39 24.7	- -
	部分正解者	658 100.0	80 12.2	172 26.1	203 30.9	103 15.7	91 13.8	9 1.4
	不正解者	134 100.0	17 12.7	24 17.9	58 43.3	17 12.7	13 9.7	5 3.7
③不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない	完全正解者	158 100.0	11 7.0	22 13.9	29 18.4	25 15.8	71 44.9	- -
	部分正解者	658 100.0	83 12.6	131 19.9	173 26.3	101 15.3	154 23.4	16 2.4
	不正解者	134 100.0	17 12.7	24 17.9	54 40.3	20 14.9	12 9.0	7 5.2
④外国人労働者が増えると、治安や風紀が乱れてよくない	完全正解者	158 100.0	5 3.2	29 18.4	51 32.3	33 20.9	40 25.3	- -
	部分正解者	658 100.0	67 10.2	144 21.9	260 39.5	100 15.2	75 11.4	12 1.8
	不正解者	134 100.0	19 14.2	26 19.4	59 44.0	14 10.4	10 7.5	6 4.5
⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適應するよう努力するべきだ	完全正解者	158 100.0	13 8.2	38 24.1	39 24.7	31 19.6	36 22.8	1 0.6
	部分正解者	658 100.0	68 10.3	178 27.1	223 33.9	84 12.8	93 14.1	12 1.8
	不正解者	134 100.0	15 11.2	26 19.4	55 41.0	15 11.2	16 11.9	7 5.2

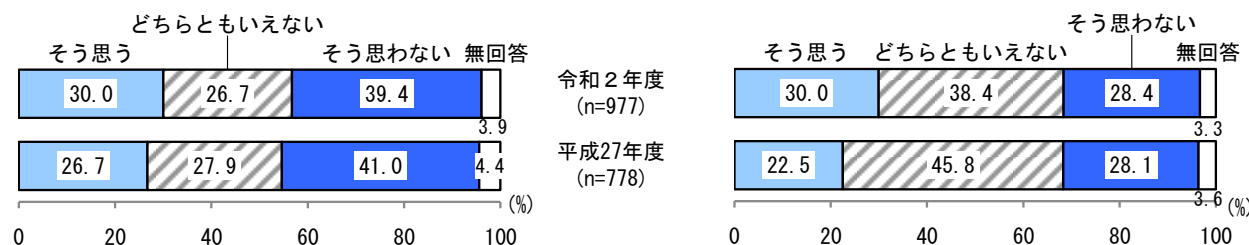
国民の権利の理解度別でみると、理解度の高い人ほど『そう思う』割合が高くなる項目は、“①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである”となっている。また、理解度の高い人ほど『そう思わない』割合が高くなる項目は、“②外国人労働者が増えると、日本人の労働の場が奪われることになる”、“③不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない”、“④外国人労働者が増えると、治安や風紀が乱れてよくない”、“⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適應するよう努力するべきだ”となっている。

【図 14-1-2 経年比較 外国人労働者に対する考え】

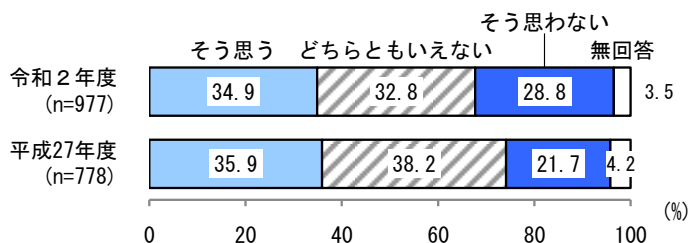
- ①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである ②外国人労働者が増えると、日本人の労働の場が奪われることになる



- ③不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない ④外国人労働者が増えると、治安や風紀が乱れてよくない



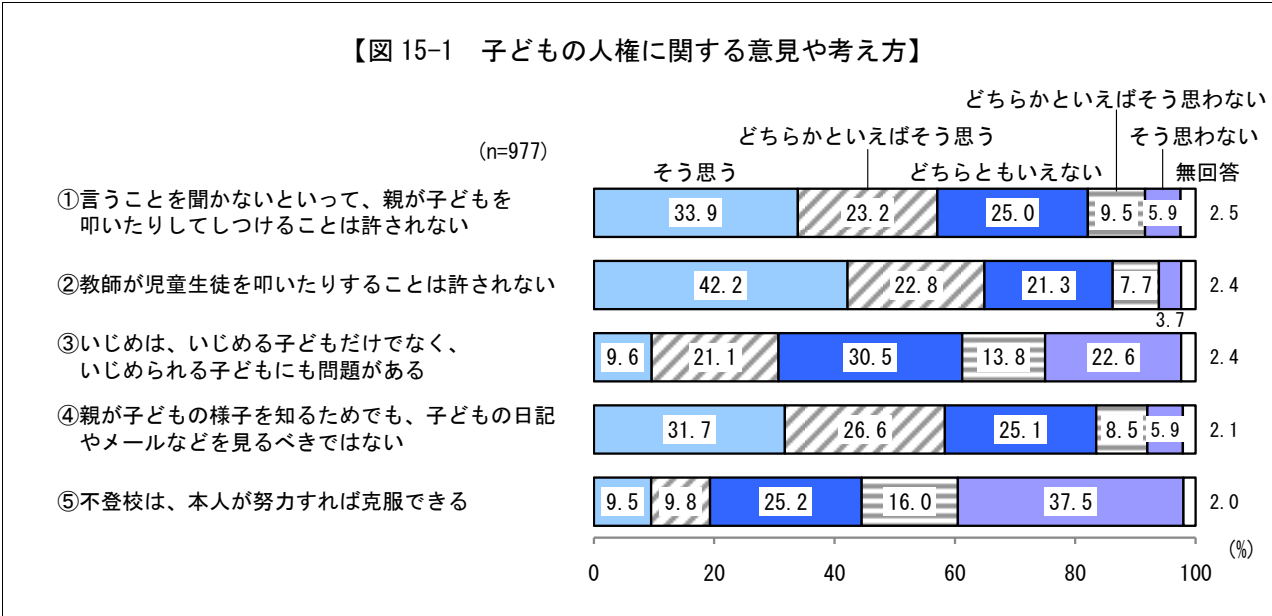
- ⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適応するよう努力すべきだ



過去調査と比較すると、“①外国人労働者をどんどん受け入れるべきである”では、『そう思う』が16.3ポイントの増加、『そう思わない』は10.1ポイントの減少となっており、『そう思う』と『そう思わない』が逆転した結果となっている。“②外国人労働者が増えると、日本人の労働の場が奪われることになる”は前回と同様の傾向がみられ、『そう思う』『そう思わない』とも2ポイント増加している。“③不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない”では、前回と同様『そう思わない』が4割程度を占めるが、『そう思う』が3.3ポイント増加している。“④外国人労働者が増えると、治安や風紀が乱れてよくない”では、『そう思わない』に大きな変化はみられないが、『そう思う』が7.5ポイント増加している。“⑤外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適応するよう努力すべきだ”では、『そう思う』に大きな変化はみられないが、『そう思わない』が7.1ポイント増加している。

12 子どもの人権に関する意見や考え方

問 15 あなたは、次に掲げた子どもの人権に関する意見や考え方について、どのように思われますか。1～5のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○)

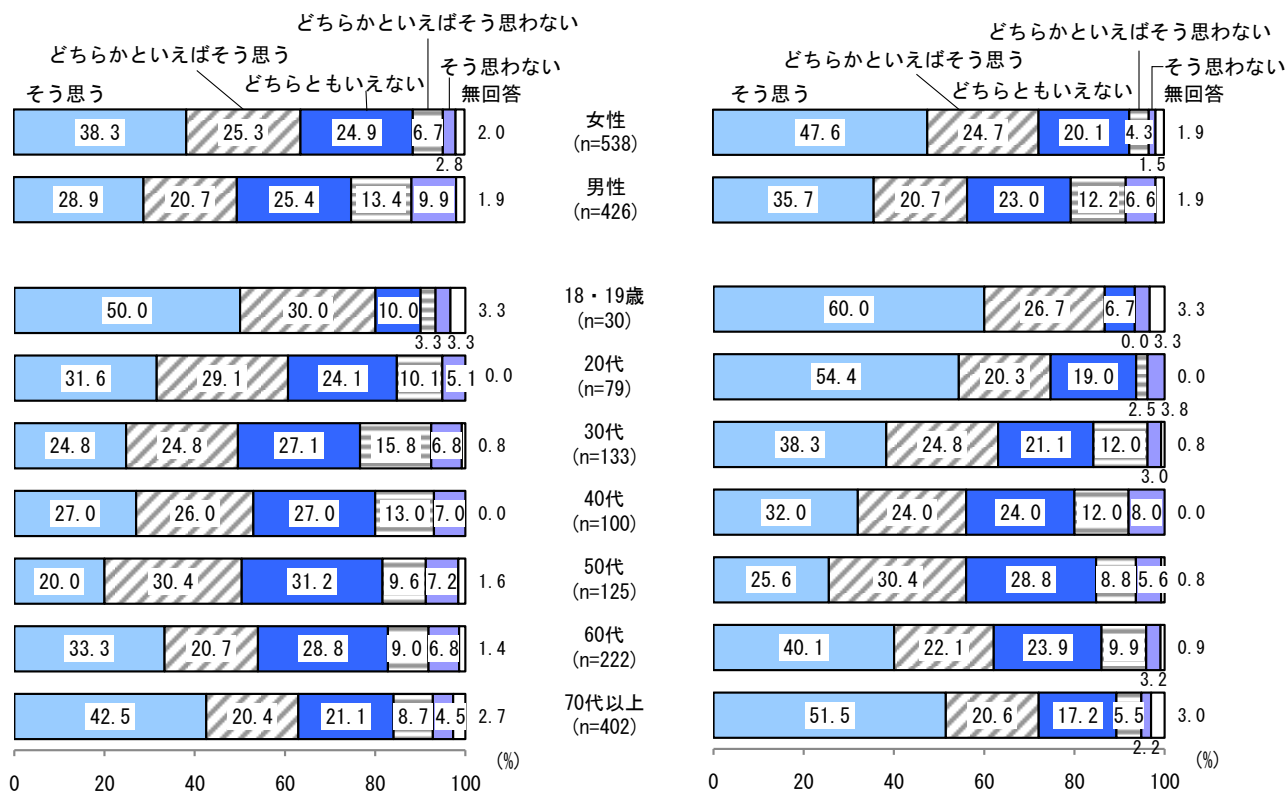


子どもの人権に関する意見や考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』で比較すると、『そう思う』が多い項目は、“①言うことを聞かないといって、親が子どもを叩いたりしてしつけることは許されない” (57.1%)、“②教師が児童生徒を叩いたりすることは許されない” (65.0%)、“④親が子どもの様子を知るためでも、子どもの日記やメールなどを見るべきではない” (58.3%) となっている。

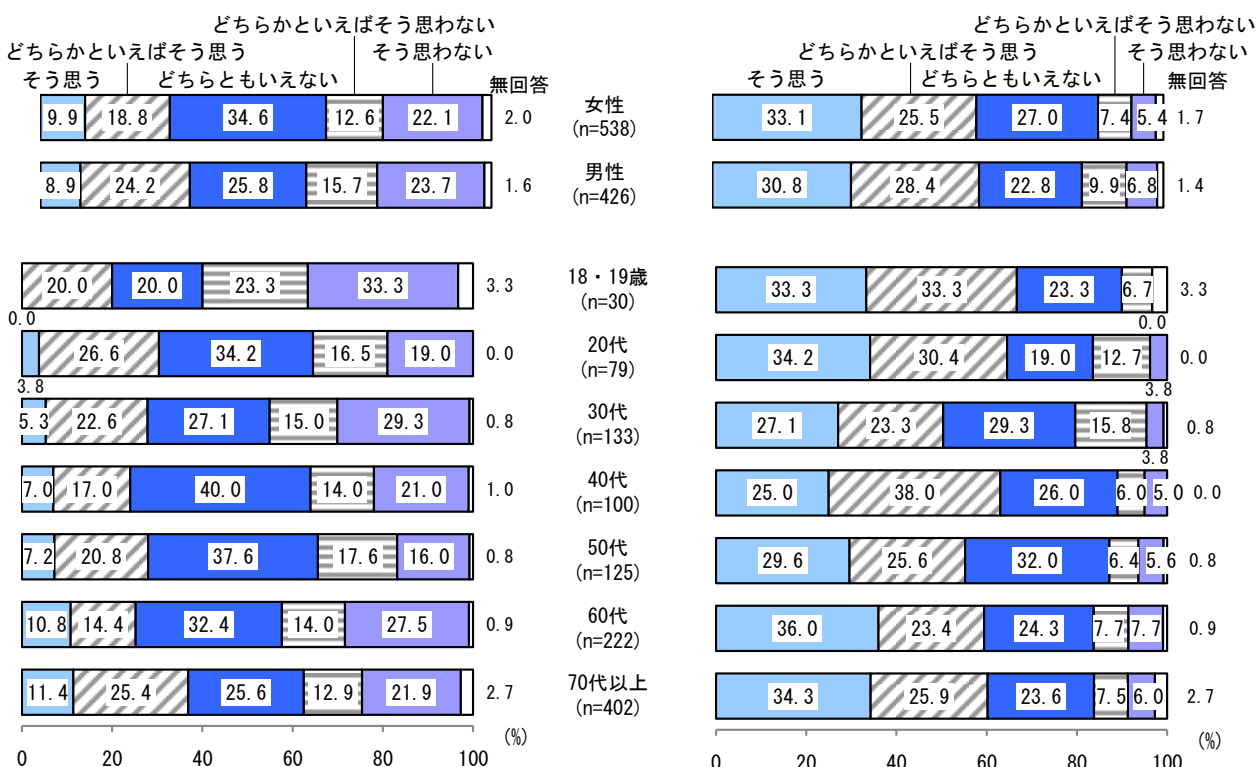
一方、『そう思わない』が多い項目は、“③いじめは、いじめる子どもだけでなく、いじめられる子どもにも問題がある” (36.4%) “⑤不登校は、本人が努力すれば克服できる” (53.5%) となっている。

【図 15-1-1 性別・年齢別 子どもの人権に関する意見や考え方①】

①言うことを聞かないといって、親が子どもを叩く ②教師が児童生徒を叩いたりすることは許されな
いたりしてしつけることは許されない い

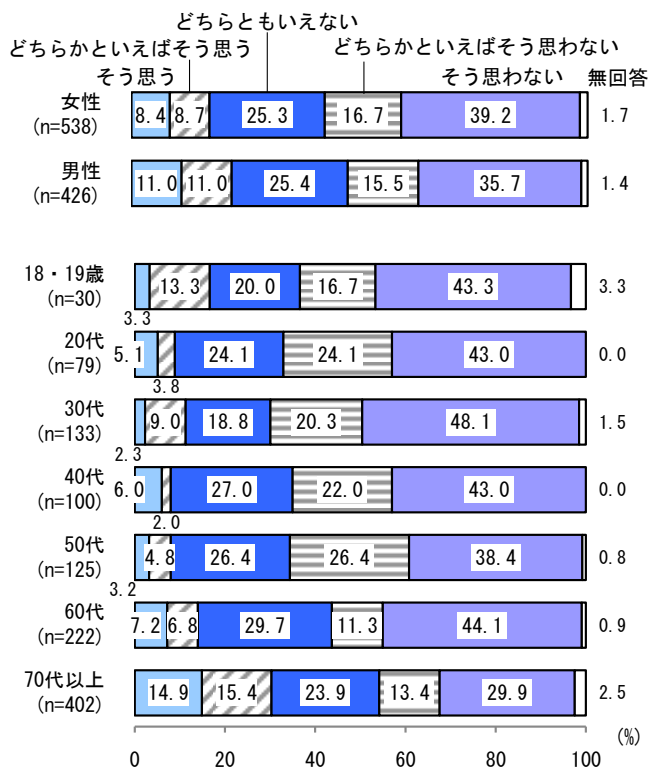


③いじめは、いじめる子どもだけでなく、いじめられる子どもにも問題がある ④親が子どもの様子を知るためでも、子どもの日記やメールなどを見るべきではない



【図 15-1-1 性別・年齢別 子どもの人権に関する意見や考え方②】

⑤不登校は、本人が努力すれば克服できる

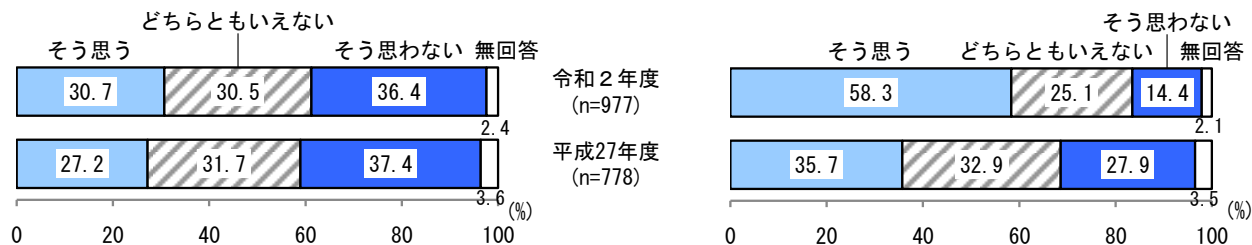


性別でみると、男女差が10ポイント以上ある項目として、女性の割合のほうが高い項目は、“②教師が児童生徒を叩いたりすることは許されない”で『そう思う』(女性72.3%、男性56.4%)が15.9ポイント差、“①言うことを聞かないといって、親が子どもを叩いたりしてしつけることは許されない”で『そう思う』(女性63.6%、男性49.6%)が14.0ポイント差となっている。一方、男性では、それら両項目とも『そう思わない』が2割程度を占めており、女性と比べて10ポイント以上高い割合になっている。

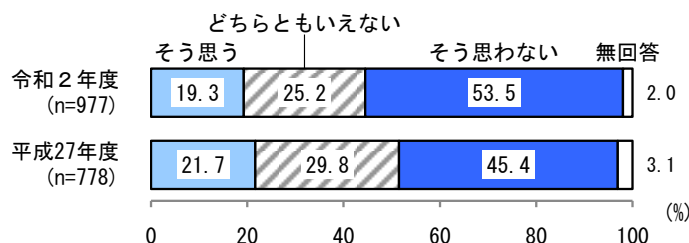
年齢別でみると、30～50代では“①言うことを聞かないといって、親が子どもを叩いたりしてしつけることは許されない”と“②教師が児童生徒を叩いたりすることは許されない”が『そう思う』割合で他の年齢より低い傾向にある。また、70代以上では“⑤不登校は、本人が努力すれば克服できる”が『そう思う』割合で30.3%と高い割合になっている。

【図 15-1-2 経年比較 子どもの人権に関する意見や考え方】

③いじめは、いじめられる子どもだけでなく、いじめられる子どもにも問題がある
 ④親が子どもの様子を知るためでも、子どもの日記やメールなどを見るべきではない



⑤不登校は、本人が努力すれば克服できる

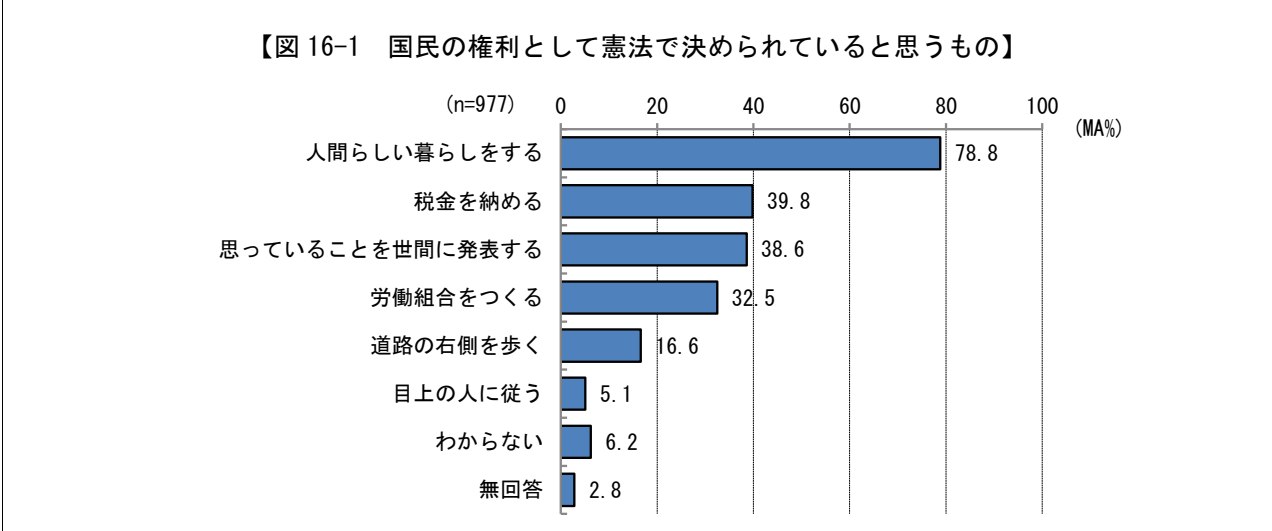


※①～②の項目は、今回調査の新規項目のため省く。

過去調査と比較すると、“③いじめは、いじめられる子どもだけでなく、いじめられる子どもにも問題がある”では、『そう思う』が3.5ポイント増加している。“④親が子どもの様子を知るためでも、子どもの日記やメールなどを見るべきではない”では、『そう思う』が22.6ポイント増加し、『そう思わない』は13.5ポイント減少している。“⑤不登校は、本人が努力すれば克服できる”では、『そう思わない』が8.1ポイント増加している。

13 国民の権利として憲法で決められていると思うもの

問 16 次の1～6について、憲法によって義務ではなく国民の権利として決められているものはどれだと思いますか。いくつでもあげてください。



憲法によって国民の権利として決められていると思うものとして、「人間らしい暮らしをする」が 78.8%で最も多く、次いで「税金を納める」が 39.8%、「思っていることを世間に発表する」が 38.6%となっている。

【表 16-1-1 性別・年齢別 国民の権利として憲法で決められていると思うもの】

(上段：実数、下段：%)

		全体	人間らしい暮らしをする	税金を納める	思っていることを世間に発表する	労働組合をつくる	道路の右側を歩く	目上の人に従う	わからない	無回答
			実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)	実数	割合 (%)
性別	女性	538	420	210	197	169	95	29	34	16
	男性	426	342	175	178	148	63	20	26	7
年齢別	18・19歳	30	25	7	18	14	5	1	3	1
	20代	79	56	25	35	27	2	2	11	1
	30代	133	104	30	73	50	10	8	14	1
	40代	100	77	30	46	40	6	7	7	2
	50代	125	101	47	44	40	12	2	10	2
	60代	222	179	82	81	87	22	6	14	4
	70代以上	402	320	196	139	106	112	29	20	12
	全体	977	796	488	466	417	279	101	106	42

性別でみると、「人間らしい暮らしをする」が、女性 78.1%、男性 80.3%で最も多くなっている。これに次いで、女性は「税金を納める」が 39.0%、男性は「思っていることを世間に発表する」が 41.8%となっている。

年齢別にみると、18・19歳が「人間らしい暮らしをする」(83.3%)、「思っていることを世間に発表する」(60.0%)、「労働組合をつくる」(46.7%)で最も高い割合になっている。なお、20代は「人間らしい暮らしをする」(70.9%)が、70代以上は「思っていることを世間に発表する」(34.6%)と「労働組合をつくる」(26.4%)が、それぞれ最も低い割合になっている。

【表 16-1-2 性別・年齢別 国民の権利の理解度】

(上段：実数、下段：%)

		全 体	完 全 正 解 者	部 分 正 解 者	不 正 解 者	無 回 答
全 体		977 100.0	158 16.2	658 67.3	134 13.7	27 2.8
性 別	女性	538 100.0	81 15.1	367 68.2	74 13.8	16 3.0
	男性	426 100.0	77 18.1	283 66.4	59 13.8	7 1.6
年 齢 別	18・19歳	30 100.0	10 33.3	16 53.3	3 10.0	1 3.3
	20代	79 100.0	14 17.7	47 59.5	17 21.5	1 1.3
	30代	133 100.0	30 22.6	80 60.2	22 16.5	1 0.8
	40代	100 100.0	21 21.0	62 62.0	15 15.0	2 2.0
	50代	125 100.0	23 18.4	82 65.6	18 14.4	2 1.6
	60代	222 100.0	45 20.3	142 64.0	31 14.0	4 1.8
	70代以上	402 100.0	44 10.9	296 73.6	50 12.4	12 3.0

《再掲》

『完全正解者』…正答である「人間らしい暮らしをする」「思っていることを世間に発表する」「労働組合をつくる」の3つのみを選択したもの。

『部分正解者』…正答である3つのうち一部のみを選択する、または3つすべてを選択した上で他の項目も選択したもの。

『不正解者』…正答である3つ以外の項目のみを選択したもの。

国民の権利の理解度について、「完全正解者」は16.2%、「部分正解者」は67.3%、「不正解者」は13.7%となっている。

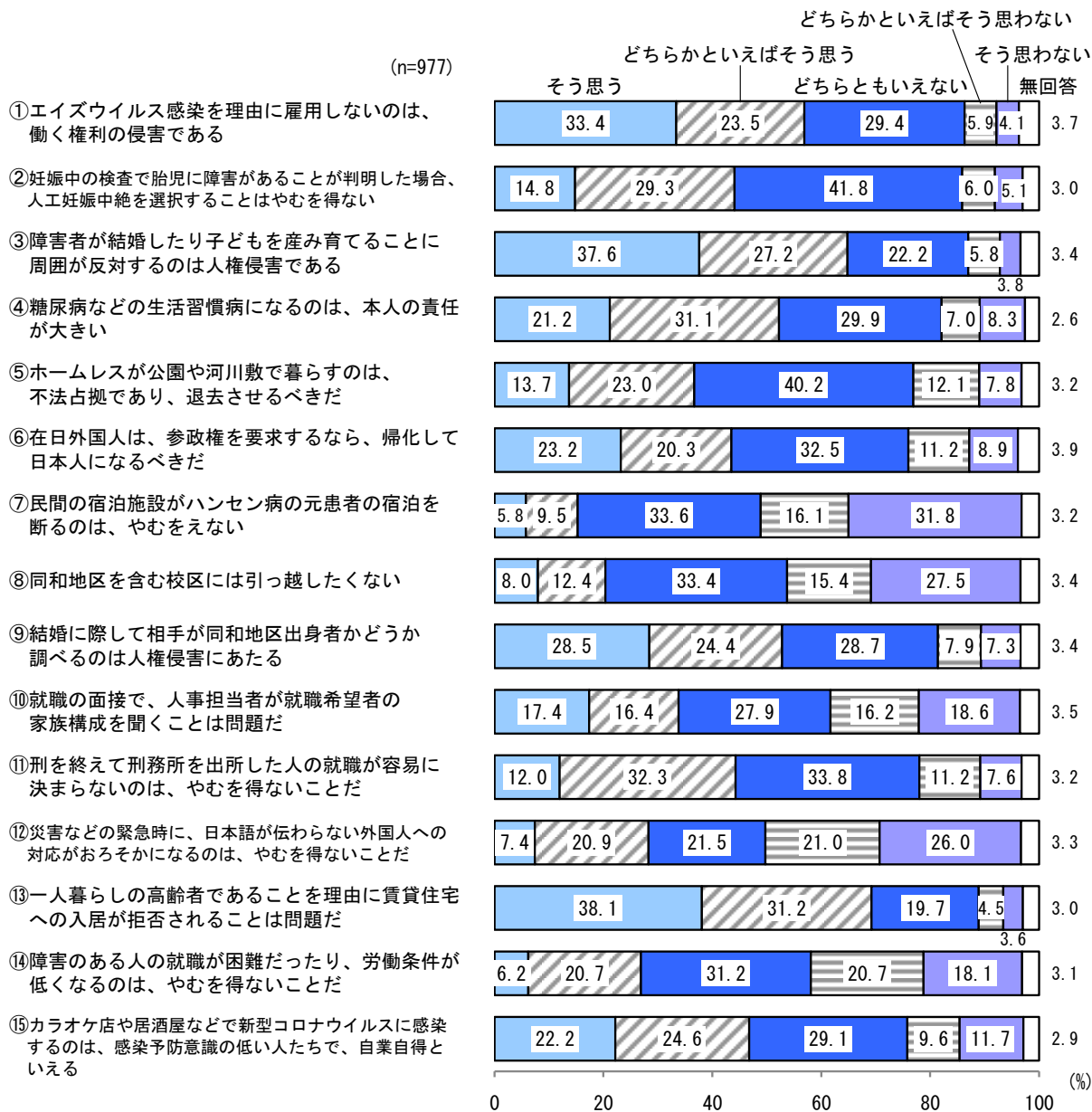
性別でみると、「完全正解者」の割合は、女性が15.1%、男性が18.1%で、男性のほうが3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「完全正解者」の割合は、18・19歳が33.3%で最も高く、次いで30代が22.6%、40代が21.0%となっている。一方、「不正解者」の割合は、20代が21.5%と高くなっている。

14 人権侵害に関することからに対する考え

問17 次に掲げることがらについて、あなたはどのように思われますか。
1～15のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○)

【図 17-1 人権侵害に関することからに対する考え】



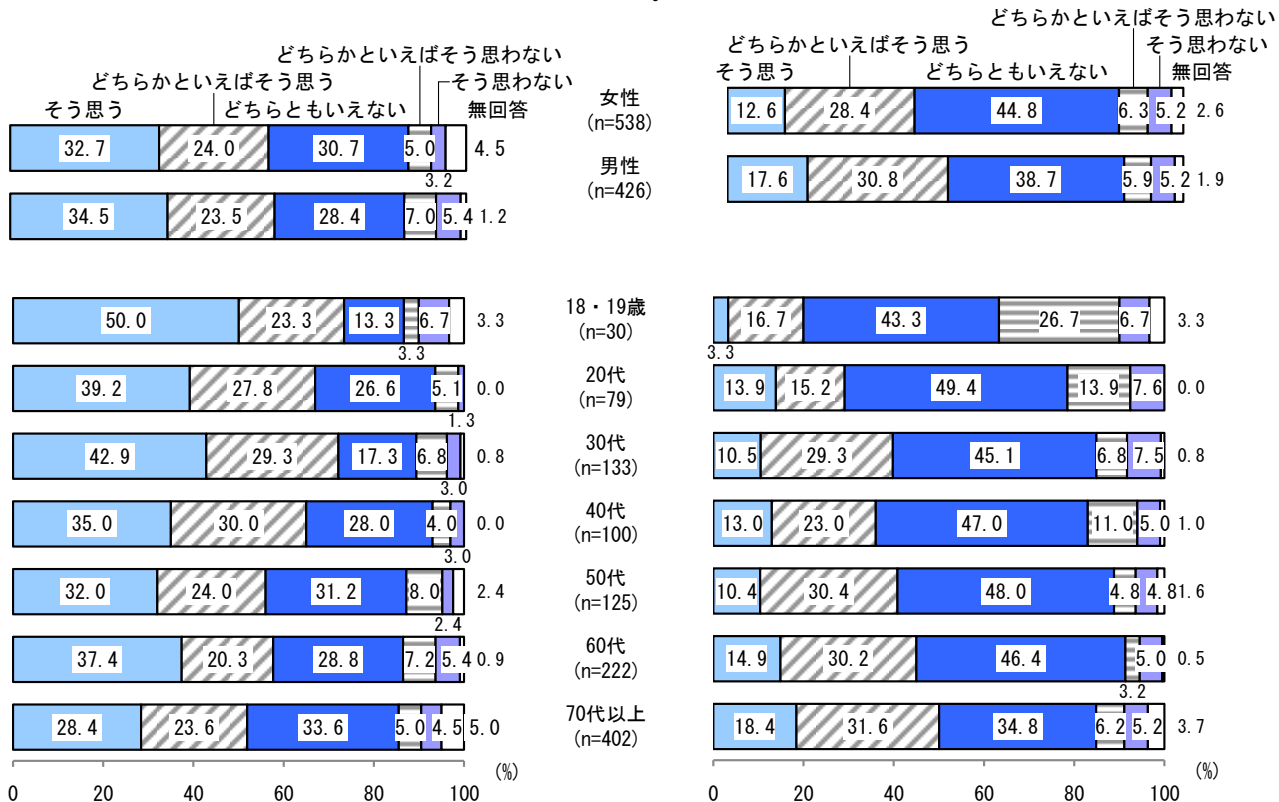
人権侵害に関することから対する考えについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』で比較すると、『そう思う』が多い項目は、“①エイズウイルス感染を理由に雇用しないのは、働く権利の侵害である”（56.9%）、“②妊娠中の検査で胎児に障害があることが判明した場合、人工妊娠中絶を選択することはやむを得ない”（44.1%）、“③障害者が結婚したり子どもを産み育てることに周囲が反対するのは人権侵害である”（64.8%）、“④糖尿病などの生活習慣病になるのは、本人の責任が大きい”（52.3%）、“⑥在日外国人は、参政権を要求するなら、帰化して日本人になるべきだ”（43.5%）、“⑨結婚に際して相手が同和地区出身者かどうか調べるのは人権侵害にあたる”（52.9%）、“⑪刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないのは、やむを得ないことだ”（44.3%）、“⑬一人暮らしの高齢者であることを理由に賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ”（69.3%）、“⑮カラオケ店や居酒屋などで新型コロナウイルスに感染するのは、感染予防意識の低い人たちで、自業自得といえる”（46.8%）となっている。

一方、『そう思わない』が多い項目は、“⑦民間の宿泊施設がハンセン病の元患者の宿泊を断るのは、やむをえない”（47.9%）、“⑧同和地区を含む校区には引っ越したくない”（42.9%）、“⑫災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになるのは、やむを得ないことだ”（47.0%）、“⑭障害のある人の就職が困難だったり、労働条件が低くなるのは、やむを得ないことだ”（38.8%）となっている。

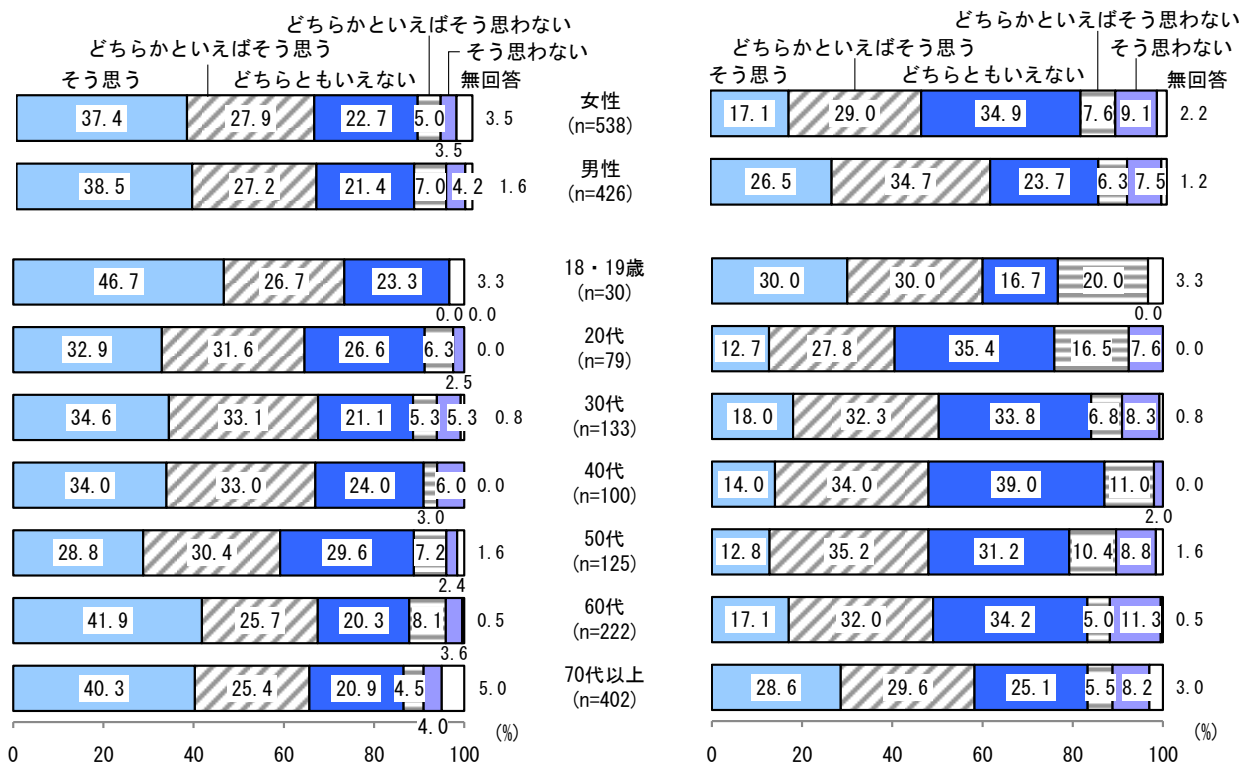
また、“⑤ホームレスが公園や河川敷で暮らすのは、不法占拠であり、退去させるべきだ”では、「どちらともいえない」が40.2%で最も多くなっており、『そう思う』は36.7%、『そう思わない』は19.9%で、『そう思う』のほうが多い傾向にある。“⑩就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くことは問題だ”では、『そう思う』が33.8%、『そう思わない』が34.8%で同程度の割合となっている。

【図 17-1-1 性別・年齢別 人権侵害に関することからに対する考え①】

- ①エイズウイルス感染を理由に雇用しないのは、働く権利の侵害である
 ②妊娠中の検査で胎児に障害があることが判明した場合、人工妊娠中絶を選択することはやむを得ない

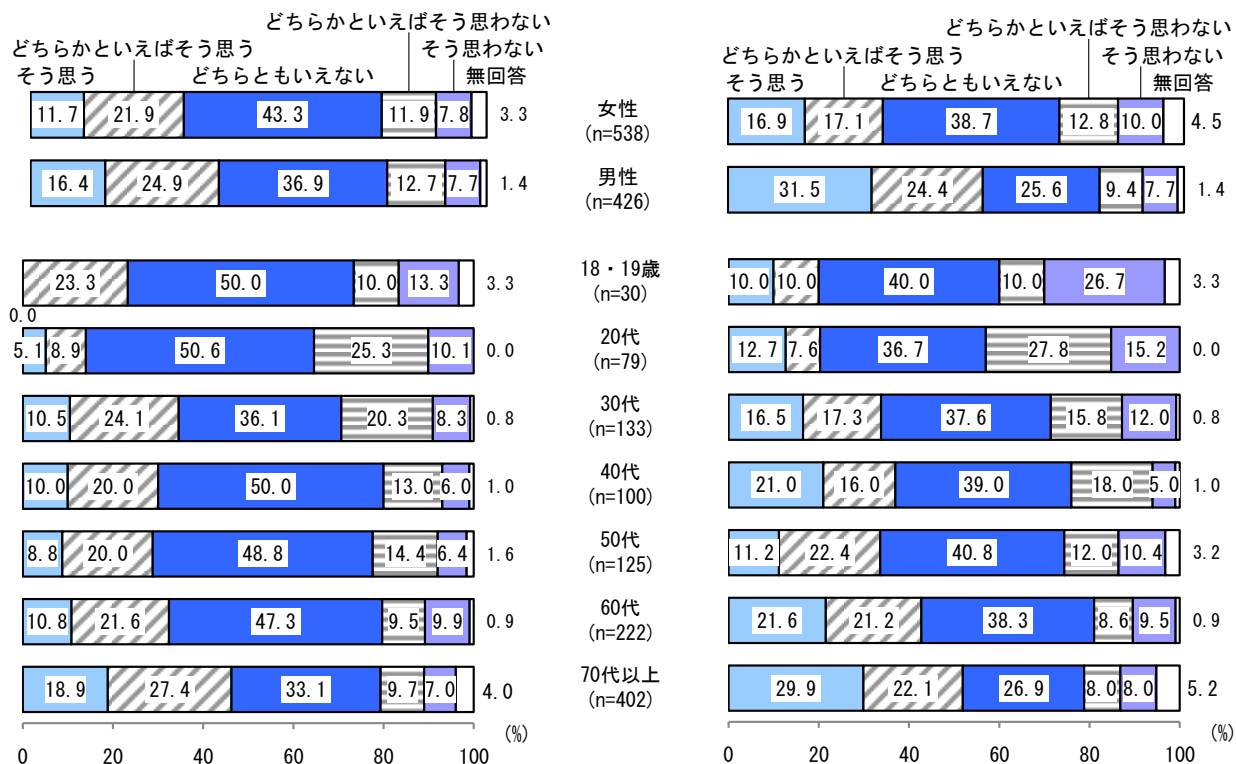


- ③障害者が結婚したり子どもを産み育てることに周囲が反対するのは人権侵害である
 ④糖尿病などの生活習慣病になるのは、本人の責任が大きい

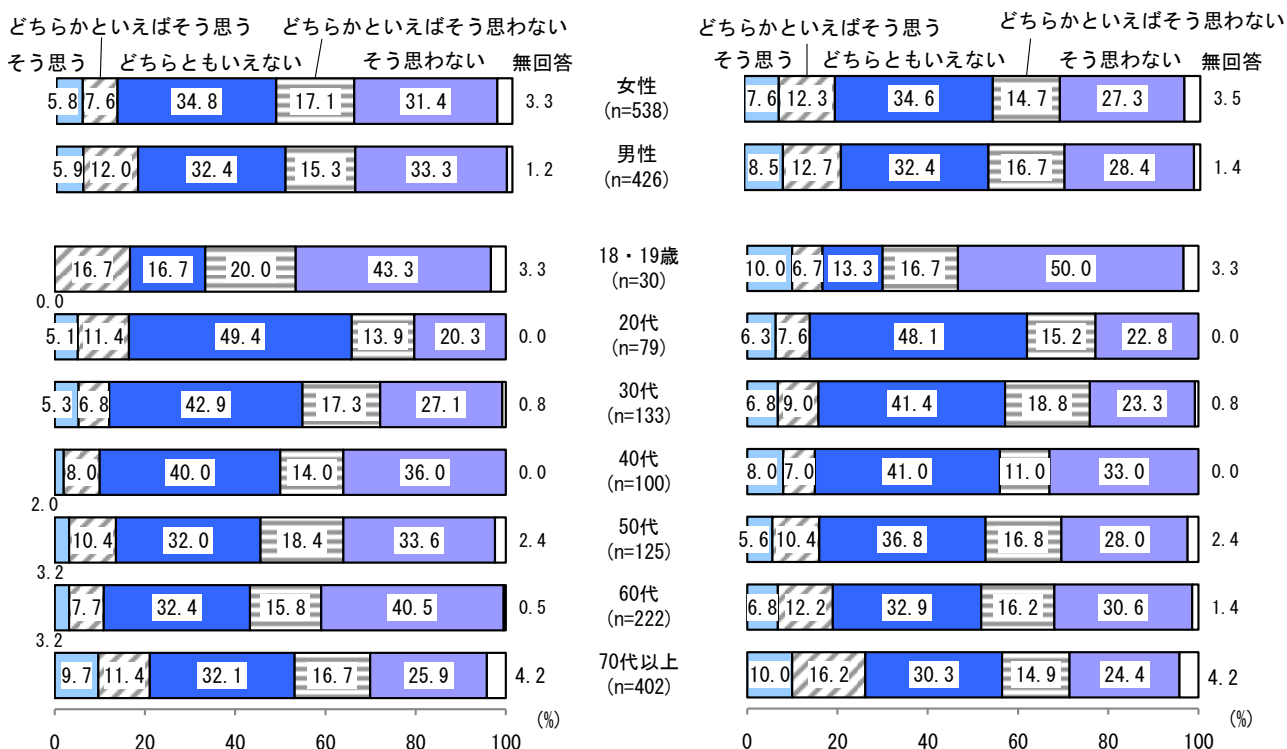


【図 17-1-1 性別・年齢別 人権侵害に関することからに対する考え②】

⑤ホームレスが公園や河川敷で暮らすのは、不法 ⑥在日外国人は、参政権を要求するなら、帰化して
占拠であり、退去させるべきだ 日本人になるべきだ

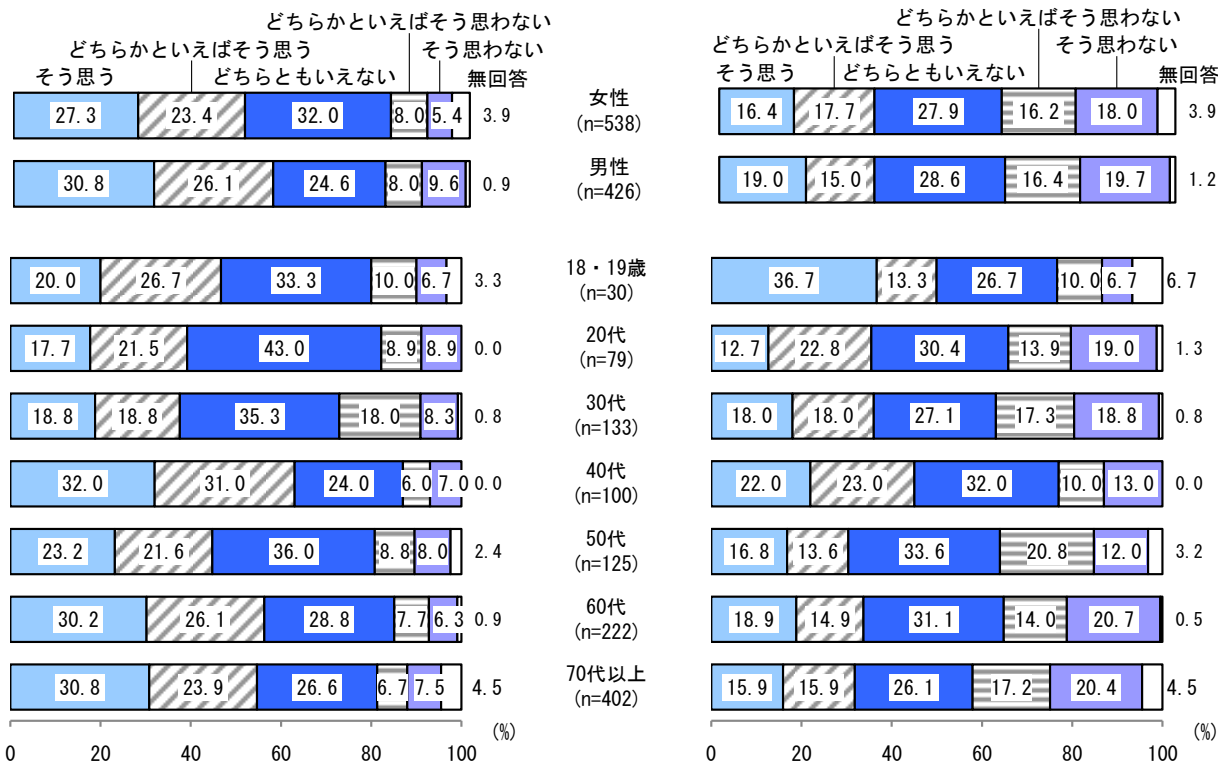


⑦民間の宿泊施設がハンセン病の元患者の宿泊を ⑧同和地区を含む校区には引っ越したくない
断るのは、やむをえない

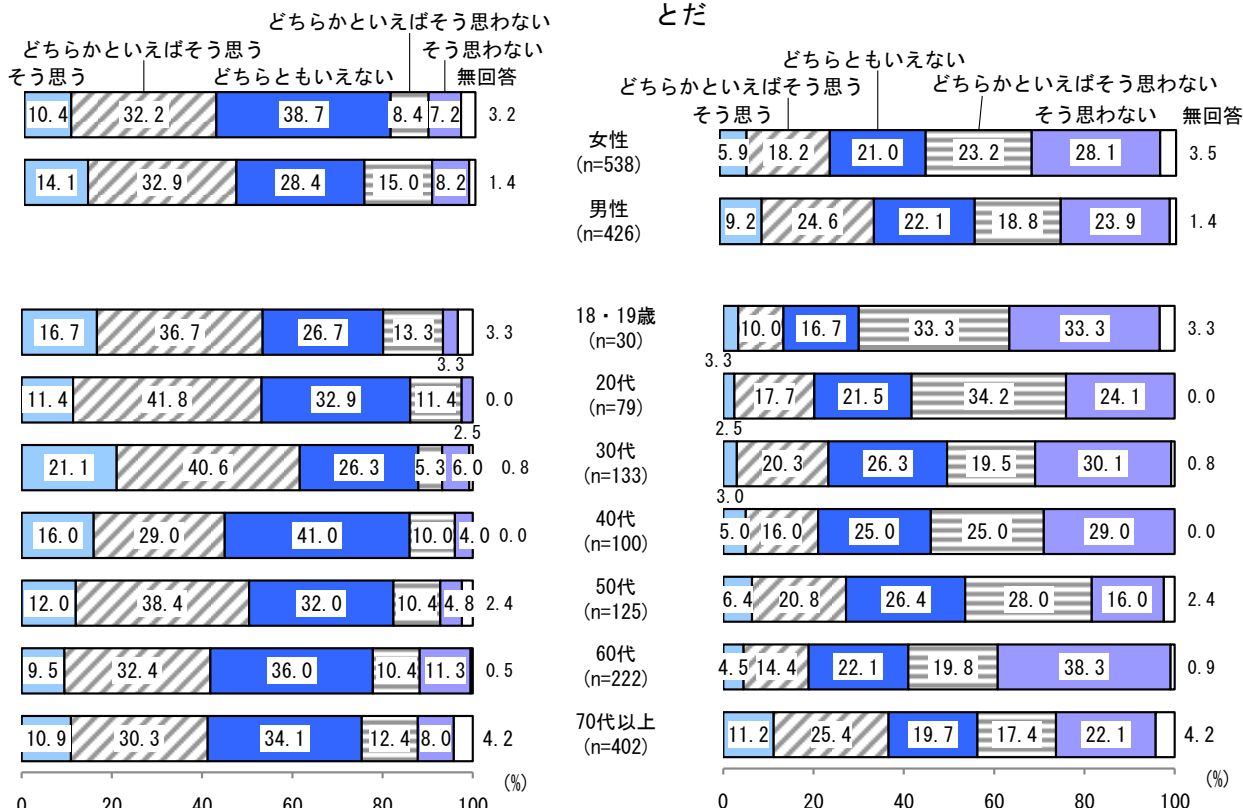


【図 17-1-1 性別・年齢別 人権侵害に関することからに対する考え③】

⑨結婚に際して相手が同和地区出身者かどうか調べるのは人権侵害にあたる
 ⑩就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くことは問題だ

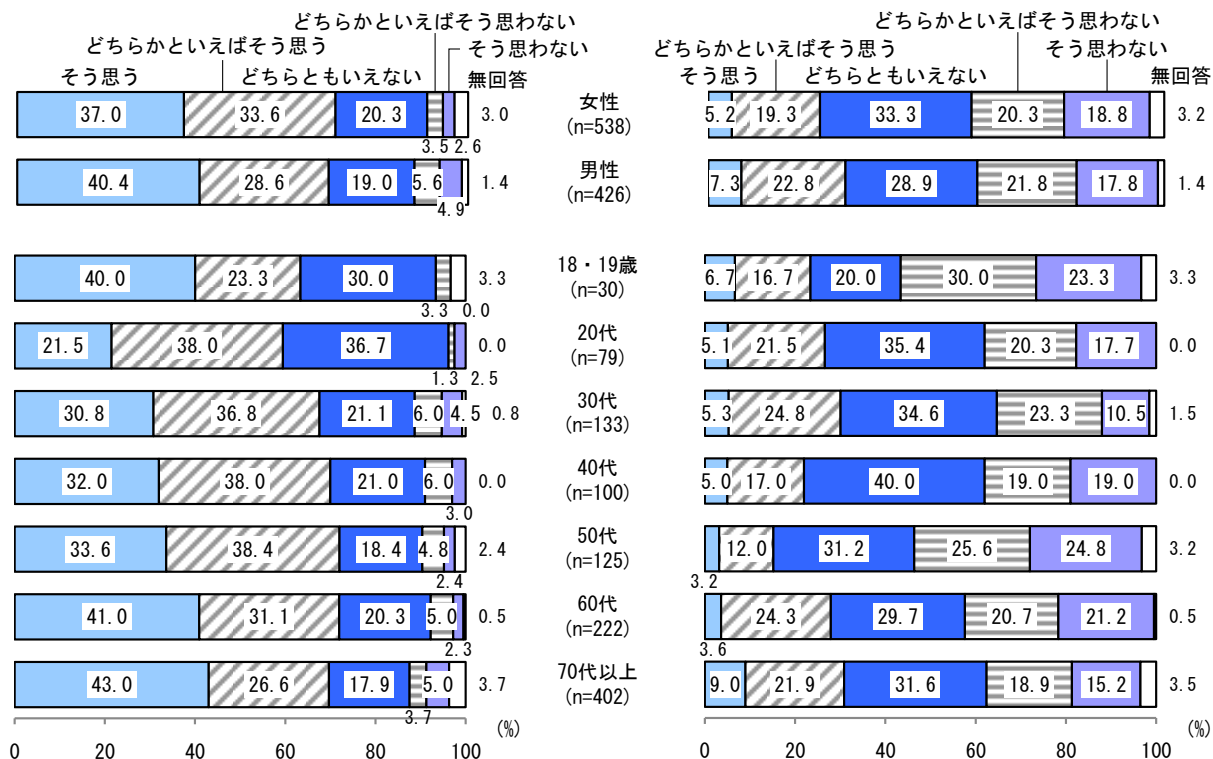


⑪刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないのは、やむを得ないことだ
 ⑫災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになるのは、やむを得ないことだ

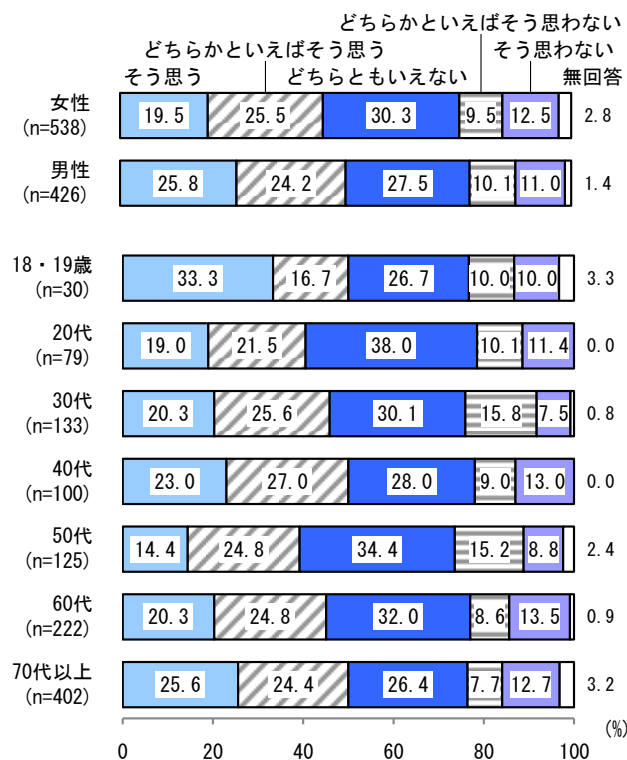


【図 17-1-1 性別・年齢別 人権侵害に関することからに対する考え④】

- ⑬一人暮らしの高齢者であることを理由に賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ
 ⑭障害のある人の就職が困難だったり、労働条件が低くなるのは、やむを得ないことだ



- ⑮カラオケ店や居酒屋などで新型コロナウイルスに感染するのは、感染予防意識の低い人たちで、自業自得といえる



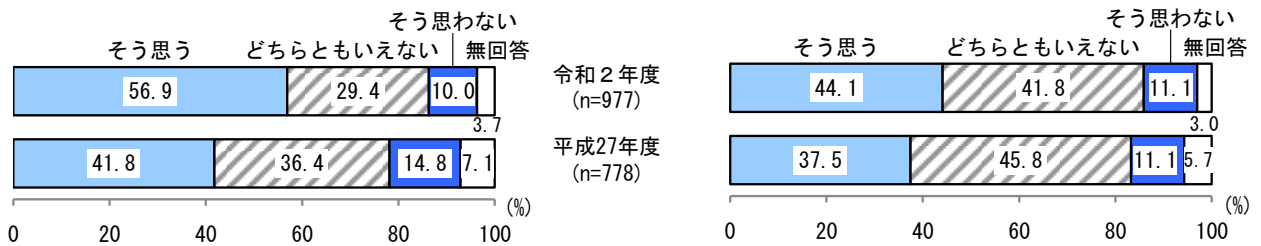
性別でみると、男女差が10ポイント以上ある項目として、男性の割合のほうが高い項目は、“④糖尿病などの生活習慣病になるのは、本人の責任が大きい”で『そう思う』(女性46.1%、男性61.2%)が15.1ポイント差、“⑥在日外国人は、参政権を要求するなら、帰化して日本人になるべきだ”で『そう思う』(女性34.0%、男性55.9%)が11.9ポイント差となっている。

年齢別でみると、若年層のほうが『そう思う』割合で高い傾向にある項目は、“①エイズウイルス感染を理由に雇用しないのは、働く権利の侵害である”となっている。

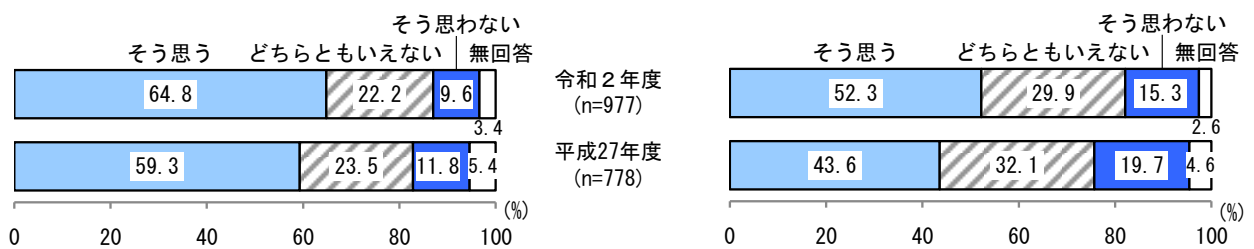
一方、高齢者のほうが『そう思う』割合で高い傾向にある項目は、“②妊娠中の検査で胎児に障害があることが判明した場合、人工妊娠中絶を選択することはやむを得ない”と“⑥在日外国人は、参政権を要求するなら、帰化して日本人になるべきだ”となっている。

【図 17-1-2 経年比較 人権侵害に関することからに対する考え①】

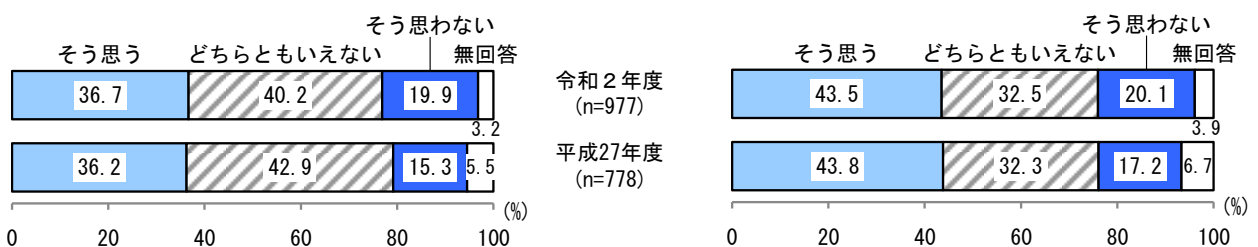
- ①エイズウイルス感染を理由に雇用しないのは、働く権利の侵害である ②妊娠中の検査で胎児に障害があることが判明した場合、人工妊娠中絶を選択することはやむを得ない



- ③障害者が結婚したり子どもを産み育てることに周囲が反対するのは人権侵害である ④糖尿病などの生活習慣病になるのは、本人の責任が大きい

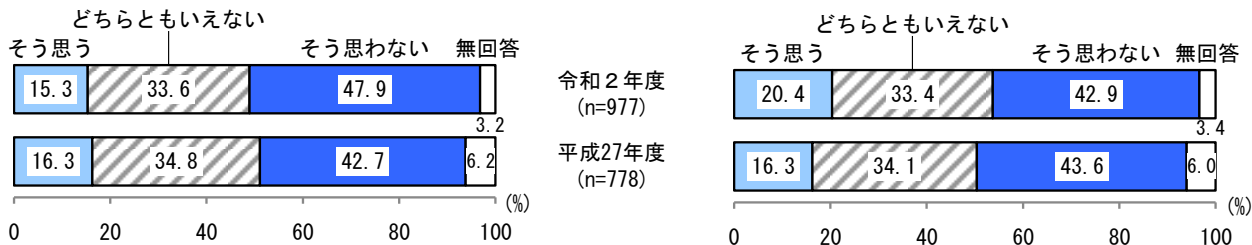


- ⑤ホームレスが公園や河川敷で暮らすのは、不法占拠であり、退去させるべきだ ⑥在日外国人は、参政権を要求するなら、帰化して日本人になるべきだ



【図 17-1-2 経年比較 人権侵害に関することからに対する考え②】

⑦民間の宿泊施設がハンセン病の元患者の宿泊を断るのは、やむをえない ⑧同和地区を含む校区には引っ越したくない



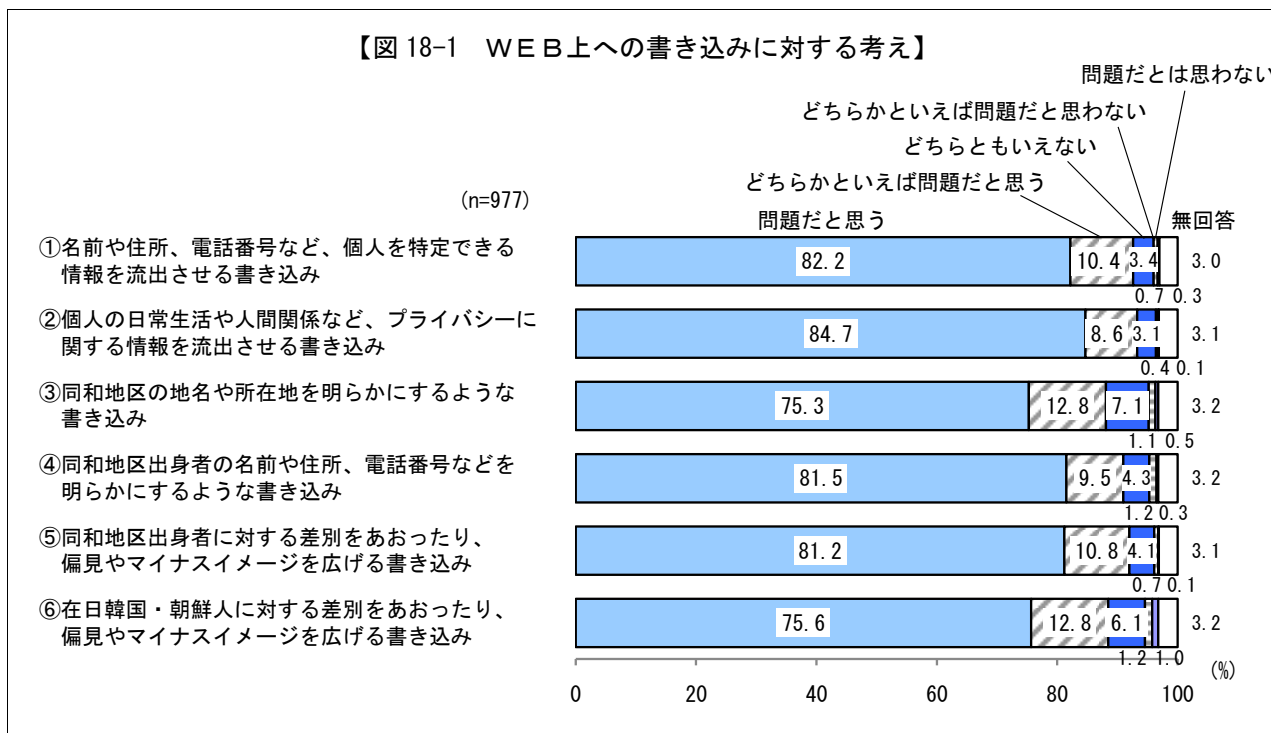
※⑨～⑮は、今回調査の新規項目のため省く。

過去調査と比較すると、『そう思う』割合では、“①エイズウイルス感染を理由に雇用しないのは、働く権利の侵害である”が15.1ポイント増加、“②妊娠中の検査で胎児に障害があることが判明した場合、人工妊娠中絶を選択することはやむを得ない”が6.6ポイント増加、“③障害者が結婚したり子どもを産み育てることに周囲が反対するのは人権侵害である”が5.5ポイント増加、“④糖尿病などの生活習慣病になるのは、本人の責任が大きい”が8.7ポイント増加、“⑧同和地区を含む校区には引っ越したくない”が4.1ポイント増加となっている。

一方、『そう思わない』割合では、“⑤ホームレスが公園や河川敷で暮らすのは、不法占拠であり、退去させるべきだ”が4.6ポイント増加、“⑥在日外国人は、参政権を要求するなら、帰化して日本人になるべきだ”が2.9ポイント増加、“⑦民間の宿泊施設がハンセン病の元患者の宿泊を断るのは、やむをえない”が5.2ポイント増加となっている。

15 WEB上への書き込みに対する考え

問 18 スマートフォンやパソコンなどのインターネット上での次のような書き込みについて、あなたはどのように思いますか。1～6のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○)



WEB上への書き込みに対する考えについて、いずれの項目も「問題だと思う」が7割以上を占めており、「どちらかといえば問題である」を含めると約9割もの人が問題だと感じている。また、「問題だと思う」割合では、“②個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み”が84.7%で最も高く、“③同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み”(75.3%)や“⑥在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み”(75.6%)と比べて9ポイントほど上回っている。このように、同和地区の地名や所在地を明らかにしたり、在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込みよりも、プライバシーが流出するほうが問題であるとする市民が9ポイントとはいえ、みられることは人権啓発の課題だと言える。

【表 18-1-1 性別・年齢別 WEB上への書き込みに対する考え①】

- ①名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み ②個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み

		(上段：人、下段：%)						
		全体	問題だ と思う	どちらか かといえ ば問題	どちら ともい えない	ど ち ら か と い え ば 問 題	問 題 だ と は 思 わ な い	無 回 答
性別	女性	538 100.0	447 83.1	53 9.9	17 3.2	3 0.6	1 0.2	17 3.2
	男性	426 100.0	352 82.6	49 11.5	16 3.8	4 0.9	2 0.5	3 0.7
年齢別	18・19歳	30 100.0	24 80.0	3 10.0	3 10.0	-	-	-
	20代	79 100.0	67 84.8	6 7.6	5 6.3	1 1.3	-	-
	30代	133 100.0	117 88.0	12 9.0	3 2.3	-	1 0.8	-
	40代	100 100.0	93 93.0	5 5.0	2 2.0	-	-	-
	50代	125 100.0	109 87.2	11 8.8	4 3.2	1 0.8	-	-
	60代	222 100.0	200 90.1	18 8.1	3 1.4	1 0.5	-	-
	70代以上	402 100.0	300 74.6	59 14.7	18 4.5	4 1.0	3 0.7	18 4.5

		(上段：人、下段：%)						
		全体	問題だ と思う	どちらか かといえ ば問題	どちら ともい えない	ど ち ら か と い え ば 問 題	問 題 だ と は 思 わ な い	無 回 答
性別	女性	538 100.0	460 85.5	40 7.4	18 3.3	2 0.4	1 0.2	17 3.2
	男性	426 100.0	365 85.7	44 10.3	12 2.8	2 0.5	-	3 0.7
年齢別	18・19歳	30 100.0	20 66.7	6 20.0	4 13.3	-	-	-
	20代	79 100.0	63 79.7	9 11.4	5 6.3	2 2.5	-	-
	30代	133 100.0	115 86.5	9 6.8	8 6.0	-	1 0.8	-
	40代	100 100.0	93 93.0	5 5.0	2 2.0	-	-	-
	50代	125 100.0	114 91.2	6 4.8	4 3.2	1 0.8	-	-
	60代	222 100.0	204 91.9	16 7.2	1 0.5	1 0.5	-	-
	70代以上	402 100.0	319 79.4	46 11.4	16 4.0	1 0.2	1 0.2	19 4.7

- ③同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み ④同和地区出身者の名前や住所、電話番号などを明らかにするような書き込み

		(上段：人、下段：%)						
		全体	問題だ と思う	どちらか かといえ ば問題	どちら ともい えない	ど ち ら か と い え ば 問 題	問 題 だ と は 思 わ な い	無 回 答
性別	女性	538 100.0	415 77.1	60 11.2	39 7.2	5 0.9	1 0.2	18 3.3
	男性	426 100.0	319 74.9	64 15.0	30 7.0	6 1.4	4 0.9	3 0.7
年齢別	18・19歳	30 100.0	26 86.7	2 6.7	1 3.3	1 3.3	-	-
	20代	79 100.0	62 78.5	7 8.9	9 11.4	-	1 1.3	-
	30代	133 100.0	99 74.4	20 15.0	11 8.3	1 0.8	2 1.5	-
	40代	100 100.0	83 83.0	8 8.0	8 8.0	-	1 1.0	-
	50代	125 100.0	100 80.0	11 8.8	12 9.6	2 1.6	-	-
	60代	222 100.0	171 77.0	34 15.3	14 6.3	3 1.4	-	-
	70代以上	402 100.0	289 71.9	59 14.7	28 7.0	4 1.0	2 0.5	20 5.0

		(上段：人、下段：%)						
		全体	問題だ と思う	どちらか かといえ ば問題	どちら ともい えない	ど ち ら か と い え ば 問 題	問 題 だ と は 思 わ な い	無 回 答
性別	女性	538 100.0	444 82.5	49 9.1	19 3.5	7 1.3	2 0.4	17 3.2
	男性	426 100.0	350 82.2	44 10.3	22 5.2	5 1.2	1 0.2	4 0.9
年齢別	18・19歳	30 100.0	26 86.7	2 6.7	1 3.3	1 3.3	-	-
	20代	79 100.0	66 83.5	7 8.9	6 7.6	-	-	-
	30代	133 100.0	114 85.7	13 9.8	4 3.0	1 0.8	1 0.8	-
	40代	100 100.0	88 88.0	7 7.0	5 5.0	-	-	-
	50代	125 100.0	109 87.2	7 5.6	7 5.6	2 1.6	-	-
	60代	222 100.0	192 86.5	22 9.9	6 2.7	1 0.5	-	1 0.5
	70代以上	402 100.0	305 75.9	49 12.2	19 4.7	7 1.7	3 0.7	19 4.7

【表 18-1-1 性別・年齢別 WEB上への書き込みに対する考え②】

⑤同和地区出身者に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み
 ⑥在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み

		(上段：人、下段：%)						
		全体	問題だ と思う	ど ち ら か と い え ば 問 題 だ と 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば 問 題 だ と 思 わ な い	問 題 だ と は 思 わ な い	無 回 答
性別	女性	538 100.0	446 82.9	49 9.1	23 4.3	3 0.6	-	17 3.2
	男性	426 100.0	345 81.0	57 13.4	16 3.8	4 0.9	1 0.2	3 0.7
年齢別	18・19歳	30 100.0	26 86.7	2 6.7	1 3.3	1 3.3	-	-
	20代	79 100.0	65 82.3	9 11.4	5 6.3	-	-	-
	30代	133 100.0	112 84.2	12 9.0	6 4.5	2 1.5	1 0.8	-
	40代	100 100.0	86 86.0	9 9.0	5 5.0	-	-	-
	50代	125 100.0	105 84.0	11 8.8	8 6.4	1 0.8	-	-
	60代	222 100.0	190 85.6	26 11.7	6 2.7	-	-	-
	70代以上	402 100.0	313 77.9	49 12.2	17 4.2	3 0.7	1 0.2	19 4.7

性別でみると、女性の「問題だと思う」割合では“②個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み”が85.5%で最も高くなっており、最も低い“③同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み”(77.1%)と比べると8.4ポイント上回っている。また、男性の「問題だと思う」割合でも“②個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み”が85.7%で最も高くなっており、最も低い“⑥在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み”(72.5%)と比べると13.2ポイント上回っている。

年齢別でみると、「問題だと思う」割合では“②個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み”は18・19歳が最も低く、それ以外の項目は70代以上が最も低くなっている。

以下では、“①名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み”と“②個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み”を『個人に関する情報を流出させる書き込み』と言い、“③同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み”や“④同和地区出身者の名前や住所、電話番号などを明らかにするような書き込み”、“⑤同和地区出身者に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み”、“⑥在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み”の4つを『差別につながる書き込み』と言うこととする。年齢別にみると、大きな差はないとはいえ、18・19歳では『個人に関する情報を流出させる書き込み』よりも『差別につながる書き込み』のほうが「問題だと思う」割合がやや高くなっている。逆に、30代・40代・60代では『差別につながる書き込み』よりも『個人に関する情報を流出させる書き込み』のほうが「問題だと思う」割合がやや高くなっている。

資料編(調査票様式)

調査票見本『令和2年度宮津市人権に関する市民意識調査』

令和2年度

宮津市人権に関する市民意識調査のお願い

日頃は、本市の人権教育及び人権啓発活動の推進にご協力を賜りお礼申し上げます。

宮津市では、人権感覚豊かな社会の実現のため、平成28年3月に「宮津市人権教育・啓発推進計画(第2次)」を策定し、この計画に基づき施策の推進を図っているところです。本年計画の中間年を迎えるにあたり、人権問題に関する市民の皆様の意識調査を行い、今後の人権教育・啓発活動に活かしてまいりたいと考えております。

つきましては、宮津市に在住の18歳以上の市民の中から2,400人の方を無作為に選定し、意識調査を実施することとしております。

この度、あなた様が調査対象に選ばれましたので、調査表を送付させていただいた次第です。

この調査に関する内容は、統計資料として使用し、調査目的以外には決して使用することはありません。また、この調査は無記名で行い、統計的に処理いたしますので、個人に関する情報が他に漏れるようなことは一切ありません。

調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年10月1日

宮 津 市

記入にあたってのお願い

- 1 この調査は、お送りしたあて名のご本人がお答えください。
- 2 回答は、問1から順に各質問ごとに用意した答え（選択肢）の中からあてはまる番号に○をつけてください。○のつけ方については、質問の指示にしたがってください。
- 3 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）の中に具体的にご記入ください。
- 4 調査票は、無記名のまま同封の返信用封筒に入れて、10月25日までに切手を貼らずにご投函ください。
- 5 この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

〒626-8501 宮津市字柳縄手 345-1 宮津市市民部市民課人権啓発係
電 話 0772-45-1615
F A X 0772-25-1961



宮津市キャラクター
「なみちゃん」

問1 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。該当するものをいくつでもあげてください。

1 女性	2 子ども
3 高齢者	4 障害者
5 部落差別（同和問題）	6 アイヌの人々
7 外国人	8 HIV感染者等
9 ハンセン病患者・回復者等	10 刑を終えて出所した人
11 犯罪被害者等	12 インターネット上の人権侵害
13 北朝鮮当局によって拉致された被害者等	14 ホームレス
15 性的指向・性自認（LGBT）	16 人身取引（性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引）
17 東日本大震災に伴う人権問題	18 その他（ ）
19 関心がない	

問2 法律についてお尋ねします。

(1) あなたは、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」を知っていますか。（1つに○）

1 知っている	2 法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない	3 知らない
---------	-----------------------------	--------

(2) あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていますか。（1つに○）

1 知っている	2 法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない	3 知らない
---------	-----------------------------	--------

(3) あなたは、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」を知っていますか。（1つに○）

1 知っている	2 法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない	3 知らない
---------	-----------------------------	--------

問3 あなたは、部落差別の問題に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがありますか。（1つに○）

1 インターネットを利用したことがない	} 問5へ進む
2 インターネットを利用しているが、見たことがない	
3 見たことがある → 問4へ進む	

問4 問3で「3 見たことがある」を選択された方にお尋ねします。どのような内容のものを見ましたか。

（○はいくつでも）

1 個人を名指した悪口	2 個人を名指ししない、集団に対する悪口	3 同和地区名の公表
4 差別の呼びかけ	5 その他（ ）	

問5 あなたは、交際相手や結婚相手が、同和地区の出身者であるか否か気になりますか。既婚の方は、未婚であると仮定して回答してください。（1つに○）

1 気になる	2 気にならない	3 わからない
--------	----------	---------

問6 あなたは、求人に対する応募者や職場の同僚が、同和地区の出身者であるか否か気になりますか。（1つに○）

1 気になる	2 気にならない	3 わからない
--------	----------	---------

問7 世の中のあり方や人間関係について次のような考え方がありますが、あなたはどのように思われますか。

1～8のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○）

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1 自己主張の強い人は、最終的には損をする。	1	2	3	4 5
2 家柄や家の格は、今の世の中においても大切にすべきである。	1	2	3	4 5
3 長男には他の子どもと違う特別な役割がある。	1	2	3	4 5
4 生活上の問題をかかえているのは、結局本人の努力が足りないからだ。	1	2	3	4 5
5 差別する人だけでなく、差別される人の側にも問題がある。	1	2	3	4 5
6 人間の社会には差別はつきもので、なくすことは無理である。	1	2	3	4 5
7 マスコミや行政が人権問題を騒ぎ過ぎている。	1	2	3	4 5
8 同和問題は時間が解決してくれるので、そっとしておくのがよい。	1	2	3	4 5

問8 人権侵害についてお尋ねします。

(1) あなたは、これまで、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。（1つに○）

1 思ったことはない	} 問9へ進む
2 よく覚えていない	
3 答えたくない	
4 思ったことがある	→ (2)(3)へ進む

(2) 問8(1)で「4 思ったことがある」を選択された方にお尋ねします。

それはどのような場合ですか。（○はいくつでも）

1 あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	2 名誉・信用のき損、侮辱
3 プライバシーの侵害	4 暴力、脅迫、強要暴力
5 差別的取扱い	6 地域社会での嫌がらせ
7 学校でのいじめ	8 セクシュアル・ハラスメント
9 パワー・ハラスメント	10 職場での嫌がらせ
11 児童虐待	12 ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）
13 その他（ ）	

(3) 問8(1)で「4 思ったことがある」を選択された方にお尋ねします。

そのとき、どのようにされましたか。（○はいくつでも）

1 黙って我慢した	2 身近な人に相談した	3 市議会議員などに相談した
4 相手に抗議した	5 市役所に相談した	6 法務局や人権擁護委員に相談した
7 弁護士に相談した	8 警察に相談した	9 その他（ ）

問9 日本には古くからいろいろな因習やしきたりがありますが、あなたは次のことがらについてどのように思われますか。1～5のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○）

	当然のこと である	どちらかといえば 当然だと思う	どちらかといえば くない	どちらかといえば 間違っている	間違っている
1 結婚相手を決めるときは、家柄や血筋にこだわる。	1	2	3	4	5
2 結婚の前には身元調べをする。	1	2	3	4	5
3 結婚式は、「大安」の日を選ぶ。	1	2	3	4	5
4 葬式は、「友引」の日を避ける。	1	2	3	4	5
5 葬式には、清め塩を出す。	1	2	3	4	5

問10 あなたは、ここ5年間くらいの中に、同和問題に対して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。（1つに○）

1 同和地区の人（子ども）とは付き合っては（遊んでは）いけない。	} (2) (3) へ進む
2 同和地区の人とは結婚してはいけない。	
3 同和地区の人は怖い。	
4 同和地区の人は無理難題を言う。	
5 同和地区は、治安が悪い。	
6 住宅を購入する際、同和地区の物件を避けたほうがいい。	
7 聞いたことはない。 →問11へ進む	

(2) 問10で「1」～「6」を選んだ方にお聞きします。

それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。（1つに○）

1 家族	2 親戚	3 近所の人	4 友人	5 職場の人
6 知らない人	7 その他（ ）			

(3) 問10で「1」～「6」を選んだ方にお聞きします。

それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。（1つに○）

1 そのとおりに思った。
2 反発・疑問を感じることなく、そういう意見もあるのかと思った。
3 反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった。
4 反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた。
5 特に何も思わなかった。

問 14 国際化時代の今日、海外から多くの外国人が日本にきていますが、あなたはどのように思われますか。
1～5のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○）

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1 外国人労働者をどんどん受け入れるべきである。	1	2	3	5
2 外国人労働者が増えると、日本人の労働の場が奪われることになる。	1	2	3	5
3 不法就労者は労働条件や取締りにおいて人権が侵害されても仕方がない。	1	2	3	5
4 外国人労働者が増えると、治安や風紀が乱れてよくない。	1	2	3	5
5 外国人を親に持つ子どもは、日本の文化に適應するよう努力するべきだ。	1	2	3	5

問 15 あなたは次に掲げた子どもの人権に関する意見や考え方について、どのように思われますか。
1～5のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○）

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1 言うことを聞かないといって、親が子どもを叩いたりしてしつけることは許されない。	1	2	3	5
2 教師が児童生徒を叩いたりすることは許されない。	1	2	3	5
3 いじめは、いじめる子どもだけでなく、いじめられる子どもにも問題がある。	1	2	3	5
4 親が子どもの様子を知るためでも、子どもの日記やメールなどを見るべきではない。	1	2	3	5
5 不登校は、本人が努力すれば克服できる。	1	2	3	5

問 16 次の1～6について、憲法によって義務ではなく国民の権利として決められているものはどれだと思いますか。
いくつでもあげてください。

1 思っていることを世間に発表する。	2 税金を納める。	3 目上の人に従う。
4 道路の右側を歩く。	5 人間らしい暮らしをする。	6 労働組合をつくる。
7 わからない。		

問17 次に掲げることがらについて、あなたはどのように思われますか。1～15 のすべてについてお答えください。
（それぞれ1つに○）

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1 エイズウイルス感染を理由に雇用しないのは、働く権利の侵害である。	1	2	3	4	5
2 妊娠中の検査で胎児に障害があることが判明した場合、人工妊娠中絶を選択することはやむを得ない。	1	2	3	4	5
3 障害者が結婚したり子どもを産み育てることに周囲が反対するのは人権侵害である。	1	2	3	4	5
4 糖尿病などの生活習慣病になるのは、本人の責任が大きい。	1	2	3	4	5
5 ホームレスが公園や河川敷で暮らすのは、不法占拠であり、退去させるべきだ。	1	2	3	4	5
6 在日外国人は、参政権を要求するなら、帰化して日本人になるべきだ。	1	2	3	4	5
7 民間の宿泊施設がハンセン病の元患者の宿泊を断るのは、やむをえない。	1	2	3	4	5
8 同和地区を含む校区には引っ越したくない。	1	2	3	4	5
9 結婚に際して相手が同和地区出身者かどうか調べるのは人権侵害にあたる。	1	2	3	4	5
10 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くことは問題だ。	1	2	3	4	5
11 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないのは、やむを得ないことだ。	1	2	3	4	5
12 災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになるのは、やむを得ないことだ。	1	2	3	4	5
13 一人暮らしの高齢者であることを理由に賃貸住宅への入居が拒否されることは問題だ。	1	2	3	4	5
14 障害のある人の就職が困難だったり、労働条件が低くなるのは、やむを得ないことだ。	1	2	3	4	5
15 カラオケ店や居酒屋などで新型コロナウイルスに感染するのは、感染予防意識の低い人たちで、自業自得といえる。	1	2	3	4	5

問 18 スマートフォンやパソコンなどのインターネット上でのつぎのような書き込みについて、あなたはどのように思いますか。1から6のすべてについてお答えください。（それぞれ1つに○）

	問題だと思う	どちらかといえば問題だと思う	どちらかといえは問題だと思わない	問題だと思わない
1 名前や住所、電話番号など、個人を特定できる情報を流出させる書き込み	1	2	3	5
2 個人の日常生活や人間関係など、プライバシーに関する情報を流出させる書き込み	1	2	3	5
3 同和地区の地名や所在地を明らかにするような書き込み	1	2	3	5
4 同和地区出身者の名前や住所、電話番号などを明らかにするような書き込み	1	2	3	5
5 同和地区出身者に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み	1	2	3	5
6 在日韓国・朝鮮人に対する差別をあおったり、偏見やマイナスイメージを広げる書き込み	1	2	3	5

◎最後にあなたご自身のことについてお聞きします。この調査を統計的に集計し分析するのに必要ですので、ご回答ください。（あてはまる番号に○）

1 あなたの性別は。

- (1) 女 (2) 男 (3) その他

2 あなたの年齢は。

- (1) 18・19歳 (2) 20代 (3) 30代 (4) 40代
 (5) 50代 (6) 60代 (7) 70代以上

◎よろしければ、人権問題に関して、あなたのお考えやご要望を自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

記入漏れがないか再度お確かめの上、返信用の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。



人権に関する市民意識調査 報告書

令和3年3月

編集・発行 宮津市

〒626-8501 宮津市字柳縄手345-1

電話 0772-45-1615 / Fax 0772-25-1691
